

3

5

天地組織之原理

美甘 政知 著
第一冊

014416-001-7

3-5

天地組織之原理

美甘 政知/著

1冊

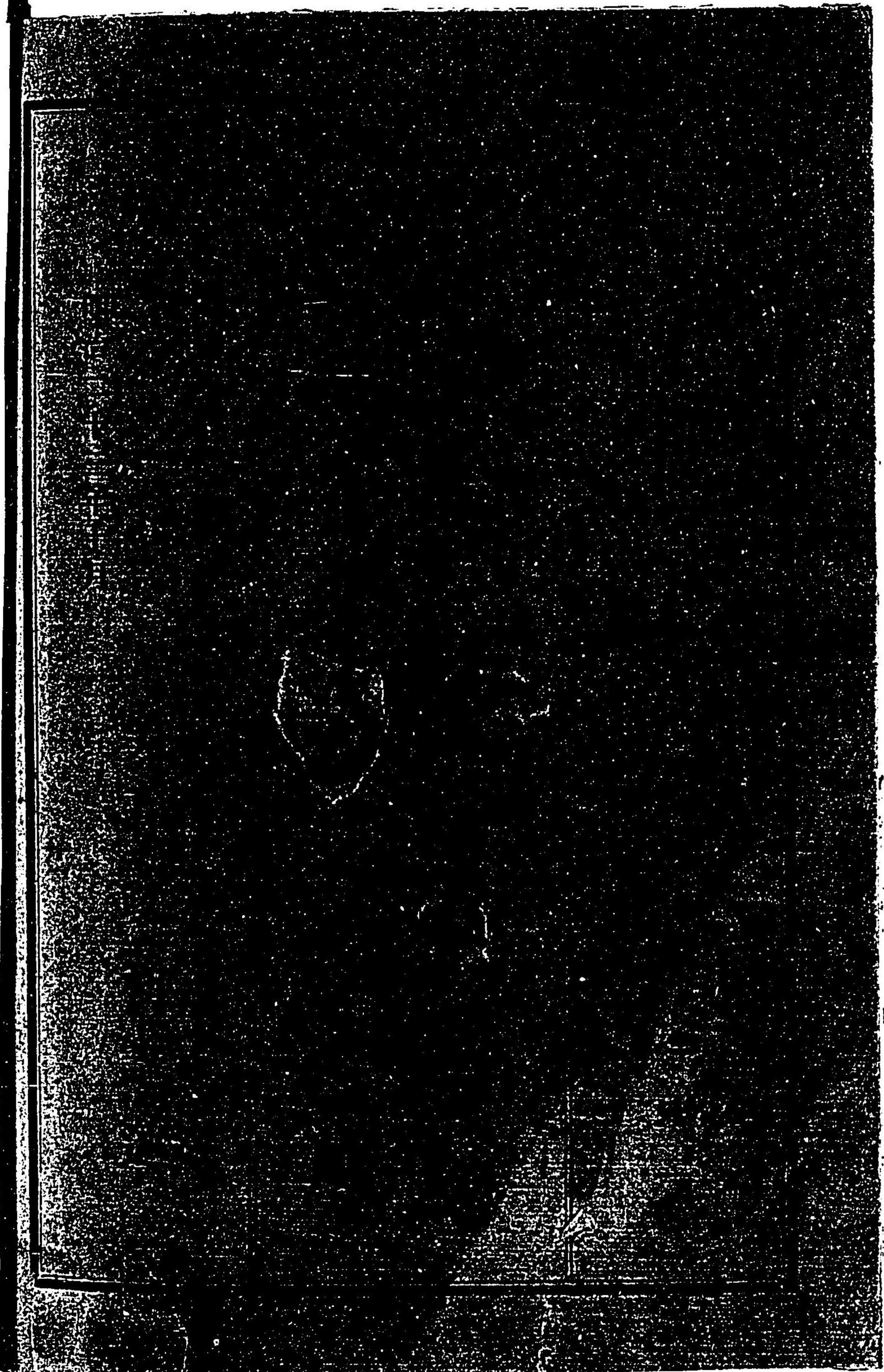
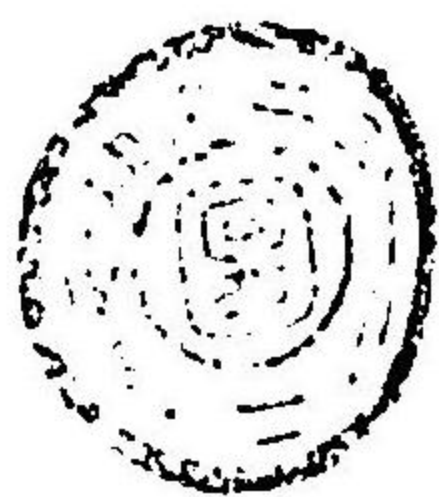
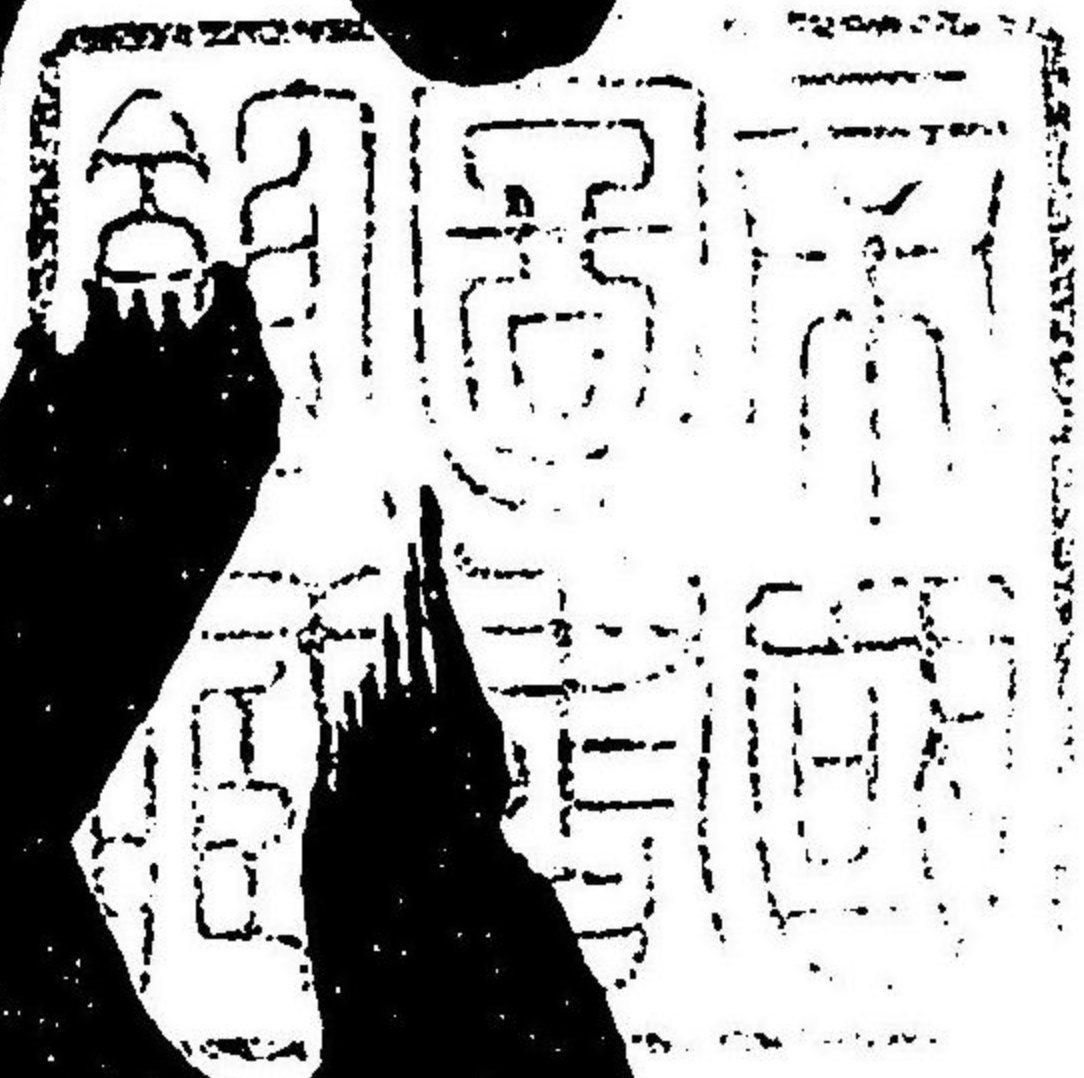
M23-25

ABB-0787





武



東人書
東人書

東人書

東人書
東人書



新

獨

比

天

真満弓

書

前ニ掲クル所ノ題字ハ嵯峨ノ院ノ寶庫ニ藏スル
和氣清麿公ノ眞筆ナルヲ故有テ本國舊津山藩ノ
儒臣鞍懸氏ガ臨寫シテユレテ上梓レ御維新ノ際
勸王ノ諸氏ニ頒ナタルモノナリ勸王無二ノ公ノ
眞跡ト云ヒ短簡ノ一語能ク道義ヲ貫キ筆跡モ亦
高雅ニシテ往昔ヲ追懷スルノ情止メカタク再ヒ
ユレテ臨寫シテ卷首ニ掲ゲ諸氏ト其感ヲ同フセ
ント欲ス

篤胤

海はしらの海

事終志願入

ま乃下の

物志願入也

ぬひり

新羅のし

前ニ掲クル所ノ和歌ハ先哲平田篤胤大人ノ染筆ニシテ門人大田朝恭ニ授與セラレタル久延毘古神々像ノ賛歌ナルヲ故有テ當今余ガ所藏スル所トナレリ余ハ此神像ヲ得タル時ヨリ頓ニ神典研究ノ着眼一變シ終ニ本講ヲ成スニ至リタレバ自ラ感ズル所アルヲ以テ臨寫シテコレヲ卷首ニ掲ク

久延毘古の神の幸ひをうけ得つゝ

尋ねる人のあらはこたへん

後學 政和謹識

緒言

夫レ人ハ天地ノ間ニ生テ稟ケテ天地ノ間ニ生活スルモノナリ故ニ政治ニ教法ニ凡百ノ事皆天地造化ノ原理ニ法トラザルベカラズ然ルニ其天地ノ間ニ住スル人トシテ此天地ハ開闢ノ始メ如何ナル理由アリテ如何ナル組織ニ成リタルモノト云フ大原理ヲ發見セザル間ハ假令天文地理ノ學科ニヨリテ今日ノ現象ヲ見ルノ眼アリト雖モ未ダ眞ノ文明ヲ稱フルコトハ許スベカラザルモノナリ然レバ何等ノ學科ニ就テコレヲ求メシカ各國共ニ多少天地開闢ノ傳ヘ無キニハ非ザレ共未ダ道理ニ訴ヘテ全ク信ヲ措ベキ説アルヲ聞カズ獨リ吾日本帝國ハ開闢以來萬世一系ノ皇位ナルヲ以テ國體ト共ニ天地開闢ヨリ神世ノ遺傳ヲ存スルモノ他各國ノ比ニ非ズ故ニ天地組織造化ノ原理ヲ求メント欲スレバ吾大古ノ傳説ヲ除キ他ニコレヲ求ムベキモノ無シ然レバ文化日新ノ今日吾神國ニシテ最モ講ズベキハ神典ニ非ズシテ何ツヤ偶々本居平田兩先哲ノ説アリト雖モ先哲在世ノ昔日ニ在テハ本傳ノ講究未ダ創業ノ際講ヲラレタルモノニシテ本辭解釋ノ如キハ盡サレタリト雖大綱ノ眞理ヲ論シラレタルニ

至テハ共説ヲ改ムルニ非レバ適セザルモノ無キニ非ズ是吾神典ノ
世ニ行ハレント欲シテ未ダ盛ンニ行ハレザル所以ナリ政和尙有ナ
リト雖モ天地組織之原理ヲ發見セント欲シテ神典ノ明文ニ隨ヒ道
理ニ訴ヘテコレヲ講究シ天地分判ノ眞理ハ紫ヨリ地球海底内部ノ
組織如何ノ原理且太古ノ天象ト現今ノ天象ニ一大變革ノアリシ理
由ヲ始メテ政治道學其他萬物ノ因テ起ル所ノ原則ニ至ル迄聊發見
シタリト自信スルモノアルヲ以テ同學ト他學トヲ論セス遍ク世ノ
織者ニ質シ其教ヲ受ケンガ爲メコ、ニ自家發見ノ説ヲ擧ゲテ天地
組織之原理五卷附錄壹卷ヲ著ハス織者幸ヒニ其誤リヲ叱正シテ益
々眞理蓋奥ヲ窺ヒ内外人ノ別無ク之レヲ信スルニ至ラシメテナ
怨望ノ至リニ堪ヘザルナリ

共 二

吾大日本帝國ヲシテ太古ヨリ神國ト稱フルハ凡ソ日本ノ國土ニ生
ヲ稟ケタル人トシテ知ラザルモノ有ベカラス然レバ何ガ故ニ吾國
ヲ神國ナリト稱フト問ハ、何等ノコトヲ以テコレニ答ヘントスルカ
必スヤ太古神世ニアリテ神祇此國土ヲ經營シ玉ヒ天祖皇孫ニ勅リ

シテ降臨座ヤシメ玉ヒ爾來萬世一系ノ皇位ニシテ君臣共ニ神世
ヨリ連綿相承ノ國ナルガ故ナリト答フルナルベシ然ルニ近時ニ至
リテハ時弊ニ流カレ其神國タル所以ヲ忘ル、モノ多キガ如シコレ
吾國體ニ於テ大害ノ兆ナリ如何トナレバ時流者偶マ吾神典ヲ一讀
スルモ其意ノ解スベカラザルヲ以テ匆卒一言ノ下トニ論ヲテ曰ク
吾神典ニ所謂諸冊兩神國生ノ傳ハ全ク上古男女兩人始メテ吾日本
ノ國土ヲ發見シ其荒蕪ノ地ヲ開拓シタル經營ノ事業ヲ國生ト云ヒ
傳ヘタルニ過キスト論ヲ或ハ兩神國生ノ傳ハ國民ヲ生ムヲ云ヘル
モノナリト説キ又或ハ神典ナルモノハ上古ノ小説ニシテ譬喩ヲ以
テ作爲シタルモノニテ彼ノ倭藤太秀郷ガ蜈蚣山ノ昔噺シニ類スル
モノナリト評シ甚シキニ至テハ神典ナルモノハ上古ノ英雄ガ奇事
ヲ説テ神ニ托シ野蠻ノ民ヲ治ムルノ具ニ用ヒタル策略ノ書ナリト
云フニ至ル前三者ノ如キハ太古ノ傳説ヲ見ルノ具眼無キモノトシ
テ暫クコレヲ恕スルモ英雄愚民ヲ治ムルノ具ニ用ヒタル作爲ナリ
ト云フニ至リテハ歴世天皇ノ御德化ニ關スルモノニシテ不俱戴天
敷スベカラザル放言ナリ如斯妄説行ハル、今日ナルガ故ニ自ラ神

國ノ臣民タルヲ忘レ終ニ其心意ヲ問ヘハ外人ト異ナルヲ無キニ至ル今ニシテ此弊ヲ矯正セスンハ吾一系正統ノ皇位ハ日本ノ習慣ナリトシテ君臣ノ大義モ只ニ習慣ト法律ノ上ニ存シテ精神ノ上ニ存セザルニ至ラン此惡弊ヲシテ漸々養生スレバ眼前ニ大害無キモ終ニハ神世相承ノ國体ニ大害ヲ及ホシ如何トモスベカヲザルニ至ラン恐レ慎テ此弊ヲシテ未ダ盛ンナラザルノ今日ニ挽回セズンハアルベカラス其コレヲ挽回セント欲スルノ道他ナシ吾神代ノ遺傳ヲ講究シ神典ノ何物タルヲ知ラシムルニアリ余ヤ又神國ノ臣民タルヲ以テ壯年ノ頃ヨリ本居平田兩先哲ノ遺教ヲ奉リ神代ノ遺傳ヲ講究間々論スベキ所アルヲ以テ止ムヲ得ス此講述ヲ成スニ至リシナリ

其三

曩ニ本居平田兩先哲記史兩傳ノ著述アリシニヨリテ余ガ如キモ聊カ神典ノ真理ヲ窺フ端緒ヲ得タルハ全ク先哲ノ賜モノナリ然ルニ兩先哲ノ説ト雖モ未ダ時運ノ熟セザル昔日ニアリテ神典ノ講究ハ創業ノ際ナルヲ以テ今日ニ至リテハ天地組織ノ大原理ニ於テハ其

説ヲ改メザルヲ得ザルモノアリ故ニ余コレヲ徒弟ニ囑シテ自家ノ意見ヲ筆記セシム記中間々先哲ノ説ニ反スルモノアリト雖モ忌憚スル所無キハ先哲ニ對スルニ不遜ノ憚ハアリト雖モ兩先哲ノ著書中後ノ人ヨク考ヘ正シテヨト幾回カ後學ニ依託シ置レタリユレ則チ先哲ノ遺言ナレハ後學ノ徒ハ必ズ此遺言ニ對スル勉メナカルベカラズ然ルニ後學者多クハ先哲ノ舊説ヲ墨守スルヲ以テ動メトスルカ如キ傾向アルニヨリ偶々神典ヲ講スルモ國學者流ノ名ヲ以テ時流者ニ愚弄セラル、ニ至ルコレ愚弄スルモノ、罪ニアラス同學者勉メザルノ罪ナリ神典ノ講究ニシテ天地ノ真理ニ合スル迄ノ確論アラハ時流者ノ信用ハ勿論洋人ト雖モ亦コレヲ信スルニ至ラン故ニ吾邦人ハ相共ニ天地ニ貫ク真理ヲ發見スルニ至ル迄此傳ヲ講究スベキナリ然レバトヒ先哲ノ説ニ反スルモ其不可トスル所アラバ必スコレヲ論究シ其説ヲ改ムルヲ以テ先哲ノ遺志ヲ繼グモノト云フベシ先哲ノ深意ハ只ニ神典ヲシテ後世益々明カナラシメントスルニアリテ自家ノ説ヲ立ントセラル、モノニ非ザルヲハ凡記史兩傳ヲ拜讀シタル程ノ人ニ於テハ必スコレヲ知ラル、ナラン然

レハ後學者ハ此旨ヲ體シテ益々此傳ヲ講セザルベカラス余モ亦先
 哲ノ遺志ヲ繼ガント欲スルモノナレバ自家ノ說ヲ維持セント欲ス
 ルガ如キ野心アルニ非ス只神典ノ講究ハ舊說ヲ墨守スルニ止マラ
 ザルヲ示シ今ノ時ニ當テ改正ヲ加フベキヲ忠告スルト共ニ余ガ一
 家說ノ叱正ヲ乞ハントスルノ素志ナレバ此筆記ヲ一讀アラソ諸賢
 ハ余ガ說ノ至ラザルヲ補ヒ玉ハルハ勿論其誤リヲ叱正シテ益々神
 典ノ真理蘊奧ヲ窺ヒ先哲後人ニ依託セラレタル遺言ヲシテ空クセ
 ザラシメンコト然ルニ近時世ノ風潮ニ察スルニ神武天皇以後ニ於
 テハ御記ノ講究大ニ振起シ陸續高論卓說ヲ聞クコト得雀躍ノ至リ
 ナリト雖ニ神代ノコトニ至リテハ暫ク措テ問ハザルモノ、如ク偶々
 二三ノ說無キニ非ルモ或ハ言詞ノ細末ヲ論シ或ハ一二ノ考証ヲ舉
 ルニ過ザルモノ多クシテ天地組織ノ大綱ニ至テハ一向先哲ノ說ヲ
 墨守スルニ止ルモノ、如シコ、ニ於テカ偶々兩先哲ノ後學ニ依託
 セシレタル遺言空カラントス慨歎ノ至リニ耐ヘサルナリ見ズヤ近
 時ニ至テハ洋入スラ吾太古ノ傳説ヲ拜讀シコレヲ評シコレニ注解
 ナ加フルニアラズヤ今ニシテ先哲ノ遺志ヲ繼グニアラズンハ何ヲ

以テカ天地組織ノ真理ヲ明カニシ吾國體ノ根據ヲ確メシヤコレ獨
 リ同學者ノヨニ放任スベキニアラズ凡日本臣民タルモノニ於テハ
 何等ノ學派ヲ問ハズ一日モ此傳ヲ購ズルコト忽ニスベカラザルモ
 ノナリ夫菊花ハ千歳ノモノトシ其根ヲ培養無クトモ凋枯ノ愁ヒ無
 キモノト云ハンカコレヲ其根ヲ培養シテ天壤無窮年々歳々ノ盛花
 ナ見ルト何レゾ然ルニ神代ノコト措テ問ハザルハ根ヲ斷テ國體ヲ
 插花ダラシムルニ異ナラズコ、ニ人アリ或ハ云ハン神武天皇以後
 ト雖ニ三千年ノ久シキ習慣アリタトヒ神世ノ事ヲ講セザルモ國體
 ニ於テ何かアラントコレ深ク思ハザルノ甚シキモノト云フベシ習
 慣ノ久シキハ一時ニ變ズベカラズト雖ニ其根ヲ培養セズンハ終ニ
 或ハ凋枯ヲ免ルベカラズ故ニ此時ニ當テ益々國體ノ根原ヲ培養セ
 ズンハアルベカラズ其コレヲ培養セント欲スレバ神代ノ傳ヲ講セ
 ザルベカラズ神代ノ傳ニシテ天地ニ貫ク正論アラバ何ゾ國體ノ尊
 嚴ヲ維持スルニ苦ムコトカアラソ然ルモ尙コレヲ等閑ニ付シ舊說ヲ
 墨守スルニ止ルモノトスレバ到底時流理學ノ爲メニ壓セラレ國體
 ノ起原確カラザルノミニニアラズ吾神道ノ後榮ハ望ムベカラザルニ

至クン天地ト共ニ開ケテ萬世ノ今日ニ貫ク大道ハ獨リ吾神道アル
 ノミ其大道ヲ吾國ニ存スル所以ノモノハ又吾神典アルガ爲メナリ
 故ニ余不肖ヲ顧ミス其眞理ヲ發見セント欲シテ神世ヲ五期ニ別チ
 一家ノ意見ヲ吐露シテ識者ノ訂正ヲ仰ギ併セテ諸家ノ高論ヲ喚起
 セント企テ此不遜ノ言ヲ發スル所以ナリ幸ニ萬怒ヲ乞フ

明治廿二年十二月

美甘政和敬白

○天地組織之原理を講述し其筆記を

先哲の神靈に奉るにつけて

政和

教へ祖の傳への書をしをりにて

たつね入りけり奇しき神路に

八十國に繼て弘めどをしへ置し

大人か言葉そわすれかねつる

書目

● 天地組織之原理

全部五卷
附録壹卷

卷之第一

開關第一期 天地分判 世記之部
物質凝固

卷之第二

開關第二期 神祇彰呈 世記之部
變化玄妙

卷之第三

開關第三期 天地定位 世記之部
種業興基

卷之第四

開關第四期 造化大成 世記之部
幽顯分威

卷之第五

開關第五期 皇孫降臨 世記之部
顯幽通婚

附録

幽中ノ玄妙ヲ示スニ實踐ノ考証ヲ擧ゲ以テ本説ノ
 參考ニ供ス

○附言

此講述ヲ筆記セシムルニ和言ノミヲ用ヒズシテ時流ノ通俗言語ヲ以テスルモノハ一ツハ同學者外ニ見易カラシメントスルニアリ一ツハ冊數ヲ簡ナラシメントスルニアルモノニシテ一時初學ノ爲メ神典研究ノ道ヲ開カントスル問題タルニ過ザルモノナレ共此筆記ヲ以テ暫ク假ニ神典研究ノ原案トシ世ノ識者ニ於テ其採ルベキハコレヲ採リ其修正スベキハコレヲ修正シ然ル後天下一定ノ説トナリシ以上ハ再ビ其修正案ニ基キ先哲ノ兩傳ニ倣ヒ全ク和語ヲ以テ神典ノ通解ヲ成サント欲ス故ニ先ツ其端緒ヲ開カンガ爲メニ此講述ヲ以テ問題ニ備フル迄ノ意見ナレバ此講ニ於テハ只神典大綱至要ノ明文ノミヲ擧ゲテ通解ヲ成サズ故ニ第二期後ニ至テハ大ニ本文ヲ略ケリ然レ共初學ノ人ヲシテ通解ノ思ヒアラシメ遺憾ナカラシメンガ爲メニ古事記神代ノ部ダケハタトヒ明文ヲ擧ゲザルモノト雖モ講究スベキ要點ダケハ全卷トモコレヲ指示シ傍ヲ古事記中大綱ニ關スル至要ノ欠漏アルモノハ日本書紀其他ノ古傳書ヨリ採リテコレヲ補ヒ明文ニ加ヘテ一

家ノ意見ヲ付ス然レ共此書單ニ古事記ヲ以テ本書トスルガ故ニ卷中ニ擧ゲタル明文順次ニ何ニ曰クト云ハザルモノハ古事記ノ明文ト知ラルベシ

○筆記中間々不遜ノ語勢アルモノハ識者ノ一激ヲ喚起シ高論ヲ迎ヘントスル素志ナレバ其言ノ不遜ナルヲ罰スルヲ無ク叱正ノ高論ヲ賜ハランヲ企望ス既ニ諸冊兩神國生ノ傳ノ如キ舊説日本ノミトス余コレヲ萬國ナリト論スルモノハ神傳ノ解釋ヲ改正セントスルニアルノミニ非ズ古傳ノ明文ニ隨テ考フルニ道理ノ然ラザルヲ得ザルモノアルガ爲ナリ吾神道ヲシテ只日本ノモノトスルモ萬國共ニ奉戴スベキモノトスルモ此兩神生産ノ國ナレバ此筆記ニ同感ノ諸賢ハ道ノ爲メ益々此論ヲ助クベキ考証トモ成ルベキ高論ヲ示シ給ハランヲ乞フ

○此書一覽ノ諸賢ニシテ同學ノ先輩ニ於テハ既ニ余ガ説ヲ俟タズ高論アルハ勿論ノヲナレバ單ニ訂正ヲ仰クヲ榮トスル所ナレ共或ハ他學專門又ハ初學ノ諸氏ニ向テハ一言ヲ呈シ置ベキヲア

リ抑モ吾邦太古ノ傳説タル神典ナルモノハ本邦最第一ノ書ナル
トハ吾邦人ノ素ヨリ知ル所ナレ共世ノ學事ニ從事スル人ニ於テ
モ其最第一タル神典ハ終身一度モコレヲ繕カザル人多シ如此習
慣ヲ成シ來リタルモノハ他ナシ中世以降ニ至テハ世ニ職者ヲ以
テ自ラ任スル人ニシテ往々神代ノトハ邈矣ノ一言ニシテコレヲ
止メ敢テ此傳ヲ講究スベキモノトセザリシニ起リ後學モ亦多ク
ハコレヲ度外ニ措キ所謂食ハズシテ其味ヲ嫌フガ如キ傾キアル
ニ至ル偶々兩先哲ノ傳ヲ一見スル人ニ於テモ記史兩傳ノ如キハ
卷數ノ浩翰ナルノヨリ非ズ引書者証等ノ多岐ニ互ルヲ以テ一讀
終ニ氣脈ヲ失ヒ僅ニ開卷ノ始メヲノヨリ一見シタルノヨリ再ヒ
コレヲ繕カザルノ類少カラス余ガ此講述ニ於テモ亦開卷ノ始メ
ノ如キハ邈然タルガ如キ思ヒアルベク且講述ヲ簡短ナラシメン
トスルガ爲ニハ其意ノ盡キ、ル所モ多カラント懸念無キニ非ザ
レ共卷首ノ所ニテハトヒ其意ノ解シガタキモ暫ク忍ンデ第一
期ノ一卷ヲ通讀セラル、ニ於テハ必ズ造化ノ秘蘊ヲ窺フ端緒ヲ
得神典ノ邈然タル書ニ非ザルトナリ自得セラル、ニ至ラント自ラ

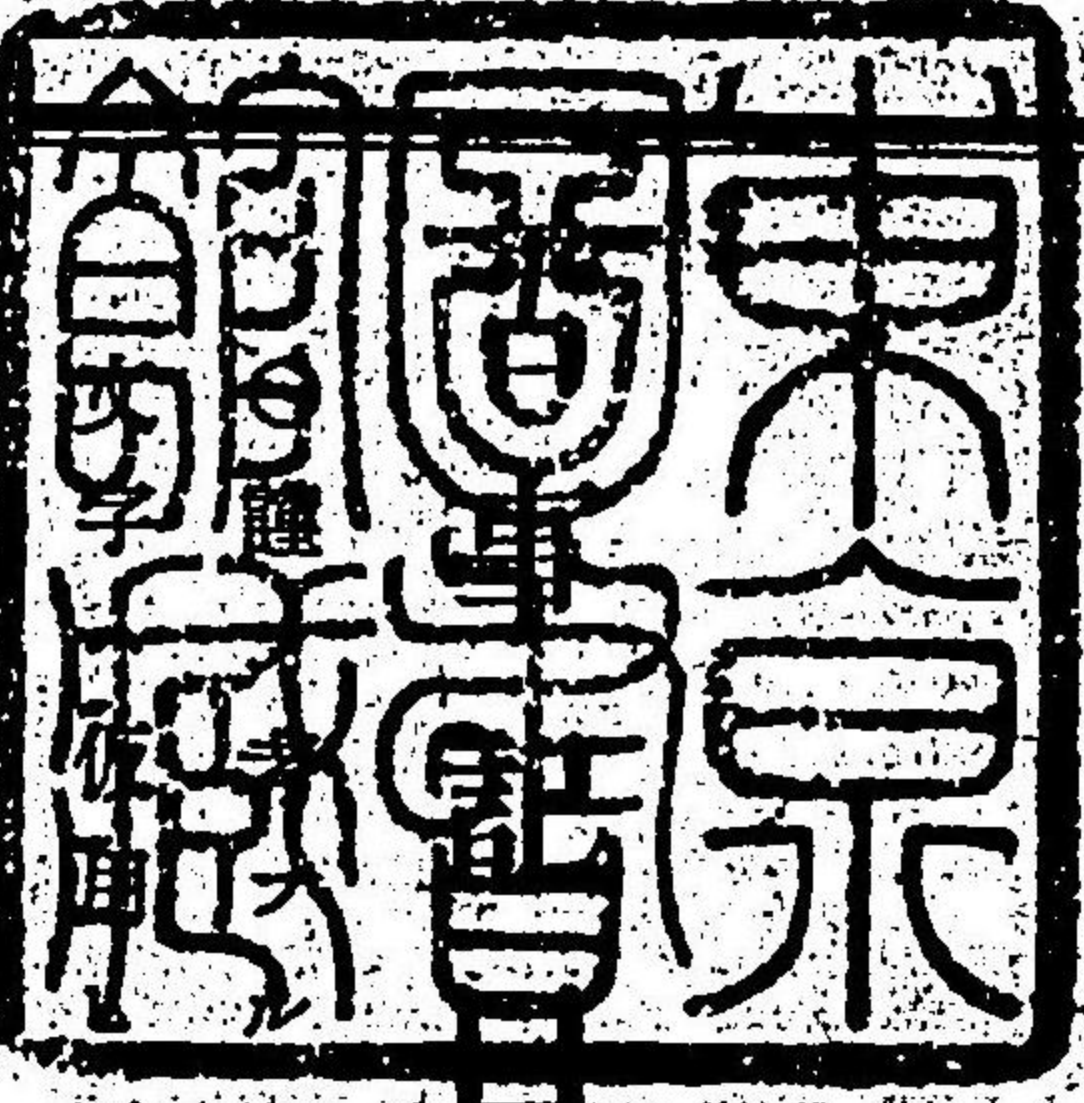
信スル所ナレバ必ズ熟讀ノ上相共ニコレヲ研究シ益々眞理ヲ發
見セシトテ讀者諸君ニ希望ス近時學事ノ盛ナルニ隨ヒ洋人ト
雖モコレヲ講究スルノ時ニ至リ吾邦人ニシテ空ク外邦ノ學事ノ
ミヲ以テ文明ナリト稱スルハ外人ニ對シテ本邦人ノ大ニ恥ベキ
所ニ非ズヤ自ラ省ミテ相共ニ此傳ノ講究ヲ勉メザルベカラザル
ナリ

○此筆記ヲ訂正スルノ際書籍ノ乏シキニヨリ暗記講述ノ儘ニテ
訂正セザルモノ少カラザレバ誤リ無キヲ保シガタキガ故ニ特ニ
讀者ノ叱正ヲ仰グ且此講述ヲ通俗言語ニ筆記セシメタルモノハ
前ニモ辨ヲ置タル通り專ラ他學ノ人ナシテ見易カタシメンガ爲
メ止テ得ザルニ出ルモノナレ共コレガ爲メニ古學ノ正風ヲ失フ
兼ヒアルモノナレバ余モ亦遺憾トスル所ナリ故ニ初學ノ人ニ於
テハ此筆記ヲ一見ノ上粗ボ神典ノ何物タルトナ知ラル、以上ハ
再ヒ本居平田兩先哲ノ傳ニ入り古學ノ正風ヲ學ハレシトテ希望
ス

天地組織之原理卷之第二

開闢第一期 天地分判 物質凝固 世記之部

大日本帝國美作國御民 美甘政和謹啓



天地初發之時

古事記ニ天地初發之時ト語り傳ヘタル天地ト云フ
 傳ハ文字ニ拘ラズ言詞ニテ解クベキハ先哲モ云ヒ置レタル通リナ
 レ共中ニハ文字ノ能ク吾本語ニ合スルモノモ少カラズ故ニ文字ニ
 モ心ヲ付ベキナリ先ツ此あめつちノ本語ニ天地ノ字ヲ用ヒタルナ
 ドモ能ク當リタル文字ノ如クナレ共到底あめつちノ本語ニ由ラザ
 レハ眞理ハ解スベカラザルモノニテ以下ノ傳ヘモ如此モノナレバ
 其心シテ探究アルベシ云フ本語ヲ本居先哲ハ葦萌ノ約

言ニハ非ルカト云ハレ平田先哲ハあめあみト活ク語ニテ天綱ノ意
ナラント解カレ其外ノ説ニ或ハ青見ノ略言ナラント云ヒ或ハ赤見
ノ略言ト云ヒ又ハ明見ノ略言ナラント云ヒ其説一定ナラズ故ニ此
諸説ニ就テ其真ナルモノヲ何レナリト定ムルハ講究ノ旨トスル所
ナレバ先ヅ此天ノ語ヨリ講究スベシ實ハ本講ノ趣意トスル所ハ本
居平田兩先哲ノ説ヲ本トシテ余ガ神典講究中ニ發明シタル意見ト
兩先哲ノ説ト大ニ異ナル所アルヲ以テ世ノ識者ニユレテ質ヤシガ
爲ニ忌憚ナク先哲ノ説ニ反スル一家ノ講究説ヲ講ズルヲ旨トスル
ヲ以テ言詞ノ解所謂語釋ノ如キハ多クハ之ヲ略シ他學ノ人ニモ解
シ易カラシメンガ爲ニ單ニ神典本文ノ明文ニ隨ヒ道理ヲ以テ眞理
ノアル所ヲ簡短ニ講セントスルニアリ然レ共開闢ノ始ノ如キハ古
傳最モ簡ナル傳ニシテ多ク神名ニ實事ヲ傳ヘタルモノナレバ是非
トモ本語ニヨリテ語解ヨリ講ゼザレバ眞理ヲ發見シガタキガ故ニ
暫ク語解ヨリ入り道理解ニ涉ラントス尙聽者ニシテ其意ノ解シガ
タキハ質問ニ隨ヒ講ズベシ○サテ先ニ天則ヲあめノ語意ヲ定ムル
ヲナシ置タリ故ニ其意ヲ述ブベシ先ヅ先哲ノ葦萌ノ約言ナラント

ト云ハルハ葦萌ノ如ク萌騰ル物ニ因テ云々ノ傳アルヨリ云ハレ
タルナリ又天綱ノ活言ナリト云ハレタルハ天上ニ衆星等ノカ、レ
ルハ網羅ノ如キモノナリト云フ説ヨリ起リタルモノナリ(兩先哲
ノ傳見合スベシ)其外ニモ種々説アル中ニ於テ余ガ採ルベシト思
フハ明見ノ約言ナリト云フ説是ナリ如何トナレバあきト云フ詞ハ
あきあくあけナド活ク詞ニテ物ノ空虛ナルヲ云フ箱ナドノ内ニ物
品ノ無キヲあき箱ト云フモ此意ナリ夫ヨリ移リテあきらかト云フ
時ハ空間ニ物ノ障リ無ク能ク見ユル意ニテ日光火光ナドヲあきら
カナリト云フモコレヨリ移シテ用ユル詞ナリ其語ノ起リハあノ一
音ヨリ起ル言詞ニシテあト云フ音ハ口中チ空虛ニ成サ、レバ發シ
ガタキ音ナリ此道理ヲ推ス時ハあめハ空虛ニ見ユルモノナルガ故
ニあノ音ヨリ起リ明見ト云ヘバ大空ヲ指テ云フ言詞トナルナリ則
空虛ニ見ユルト云意ナリ今思想ヲ遠大ニシテ吾太陽系中ハ素ヨリ
其他ノ恒星天ニ至ルマデ空間ニ太陽モ地球モ諸星モ未ダ無キ以前
ノ大宇宙ハ如何ナルモノナラント考ル時ハ宇宙間何レノ方ニ向テ
思想ヲ馳スルモ際涯無キモノナルトハ誰コテモ知ラル、ナラント其

際涯モ無キ大宇宙間ニ幾百萬ノ數限リモ無キ諸星ト成ルベキ程ノ諸原素ノ細分子ガ散在充滿シテアリシハ相違無キトニテ天地開闢前ノ大宇宙間ハ眞ノ空虛トハ申シ難ク日球地球或ハ衆星トモ成ベキ程ノ物質ノ元材所謂諸原素ノ細分子ガ散在シテアリシモノナルハ道理ヲ推テ明カニ知ラル、トナリ素ヨリ眞ノ空虛ナレハ造化ノ神ニ坐シテモ何ヲ元材トシテ太陽地球諸星ノ如キ大ナル物質ヲ造リ給フベキ之ヲ以テ考フル時ハ開闢以前ノ大宇宙間ナルモノハ天地萬物トナルベキ物質ノ細分子ヲ含蓄シ之ニ加フルニ其物質ノ細分子ヲシテ或ハ一所ニ集合セシメ又其物質ノ細分子中ノ異種ナルモノト同質ナル物トシテ或ハ散セシメ或ハ集合凝固セシムル元氣則チ精氣ト云フベキ無形物ヲ含蓄シ此二種ノ外ニ森羅萬象悉ク造リ出シ給フ全能全智ナル造化大元靈ノ神徳充滿シタルモノナルトハ道理ヲ推テ明ナルベシ如何トナレハ今日ノ物質ハ諸原素細分子ノ集合物タルハ論ズル迄モ無ク其集合スルニハ動物植物其他有情非情ニ論ナク皆氣質有テ集合シ活動スルトモ明カナルベシ又氣質ノ二者ヲ集合スル非情物ノ外ニ靈有テ思考覺察喜怒哀樂等ノ知

力性情ヲ備ヘタルモノモ現存スルヲ見ルベシ然レハ天地萬物ヲ推テ其大源ニ溯レハ靈氣質ノ三者ニ歸スルノ眞理明カナリ此三者ノ内靈氣ノ二者ハ人間ノ眼ヲ以テ見ル時ハ無形ニ屬シ只物質ノ一ニ有形ト思フナラシ假令無神論者ト雖モ氣ト質ト二者ノ外ニ不可思議的ノモノアルトナ知ルベシ其不可思議的ト云フハ則チ有神論者ノ所謂造化主ニシテ吾古傳ニ傳フル所ノ天御中主神ノ神徳ナリ然レハ無始無終ナルハ造化ノ神ノヨナラズシテ大氣モ亦無始無終ナルベク物質トナルベキ諸原素ノ細分子モ亦無始無終ナルベシ此三者(靈氣質)ノ内物質ハ有形ナレ共極細分子ニ歸スル時ハ又見ルトアタハザルベシ如此道理アルヲ以テ余ガ一家講究ニ於テハ天地萬物ハ靈氣質ノ三者ヨリ成レルモノナリトス此道理アルガ故ニ前ニ講テ置タル天則ヲあめト云フ詞ヲ解スレハ物質トナルベキ有形ノ諸原素ノ分子ガ集合シテ一ノ大ナル物質トナリ其跡ノ空間ニハ靈氣ノミ充滿シ空虛トナルヨリ明見則チ約言シテあめト云フ語起リシト云フハ道理上誣ルニハ非ザルベシ○次ニ地ト云フハ本語つちトアリ此つちト云フ本語ハ未ダ一定ノ說アラザルノミナラズ本

居先哲モつちハつシナランカナド疑ヒ置レタル迄ニテ其他ノ説ニ
モ未ダ考フベキ程ノ解ヲ聞カズ故ニ他説ヲ擧ゲテ講究スルニ據テ
シ先ツ參考迄ニ余ガ一家説ヲ以テ講ズレハ地ハ本語つちト訓ヲテ
其つちハつゞりつゞるつ、みつ、むナドノつ、ト云フ重音ノ下ノ
つりつみチ約ムレハ共ニちトナルヲ以テ考フルニつゞりつゞるつ
ムみつ、むト云フ詞ハつ、ヨリ起リタル詞ニテつ、りト云フハ物
質ノ集合スル詞ナルヲつ、みト云フモ亦同シク物チ一所ニ集メテ
或ハ風呂敷等ニ入置テ物ノ散在セヌ爲ナリコレ則チ天地開闢
以前大宇宙ニ散在シタル諸原素ノ細分子チ一所ニ集メ大氣ヲ以テ
コレヲ包ミ綴リ合セテ地球ノ如キモノチ多ク造リ給ヘルヨリつ、
ト云ヘルニハ非ルカ此つ、ト云フ語ハ上古星ノ名ニシテ彼ノ萬葉
ニモ也ふつ、の行かく行云々ナド詠ル歌ハ星チつ、ト詠ミタル
例ナリ之ヲ以テ考フル時ハ地ノ本語ハつ、ニシテ星ノトナルベシ
吾地球モ亦一個ノ星ナレハ必つ、ト云フベキナリ故ニ天地ノ初發
ノ時トアルハあめつ、ノ始メノ時ト云フトニテ前ニ講ズタル通り
大空ノ明見ニ對シテ諸原素チ包ミ綴リ合セテ物質ト成シ玉フノ云

ニシテ其明見モ綴リ包ムノ實體モ未ダ成ラザル初メ其物ノ兆シ發
ラントスル時ノトヨリ語リ傳フルガ故ニ天地ノ初發ノ時ト傳ヘマ
ルガ如ク聞ユルナリ然レハ天地ノ本語ハ全ク空虛ト實體トチ別ツ
ノ本語ト聞ユルチ後ニハ地球ノヨチつちト云フトナリテ其地球
ノ中ニテモ國土チノヨチつちト云フヨリ一塊ノ土チモつちト云フニ
至リタルモノ、如シニレ諸原素細分子ノ最モ凝固シタルガ故ナラ
シカ都テ天地ト對スル時ノ地ト云フ語ハ地球ノトナルハ申ス迄モ
無キトニテ其地球ハ他ノ星球ヨリ見ル時ハ又一箇ノ星ナレハ星ニ
つゝト云フ名ノ存スルハ全ク開闢ノ始メ諸原素チ綴リ合セテ大氣
チ以テ包ミ成シ玉ヘルヨリ起リシ名ニシテ地ノ本語チつゝトナリト
云フハ道理ヲ推スモ實物ニ照ラスモ誣トニ非ザルベシ然レハ太陽
地球モ其つゝト云フ實體ヨリ起リタルモノナレハあめト云フベキ
ニ非ザル如クナレ共地球ヨリ高ク大空ニアル清明ノ上國ナルヲ以
テ地球ヨリ云フ時ハ天ト云フ語チ移シ用ユルニ至レルナリトスル
モ聞エザルニ非ズ尙能ク考フベシ

於高天原成神名天之御中主神次高
御産巢日神次神(御)産巢日神此三柱
神者並獨神成坐而隱身也

○サテコ、ニ於高天原ト書テ本語ヲカマのはらにトアリ此高天原
ト云フ名ハ神典ノ文例ニテハ天地ノ分レシ後天神ノ坐ス天ツ國則
チ太陽日球界ノ一ヲ指テ此地球ヨリ唱フル時ノ名ニシテ天之御中
主神ハ日球モ地球モ未ダ成ラザル前ヨリ無始無終ニ坐ス神ナレバ
受ニ於高天原ト傳アルハ日球成リテ後ニ成坐セル神力ト疑ハル、
ガ故ニ本居先哲ハ後ノ一ヲ上ニ回ラシテ傳ヘタルモノナラント云
ハレ平田先哲ハ此ノ高天原ハ北極紫微宮ノ一ニテ天之御中主神ノ
本府ナルヲ後ニ太陽日球界成リテ其高天原ノ名ヲ以テ日球ニモ移
シテ名クタルモノナリト説カレタリ(兩傳見合スベシ)或説ニハ受
ノ高天原ハ天之御中主神ノ本府ヲサスニテ日球ノ高天原トハ別

ニテ之ヲ別テハ愛ハ大高天原ト云フベク日球ハ只ニ高天原ト云フ
何レガ是ナラント考フルニ余ガ講究ニテハ前ニ講テ置タル如ク天
ト云フハ無際涯ナル大宇宙ノ空虛ナルヲ指テ云フナ本語トスレバ
此高天原トアルモ北極紫微宮トモ定メガタク又日球高天原成リテ
後ノ名ヲ上ニ回ラシタルモノトモ云ヒ難ク申サハ高天原ノ名ハ此
文ヲ本語ノ起リトシテ日球ヲ高天原ト云フハコレヨリ移シテ云ヘ
ルトト思ハル、ナリ然リトテコレナ平田先哲ノ云ハレタル北極紫
微宮ノ名ト定ムルニハ非ズ始メ講テ置タル天地ノ本語ニ隨テ考フ
ルニ先ツ高ト云フハ此地球ヨリ大空ヲ指テ云ヘル詞ナルハ諸先哲
ノ説一定シタル通りニテ夫ヨリ尊稱ニモ用ユルヲナルハ能ク聞エ
タルヲナルガ此時ハ未ダ日球地球ハ無キ以前ノ一ヲナレバ何レヲ高
ト云フベキ目的モアラザルベシ然レ共神典ハ此地球ニ傳ヘテレダ
ル造化ノ神傳ナルガ故ニ後々ニハ地球ヲ本トシテ地球ヨリ他ヲ見
ルガ如クニ傳ハラザレバ後世其意ヲ解スルヲアタハザルガ故ニ高
ト云フ言詞ハ加エラレタル傳ニテ只ニ天原ト見ル時ハ能ク聞ユル

ナリ如何トナレバ天ト云フハ大宇宙ノ空虚ヲ云フ本語ニシテ原ト
云フハ廣漠ナル所ヲ云フコナルハ阿先哲ノ解アル通りニテ野原海
原ト云フモ廣漠ナル所ヲ云ヘルナレバ天原ノ本語ハ無際涯ノ廣キ
大宇宙ノコトヲ云フヨリ起リタルモノニテ後ニ此地球ヨリ云フ時ハ
大空ヲ云フヲ移シテ太陽地球ヲモ天ト云ヒ其天ハ何レモ地球ヨリ
高ク見アグルモノナルニヨリテ共ニ高天原ト云ヘルコトヲ宇宙ヲ天
ト云フハ先ニテ地球ヲ天ト云フハ後ナリ然レバコトノ於高天原ト
アルハ地球高天原ノ名ヲ通ハシタルニハ非ズシテ只大宇宙ヲ云フ
モノトスレバ能ク聞ユルナリ○サテコトニ於高天原ノ次ニ成神名
トアルハ本語ナリませるかみのみなはト訓ムナリ此語ニヨレバ無
始無終ナル大元靈ト坐ス天之御中主神ハ此時ニ成坐セリト聞エテ
無始ヨリ坐神トハ聞エガタキガ故ニ諸説一定ナラズ種々ノ論説モ
起ルコトナルガ平田先哲ハ於高天原有神焉御名ハ天之御中主神ト本
傳ノ明文ヲ書改メテ成文トセラレタリコトハ申ス迄モ無ク無始無終
ノ大元靈ニ坐セバ道理上ハ勅クマシキコトナレ共書記神代ノ一書ニ
モ高天原所生神名天御中主神トアリテ此時所生神ノ如ク傳ヘタル

ハ如何ナルコトヲ考ルニ古事記ニ所謂成神名トアル本語モ日
本記神代ノ一書ノ所生神名云々トアルモ何レモ天之御中主神ノミ
ニカ、リタル語ニ非ズシテ次ノ高皇產靈神皇產靈神ニモ共ニ云
ヒカケタル本語ナリコレヲ以テ考フル時ハ次ノ皇產靈ノ阿神ハ天
之御中主神ノ天地萬物ヲ造リ給ハント始メテ御神量ノ一度動キ玉
ヒシニヨリテ其大元靈ノ靈德ヨリ次々ニ成出玉ヘル神ナルガ故ニ
此阿神ハ此時ニ成坐セル神トモ云フベク又書記ノ傳ノ如ク此時所
生神トモ申スベキ理リナリ然レバ此三神ヲ合シテ云ヒカクレバ成
マセル神トアルモ聞エザルニ非ズ特ニ天之御中主神ハ無始無終ノ
神ニ坐セ共天地造化ノ上ヨリ傳フル時ハ此時造化ノ氣運始メテ兆
レ起ラントスル時ナルガ故ニ此時ヲ始メトシテ傳ヘタルモノトス
ルモ妨クナシ譬ハ東西南北モ上下モ前後モ素ト無際涯ノ大宇宙ニ
ハ非ザル理ナレ共何カ目的トナルベキ物ノ成タル上ハ東西南北モ
上下モ前後モ定メタル、コトニテ無東西ニモ東西ノ始メアルガ如ク
無始ナル神ニモ何カ目的トナルベキコトノ發ル時ヲ始メトシテ傳フ
ルモ同ヲ理リアレバ此傳モ無始ナル神ナガテ天地ヲ造リ給ハント

ノ御兆シノ發リシヲ始トズルモ聞エザルコハ非ズ都テ事物ハ着手
セントスル時ノコトヲサシテ始メトスルモ此理ナリ特ニ次ノ兩神ハ
掛テ傳フルニ有神焉トアル時ハ三神共無始ヨリノ神ト聞ユルヲ皇
産靈兩神ハ天之御中主神ノ天地萬物ヲ造化生成シ給ハントスル神量
ノ御活動ヨリ成出給ヘルコトハ道理上疑フベクモ非ザレバコト成神
名云々ノ本語ノ儘ニテ然ル可シ此三神ヲ別々コト云ハシコトハ於高天
原坐神名ハ天之御中主神次成神名ハ高皇産靈神次成神名云々ト傳
ヘザルベカラザル道理ナリ故ニ平田先哲ハ記紀兩傳ノ本文ヲモ此
理ヲ以テ改メテラレタレ共余ハ古事記ノ儘ニテ聞エタリトス古傳ノ
明文本語ハ後世改メ換フベキニ非ズ然レ共記紀其他ニ正傳トスベ
キ古書ノ内ニテ異傳ノアルモノハ其道理ヲ推テ能ク道理ニ符フ傳
ヲ採テコレヲ改ムベキハ勿論ノコトナリサテコトニ成神名ノ本語ニ
就テ粗意見ヲ講ヲタレハ是ヨリ天之御中主神ノ御名ニ就テ講究ス
ベシ○サテコトノ御名ノ天之御中主トアルあめハ大宇宙ヲサス本語
ナリ御中ノ御ハ尊稱ナレ共又みトオトハ通フ言詞ナルガ故ニ此神
名ノ御中ハ本居平田兩先哲トモニ真中ノ意ト云ハレタリ真中ト云

フハ中央ノ云ヒナリ主ハ本居先哲ノ説ニのうしノ約言ナリトアリ
のうチ約ムレハぬトナル又ぬトラトハ横ニ通フ言詞ニテうしト云
フモぬしト云フモ同シ意アリテ近ク通フ言詞ナリ此本語ノ意ハ物
ノ主宰タルヲ云フ語ニテ古言ニモ宇斯波久ト云フ語ハ其處ノ主ト
シテ宰リ居ルコトナリトハ先哲等一定ノ説ナリ然レバ天之御中主神
ト云フ御名ハ大宇宙ノ真中ニ坐シテ其大宇宙間ヲ悉ク宇斯波伎玉
ヒ宰リ玉フトノ意ニテ全世界ノ大主宰ト坐スコトハ多言ヲ用ヒズシ
テ此御神名ニテ明カニ傳ハリタルモノナリ此神ハ神ノ中ニモ最第
一ノ大神ニシテ他ノ八百萬神ハ皆此神ノ神靈ヨリ成シ出ア臣ヘル
ナリ故ニ其御神德ノ廣大ナル言詞ノ儘スベキ限ニ非ズ開闢ノ始メ
ヨリ神代ハ申ス迄モ無ク萬世ノ今日ニ至ル迄天地間ノ萬物一トシ
テ此大神ノ神德ニ由ラザル無シコレヲ解カントスルモ及ブベカラ
サル御德ニテ天地組織ノ大造化ヲ始メ天地間ノ萬物今日ニ繁殖シ
生々化育止ム時無キハ皆此大神ノ御神量ヨリ出ル所ナルガ故ニコ
トニ其御神德ノ如何ヲ論セントスルモ儘スベキニ非レバ以下ノ傳
々ヲ講究スルコト至リテ時々此大元ノ神德ニ注意シテ講ズベシ凡ソ

神世五期ノ講究ヲ終ル迄ニハ祖天之御中主神ノ神徳モ窺ハル、所
アレバ自得セラル、ニ至ルベシ此天之御中主神ヲ造物主ト云ヒ有
神論者ハ全能全智獨一其神ト云ヒ無神論者ト雖モ不可思議的ナリ
ト云フテ人智議ルベカラザルモノアリト云フ其意ハ天之御中主神
ノ御上ニ自ラ當ルモノナリ吾神典ニテハ此神ノ坐ス所ヲ別天ト傳
ヘタリ余ガ一家ノ講究ニテ他ノ神府ト分ヤンガ爲メニコレヲ幽中
ノ幽府ト仮ニ名ヅケテ講ズルナリ支那ニ所謂大極ニシテ無極無極
ニシテ大極ナリト云ヘルモ此極ヲ指スノ外ナラズ○サテコレニ神
ト云フ本語ハ如何ナルコトナルカト云フコトノ講究ヲ成スハ最モ要旨
ナレバコレヲ論究スベシ此神ト云フ本語ニ就テハ諸説未ダ一定ノ
論ナク平田先哲ノ傳ニ神ハ葦牙ノかビヨリ起リタルモノニテ又カ
ムトモ通フ本語ニテ齒ノ類モ亦加備ナリナド云ハレタルハ委ニキ
者ニハアレドモアマリ委ニキニ過ギテ如何ニヤト思ハル、説モ無キ
ニ非ズ同學者ノ内ニモ此説ハ採ラザル人多キモノ、如シ其外かみ
ノかハ霞蕪幽ナドノ意ナラシナド種々本語ニ就テノ論モアレドモ
是ヲ動クマシキ説ナリト思ハル、迄ノ説モ見アタラザレハ先ツ平

田先哲ノ神ハ加備ナリト云ハレタルヲ本語トシテ講究スベキナリ
然レ共其かびト云フニ就テ史傳ニ論ヲラレタル彼ノ齒モ加備ナリ
ナド云ハレタル種々ノ説ニ至リテハ服シ難キコトアレバ此神ノ本語
ヲ加備ナリト云ハレタルノミヲ採テ他ノ霞蕪幽ナドノ説ト合セテ
講述スベシ平田先哲ハ加備ノ加ハ彼ノ意ニテ物ヲ其レト指テ云フ
語ナリト云ハレタルレドモ此ハ近時ノ諸説ノ内ニ聞エタル霞蕪ナド
ノかト云フ方勝レリ彼ノ意トスレバ何モ此語ニ深キ意ハ無キモノ
、如ク霞蕪ナドノかトスル時ハ霞モ幽微ノ意アリ蕪モ幽微ノ意ア
リテ神ト云フ本語ノ意ニ近キ所アリ斯ク講ズレバ神ハかビニテ其
かビノかハ幽微ノ意ニテハ奇靈ト云フビナリ則チ幽靈ト云フコ
ト聞ユコレ自ラ神ノ意ニ能ク當レリコレヲ人心固有ノ想像ニ聞ハ
シユ凡ソ人タルモノハ神ト云フ本語ノ意ヲ解スルト解セザルニ論
無ク神ハ如何ナルモノト云ハシ必ズ冥々ノ中肉眼見ルベカラザル
所ニアリテ靈妙不測ノ活キアルモノヲ指ス名ナリト思フナルベシ
是レ人々自ラ神ノ何物タルコト自得シタル固有ノ性ナリ此固有ノ
自得性ニ合セテ講ズル時ハ神ノ本語ハかビニシテ其かハ幽微ナル

ノ意ハ奇靈ナルノ意ニシテ幽靈ナリト解スレハ能ク聞ユルナリ
 然レ共神ハ到底本語ノ語解ヲ以テ其意ヲ盡スベキモノニ非ス固有
 ノ自得性ニ隨テ正邪ヲ辨ズルコトアリ都テ本語ノ解ヲ用ユルハ人心
 ニ其意ノ解シ難キ所ニ要用ニシテ解釋無クシテ其意ヲ自得スルモ
 ノニ至テハ略スルモ亦可ナリ如何トナレハ辨解ノ多岐ニ涉ルハ自
 得性ヲ覆ヒ却テ悟リ易キモノナレテ悟リ難カテレムルノ恐アリコ
 レ余ガ常ニ人心ニ自得スルコトノ難カラザルモノハ其自得性ニ任セ
 テ多岐ノ解ヲ略スルヲ可トスル所以ナリ○サテ前ニ講ワタル天之
 御中主神ノ次ニ高皇產靈神次神皇產靈神トアリ古事記ニハ高御產
 巢日神神產巢日神ト文字ヲ仮用セラレタリ文字ハ素ヨリ深キ關係
 アルモノニハ非レ共此神名ノ如キハ平田先哲日本紀ノ一書ヲ採リ
 皇產靈ト改メラレタルハ然ルベキコトニテ文字モ同クハ意ノ近キ
 ニ隨フヲ可トス都テ今日ハ皇產靈ノ字ヲ用ユルヲ常トスレハ改ム
 ベシ然レテ此皇產靈ノ兩神ハ天之御中主神ト並ビ給フ神ニシテ天
 之御中主神ノ天地萬物ヲ造リ給ハントスル御神靈ノ初メテ動キ給
 フニ因テ其大元靈ヨリ成リ給フ神ナルガ故ニ申サハ天之御中主神

ノ大分靈トモ申スベキ程ノコトニテ天地萬物鑄造化育ノ神業ハ全ク
 此兩神ノ補翼ニカ、ルモノナリ神典明文ノ上ニハ其事傳ハラザル
 如クナレ共此兩神ノ神名ニ自テ其意ヲ傳ヘタルモノナレバ御名ノ
 本語ヨリ講究スベシ先ヅ高皇產靈トアルハ本語ヲかみひすびト訓
 ズ又神皇產靈トアルハ本語ヲかみひすびト訓ズ此語ノ高ハたかニ
 テ其九かト云フ語ハたきたかたけト活ク詞ニシテ丈竹高ナドノ意
 ニテ高ク立延ヒル意アリテ竹ノ高ク延ビ立ツモ同ク都テ物ヲ張
 出ス膨脹力ノ德ヲ云ヘルニテ男德ヲ備ヘ給フナリ又ユレニ反シテ
 神皇產靈神ノ上ノ神ノ字ハ仮名ニテかみかむト活キかむト云フナ
 本語トス此かむト云フハ高ノ張出ル德ニ反シテかみしめる語ニテ
 縮引力ノ德ヲ云フナレハ自ラ女德ヲ備ヘ玉フナリ此兩神ノ皇產靈
 ト云フ御名ハ何レモ同シコトニテ皇ハ尊稱ニテ御ト書ケルモ同ク
 ナリコ、ノ皇ノ字ハすめ又ハすめらさナドニ用ユルトハ異ニシテ
 只仮名ニ用ヒタル迄ナリ產靈ハうむすびナリト本居平田兩先哲ノ
 說ノ如ク天地萬物ヲうむし成シ玉フハ奇靈ノ活キニテ靈妙不測ノ
 御德ヲ指テ徹ト云フ都テ吾古傳ニヒヤナド云フハ皆奇靈ナルヲ云

フコニテコレヨリ移リテ日ト云フモ火ト云フモ皆靈ナルモノニ名
ヅクルナリコレ則チ産靈ノ本語ノ意ニシテ又結ブナド云フコモ
自ラ通フナリ如何トナレハ萬物ハ産靈ノ徳ニテウヒシ成シ玉フモ
リ移リテ又諸原素ヲ集メテ結ビ成シ玉フトモ聞ユレハナリ本居先
哲ハ今時人ノ子ヲ生ムモ皆産靈ノ徳ナルガ故ニ生レタル子ヲヒ
こむすめナド云フト云ハレタリ實ニ造化ノ御徳ニ對シテ能ク聞ヘ
タル解ト云フベシ此御名ノ本語ニヨリテ講究スレハ神典ノ明文ニ
ハ傳ナクトモ神名ノ上ニ造化大元ノ實事ハ自ラ傳ハリタルコト明ナ
ルベシ然ハ天地萬物造化ノ大元ハ天之御中主神ニシテ其組織ヲ專
ラ輔翼成シ玉フハ皇産靈ノ兩神ナルコト疑ヒテ容ル、所ナシ其組織
ニ就テハ膨脹力ノ活キト縮引力ノ活キトヒすびひすぶうひしうむ
ナノ靈徳ヨリ成シ玉フト云フ眞理只此兩神ノ神名ノ上ニ傳ハリタ
ルハ妙ナルコト非ズヤ道ハ近キニアリ外邦ノ學ノヨニ心醉スル人
自ラ願ル所アレ吾神典明文ノ上チ一通リ迂濶ニ見ル時ハ斯ク迄深
キ眞理ノ傳ハリタルモノトハ誰モ心付カザルベシ○サテ前ニ講
タル次ニ此三柱神者並獨神成坐而隱身也トアルハ能ク聞エタル通

リニテ此所ニ御名ヲ傳ヘタル造化ノ三神ハ並ビ成坐セル神ニ非ズ
次々順序ニ成玉ヒシガ故ニ獨神成坐ト云ヘルナリ隱身也トアル
ヲ本居先哲ハみゝをかくしたまひきト訓マレタレ共大國翁ハコレ
チかくしみになりト訓マレタリ此ハ大國翁ノ訓ミ然ルベク思ハル
、ナリ如何トナレハ隱身也ト訓ズレハ一度成出テ玉ヘル神ノ再ヒ
幽ニ御身ヲ隱シ給フコト聞エ隱身也ト訓ズレハ素ヨリ深ク隱レ玉
フ神ト聞ユルチ此三神ハ別天幽中ノ幽府則チ天之真中ニテ大極ト
云フベキ所ニ坐ス神ナルガ故ニかくしみになりト訓ム方然ルベシ
支那ノ説ニ大極兩儀ヲ生ズト云ヘルハ彼國ノ古傳ト云フニモアラ
ズ人智推測ノ理説ト聞ユレ共能ク吾古傳ノ造化三神ノ御上ノコト
符合ス然共彼ニ所謂兩儀ナルモノハ陰陽ノ二氣ヲ指スモノニテ神
ト云ハズ靈ト云ハザルハ靈ト氣トノ別アルコト知ラザル論ニシテ
コレガ爲メニ支那ノ理説ニテハ氣結ンテ靈トナルガ如ク論ズルニ
至ル氣ハ凝結シテ生々ノ活動アルノミ人心ノ如キ思考覺察ノ活用
チナスモノハ氣ノ作用ニ非ズ靈ノ作用ナリ此理ヲ以テ余ガ所謂靈
氣質ノ三者天地萬物ノ三大元タルコト知ルベシ

○或人問フ造化三神ノ御德粗了解セリ然ルニ三神共別天幽中ノ幽府則チ天ノ真中ナル大極ニ坐ス隱身ノ神ト聞エテ吾大陽系ノミナラズ他ノ恒星天ニ至ル迄造化シ玉フ御德ナルニ神典ノ明文中此後ニ至リテ皇産靈ノ兩神ハ吾大陽日球中ニ坐シテ諸神ニ神勅ヲ降シ玉フ等ノトアルハ全ク隱身トモ窺ハレズ如何

○答フ御最モノ御質疑ナリ素ヨリ皇産靈ノ兩神ハ別天ニ坐シテ天之御中主神ノ大元靈ニ添玉フ神ナレハ隱身ニ坐マスヲ後ニ吾大陽日球ニ於テ天照大御神ト共ニ神勅ヲ降シ玉フ等ハ平田先哲モ粗其意ヲ説キ置カレタル通り御本靈ト御分靈トノ別ニシテ皇産靈神ニ二種ノ別アルニ非ズ御同神ノ魂ノ御作用ヨリ吾大陽系中ノ造化ノ一ヲ宰リ玉フ爲ニ御靈体ヲモ顯ハシ玉ヒ神勅ヲモ降シ玉フナリ申サバ天之御中主神ト共ニ別天則チ天ノ真中ニ坐ス皇産靈ノ兩神ハ隱身ニシテ吾大陽系ノミナラズ他ノ恒星天ノ組織ヲモ成シ玉フ御本靈ニ坐シ吾大陽日球中則チ後ノ高天原ニ坐ス皇産靈ノ兩神ハ御分靈ニシテ他ノ恒星天ニ關セズ吾大陽系中ノ造化ノ神業ヲ宰リ玉フナリ此事始メテ神典ノ講義ヲ聞人ナドハ最モ疑ヒノ起ル所ナル

ガ次々ノ講ヲ聞カル、ニ於テハ自得セラル、ニ至ルトアルベケレ共一通リコレヲ辨テ置カシ先ツ開闢ノ始メ大元靈天之御中主神ノ一靈ヨリ起リテ皇産靈ノ兩靈ヲ成シ玉フハ天地ノ間ニ神靈ヲ分賦シ玉フ始メニシテ分靈ノ原理爰ニ起リシモノナリ此分靈ノ原理起リシ以後ハ神代ハ素ヨリ今日ニ至ルマテ凡幽中ニアルノ靈ハ其靈ノ德ニヨリ何レノ神ニテモ幾百ノ多キニモ靈ヲ分チ玉フトニテ譬ハ菅原道真公ノ神靈ニ向テ天下幾百萬ノ人ヨリ同時ニ神護ヲ祈ルトアルモ至誠幽中ニ貫クニ至レハ東與羽ノ間ト西肥薩ノ國トナ問ハズ同時ニ神護シ玉ヒ或ハ眞夢ノ内ニ神体ヲ顯シテ神示シ玉フ等一神ニシテ同時ニ幾分体ヲ顯ハシ玉フモ知ルベカクテ萬神皆如此モノニテ共事實枚擧スルニ追アラザルナリ人皇以後聖賢忠臣ノ靈如此況ンヤ天地開闢第一期ノ始メ造化ノ大元靈ト坐ス天之御中主神ノ第一ノ大分靈タル皇産靈神ニ坐シマセバ幾百萬ノ神体ヲ顯シ玉フモ何ノ難キヲカアラン此幽理アルヲ以テ窺フ時ハ皇産靈ノ兩神ハ共御分靈幾百萬ノ多キアルモ知ベカラズは大元靈天之御中主神ノ神量ヨリ出ル所ノ造化ノ原則ニシテ吾大陽系ノミナラズ他ノ

恒星天ニ至ルマデ幾百萬ノ數限リ無キ星球ヲ悉ク造化シ玉フ所以
ナリ此眞理アルヲ以テ此後ニ皇産靈ノ兩神大陽高天原ニ出顯坐シ
テ吾大陽系中ノ神業ヲ宰リ玉フハ御分靈ノ産靈神ナルヲ知ルベシ
然ルニ此傳ノ始メニ坐ス造化ノ三神ハ前ニ講シタル通り別天隱身
ノ御本靈ニ坐スガ故ニ古傳是迄ノ所ハ吾大陽系中ノ一ノミヲ傳ヘ
タルニ非ラズシテ他ノ恒星天迄カ、ル傳ヘナリ此次に傳ヨリハ單
ニ吾大陽系中ノミノ事ニカ、レバ其意ヲ得テ講究アルベシサテ是
迄講シタル神典ノ明文僅カニ四十六文字本辭九十六言ニシテ其中
ニ造化ノ大原則ヲ窺ヒ得ベク傳ハリタルハコレヲ神慮ナリ神傳ナ
リト云ハズシテ何トカ云ハン人智ノ能ク作爲スベキ限リニ非ズ余
ガ此略解數言ニシテモ斯カル大ナル眞理ヲ此九十六言ノ本辭ノ内
ニ含蓄セリ然レ共ニ、ニ講スル所ハ太初ノ一ニシテ本傳特ニ簡ナ
ルヲ以テ未ダ其意ヲ盡シガケレ共此大々ノ講述ト合セテ再ビコ
レヲ反省セラル、一アラバ自ラ其深意ノアル所ヲ知ベキモノナレ
バ暫ク序ヲ追フテ講ズルヲ俟タルベシ

次國稚如浮脂而久羅下那洲多陀用
幣琉之時如葦牙因萌騰之物而成神
名字麻志阿斯訶備比古遲神次天之
常立神此二柱神亦獨神成坐而隱身
也

上件五柱神者別天神

○サテ愛ニ國稚如浮脂而云々トアル國ト云フハ今ノ國土ノ云ヒニ
非ズ今ノ國土ハ此太古くにト云ヒシ一物ノ言詞ヲ移シテ云ヘルモ
ノナリ先ツ兩先哲ノ說ニ隨ヒ余ガ一家ノ意見ヲ加ヘテくにト云フ
本語ヨリ講センくにト云フ本語ハくみト云フ語ヨリ轉シタル語ニ

シテみトにトハ横ニ通フ音ナリ然ハ國ト云フハくみト云フナリ
共くみト云フハ又くむトモ活キテ物チ一ツニ集メテ一區域チ成ス
チ云フ詞ニシテ人ノ上ニ於テモ何組トカ組合トカ云ハ多人數チ
一ツニ集メテ組チ云フナリ此國雅トアル國ハ素ヨリ文字ニハ拘ハ
テズシテくみ雅ト云フ意ナリ其いしくト云フハ本居先哲ハわか
ト訓レタレ共古事記ニハ都テわかト云フニハ若ノ字チ用ユル例チ
リト云レシ説モアレバ爰モわかト訓ムニハ若ノ字チ用ユベキナ
リ然ルニ雅ノ字チ用ヒタルチ思フニ必ズ若トハ訓チ異ニスベキ理
リナレバ書紀ニ國雅地雅ト訓ミタル例ニ倣ヒ爰モ國いしくト訓ム
方然ルベク思ハル、ナリ其いしくト云フ本語ハラひしくト云フ
ニテラひチ切ムレバイトナル都テ物ノ未ダ成調ハザルチラひしく
しくト云フ若クト云フモ同ヲ意ハアレドモラひしくト云フ方此所ノ
意ニハ勝リテ聞ユサテ又國トくみト語ノ通フハ此次ノ傳ノ豊斟
淳命チ豊國主命トモ又豊斟野命トモ通ハシテ傳ヘタルニテ明カナ
リ故ニ此傳ノ國雅トアルハくみいしくト云フ本語ニテ其組雅ト云
フ意ハ如何トナレバ此開闢ノ始メニ當リテ吾大陽系中數億萬里ノ

宇宙間ニ散在シタル諸元素ノ細分子チ一所ニ聚メ始テ大ナル一物
チ組成シ玉ヒ其一物ノ未ダラひしくしきチ指テ組雅ト云フチ轉
テ國雅ト云ヒ傳ヘタルナリ此組ト云フ語意ハ諸元素チ集メテ組
ト云フ意ト聞ユレバ始メ地トアルチつゝりつゝむト云フ語意ト同
シ意ニテ申サバくみハ内部ニ屬シつゝむハ外部ニ屬スルガ如クナ
レ共同ヲク宇宙間散在ノ諸元素チ一所ニ集メ成ストナルナリ今
ノ國土チ國ト云ヒ地ト云フモ本ハ組ヨ綴リ包ムノ本語ヨリ移リタ
ルモノコテ大陽ト雖ヒ又一個ノ大ナル星ニシテ諸元素ノ極精ナル
モノ、聚合ヨリ成レルモノナレバ組トモ綴トモ包トモ云フベキナ
其語ハ後ニハ地球ニノヨリ移シ用ヒテ大陽ハ宇宙ノ高キ所ニ位スル
ガ故ニ天ノ語チ以テ語リ傳フルトナレルモノ、如レ○次ニ如浮
脂ニ云々トアルコノ浮脂ト古事記ニ傳ヘタルモノハ書記ニハ種々
ノ形容チ以テ傳ヘタル中ニモ浮膏ト云フ傳ヘハ二個迄モアリテ共
ニ此時ニ空中ニ初メテ成リシ大ナル一物チ形容シタルモノナリ其
一物ハ如何ナルモノニテ何レニ成レリト云フニ吾大陽系ノ中央ニ
成リテ此一物分レテ地球トナリ地球トナリ又大陽所屬ノ諸遊星ト

モ成レルナリ然ルニ愛ハ未ダ分判セザル時ナルガ故ニ書記ニハ一
物在於虛中形貌難言トモ傳ヘ古事記ニハ國稚如浮脂トモ傳ヘタル
ニテ其意異ナルニハ非ズ次ニ久羅下那洲云々トアルハ今ノ俗言ニ
物ノ定マリモ無ク動クナラシムルト言フト同意ニテ大虛中
ニ其一物ノ流動シタル形ヲ言ヒ傳ヘタルナリ其次ニ多陀用幣流之
時云々トアルハ舟ナドノ何レナ岸トモ定メズヨルニ無クサマヨウ
形ヲ言ヒシニテ皆此一物ノナリテ形容シタル言詞ナレドモ太古ノ神
言ヨリ傳ヘ來リタルナリテ故ニ靜思シテコレヲ考フレバ實ニ其
形ヲ目前ニ見ルガ如キノ思ヒアリサテ其一物如何ニシテ天地ト分
判シタルカト言フニ其次ニ如葦牙因萌騰之物而云々トアリ書記ニ
ハ自其中狀如葦牙之初生於泥中而トアリ又同書ニ國中生物狀如葦
牙トモアリテ記紀共ニ大同小異アリト雖同傳ヘナルナリ明カナ
リ此如葦牙云々トアルハ葦ト言フモノハ艸木ノ内ニテ最モ太古
ヨリアリシモノニテ其葦牙ノ萌出ル勢ヒテ形容シテ傳ヘタルナリ
因萌騰之物云々ハ其葦牙ノ如キモノ、延ビ行クニ隨テ漸々ニ其物
ノ膨脹シテ大ナルモノトナルヲ言ヘルニテ則チ大虛中ニ初メテ成

出タル彼一物ノ流動シテアル其一物ノ内部ニ此葦牙ノ如キ膨脹活
動スベキ程ノ勢ヒアルモノガ出來タリトノ傳ヘナリ此物ノ出來ル
ニ因テ成坐セル神ノ御名ヲ宇麻志阿斯訶備比古遲神ト申シテ其御
名ノ宇麻志ト云フハ先哲ノ説ノ如ク都テ物ヲ歎稱スルノ言詞ニテ
味ヒノミナラズ歎稱スル時ニハうまくと出來タト云フナドニ用ユル
語ナリ故ニ此語ハ此神ノ御上ヲ歎稱シ奉ル言詞ニテ此歎稱ノ詞ハ
此時ニ組成シ玉ヒシ一物ノ中ニ活動チ起シ葦牙ノ如キモノ、出來
タルヲ造化ノ神ノ御歎美ノアマリウまくと出來タモノカナト思ホシ
召サル、御心ノ自ラ此神ノ御名トナリテ傳ハリタルナリト窺奉ラル
、ナリ阿斯訶備ト云フハ前ニアル葦牙ノ如キ物ニ因テ成坐セルガ
故ニ其物ヲ共盛ニ御名ニ負セ奉リシニテ比古遲神ト云フ比古遲ハ
彦主ト同ク男徳ノ神ヲ稱スル言詞ナリサテ此時ニ此流動シテア
リシ一物ハ如何ニ變化シタリト云フハ古事記ノ明文ニハ見エザ
レ共書記ノ諸傳ノ趣ニ合セテ道理ヲ推ス時ハ此神ハ男徳ノ神ニシ
テ高皇產靈神ノ膨脹力ノ御魂ニ因リ玉フ神ナルナリハ男徳ノ神ナル
ヲ以テ窺ハル、ナリナルガ此神ハ造化ノ御神業ニ於テ專ラ膨脹力ヲ

宰リ玉フ御徳ノ御魂ナルガ故ニ此神ノ成坐セルニヨリテ葦牙ノ如
キモノモ益々上騰ノ力ヲ加ヘ彼ノ一物ノ内部ニ活動ヲ起シ是ガ
爲ニ一物中ノ重濁ナル物ヲ外部ニ張出シ始メテ精陽ナルモノト重
濁ナルモノト分判シ一物中ニ含蓄シタル諸原素ノ極精ナルモノハ
薄靡テ太陽地球トナルベキ原質トナリ其時内部活動ノ爲ニ外部ニ
張出サレタル重濁ナルモノハ八方ヘ分判シテ地球星球トナルベキ
原質トナリシモノト窺ハル、ナリ如此講究スルニ至レバ初學ノ人
ハ必ズ疑点ヲ免ル、一難ク茫然トシテ解スベカラザルニ至ルモノ
ナリ故ニ暫ク疑ヲ存シタルマ、此次々ノ講ヲ聞カレナハ必ズ中心
自得セラル、ニ至ルベシサテ茲ニ一言辨ヲ置ベキトアリ前ニ講ヲ
タル天地分判ノ道理解ハ本居平田両先哲ノ天地分判ノ説トハ大ニ
異ルモノニテ両先哲ノ天地分判ノ説ハ初メ大虚中ニ成リシ彼ノ一
物ヨリ清明ナルモノ葦牙ノ萌騰ルガ如ク萌騰リテ其物太陽トナリ
跡ニ殘リタル重濁ナルモノ地球トナリシトノ説ナリ此説ニヨル時
ハ地球ハ主則チ本体ニシテ太陽ハ客則チ分体トナル説ニテ道理上
聞エガタキノミナラズ太陽系中ニカ、リタル他ノ遊星ニ至ル迄地

球ト同ク太陽ノ周圍ヲ回轉スルハ理學上明カナルコトナレバ諸遊
星ト地球トハ同ク太陽ノ分体ニシテ太陽ハコレガ元体タルベキ
ハ道理ニ於テ動ク圓數トナルベシ時ニ古事記日本記ヲ始メ太古ノ
傳説中彼ノ一物ノ外部ニ萌騰リタリト云フ傳ヘハ無ク一物ノ内部
ニ萌騰リタルコト明文ニ明カニテ書紀ニモ其中ニ云々或ハ國中ニ云
々トノミアリテ皆其一物ノ内部ニ成レル傳ヘノミニテ一物ノ外部
ニ別ニ太陽ノ成リシ傳ヘノ非サレバ記紀ノ明文ト道理トヲ以テ必
ズ先哲ノ地球ヲ元体トスルノ説ハ改メザルヲ得ザルナリ故ニ余ハ
隨テ兩先哲ノ神靈ニ告ケ地球ハ太陽ノ分体ニシテ他ノ遊星モ亦地
球ト同ク太陽ノ分体ナリト思ヒ定メタリ實ニ先哲在世ノ頃ニ有
テハ神典ノ講究ハ創業ノ際ニテ今日ノ講シ易キニ比スレバ其難キ
一幾倍ナルヲ知ラザル時ナルガ故ニ諸星モ皆地球ヨリ出ルナリト
言フガ如キ佐藤信淵氏ガ説ヲモ參考トシテ史傳ニ加ヘ置レタル程
ノコトナレバ今日ニ至リコレヲ改ムルハ先哲ノ遺言ニ對シ後學ノ勉
ムベキ道ト言フベシ方今ニ至リテハ天地分判ノ本末ノ如キハ職者
必ズ余ニ先ダテ其説アラン然レ共未ダ世ニ公ニセタル、ナ聞カ

オ故ニ余ガ家説ヲ學テコレヲ論ズルナリ○サテ前ニ講ザタル次ノ
傳ニ次天之常立神トアリ此神名ノ天ハ日球高天原ノ神ナルガ故ニ
天ト云ヘルニテ此神ノ亦ノ御名ヲ底立神トモ壁立神トモ申奉ル
ニテ其常立神トアルハ先哲ノ説ニ常ハどこしヘニテ常住ノ意立ハ
戸ナド物ノ界ヲタテ切意ナリトアリ亦ノ御名ノ底立ト云フ底ハ物
ノ到リ極ル所ヲ云フニテ太陽外部ノ際涯ヲ立切ノ意又壁立ト云
フハ壁ト云フハ物ノ界ヲ云ヘルニテ其界ヲ立切ル意ニシテ此三ツ
ノ御名トモ皆同シ意ナリ此神ハ如何ナル御徳ノ神ナラント考フル
ニ彼ノ一物ノ活動シタル勢ヒニヨリテ清明ナルモノト重濁ナルモ
ノトチ分チ濁ナル物ハ八方ニ分体シ清ナル物其跡ニ残りテ其中ノ
萌騰ルモノ、勢ヒト葦牙彦遲神ノ御徳トヨリテ内部ヨリ漸々膨
脹シ太陽トナルベキ物ハ成リ始リタルモノナルヲ天常立神ハ御名
ノ通り其外部ヲ立切リ太陽ノ周圍ヲ制シ其宜キヲ得サシメ玉フ御
神徳ニテ壓力ヲ等リ玉フナリ此道理ヲ以テ考フルニ太陽日球ハ内
部ヨリ膨脹シテ成シモノト窺ハル、ガ故ニ高天原則チ天ツ國ハ必
ズ日球ノ内部ニアリテ後ニ天神等ハ其内部ノ上國ニ坐スト窺ヒ

奉ラル、ナリ此天之常立神ノ神徳ノ如キ別ニ文ヲモ加ヘズシテ如
此廣大ナル造化ノ眞理ヲ窺ヒ奉ルベク御名ノ上ニ傳ヘ來タリタル
吾古傳ノ妙ナル所ナリ此神モ造化ノ三神ト同ク隱身ノ神ニテ是
迄ノ五柱神ヲ別天ノ神トハ申奉ルナリ○サテ前ニ講ザタル如ク如
此次々ニ造化ノ神業ヲ輔翼シ玉フ神ノ成リ出玉フハ則チ天之御中
主神ノ神量ニ出ル所ニシテ御自ヲ其大元靈ヲ分チ玉ヒ造化ノ神業
ヲシテ萬世分擔成サシメ玉フハ造化ノ原則ニテ天之御中主神天地
萬物ヲ造化シ玉フ御徳ハ此分靈分擔ノ大原則チ立玉フニヨル故ニ
今日ノ現世界ニアル人間ノ上ニ於テモ萬人ニハ萬人ノ分魂アリテ
又各自事業ヲモ分擔シ日新開明ノ進化ヲ成スハ皆是分靈分擔ノ原
則ニ起リテ萬世ニ貫クモノナリ此分靈分擔ノ道ハ天地開闢ノ始メ
ニ起リ幽顯トモニ萬世動クベカラザルハ造化ノ原則ナルヲ以テ今
日ノ人間モ亦如斯此分靈分擔ノ眞理原則ニ照ラシテ考フルトキハ
外邦ニ所謂一神ノ外神ナントノ説ハ造化ノ原則ニ符ハザル論ト云
サレテ得ズ他日洋人モ亦吾神典ノ眞理ヲ講ズルノ日至ラバ自ラ一
神論ノ誤リナルヲ知ルノ日アテテ故ニ此傳ハ只吾日本ノミノ書ニ

非ズ天地組織ノ眞傳ナ此地球上ニ傳ヘ玉フモノニシテ地球ノ寶典
ナリ世ニ此傳ナカリセバ地球上ニ生テ稟ルノ人トシテ吾地球ノ組
織ハ如何ナルモノト窺ヒ知ルニ由ナク徒ラニ天主六日鑄造ナドノ
説ヲ信フテ終ルモノ多カク然ルニ幸ヒ吾國ニ此傳ノ存スルヲ以
テ天地組織ノ眞理モ窺ヒ知ラル、ハ全ク神慮ノ然ラシムル所ナリ
ト云ベシ○サテ前ニ購シタル所ハ高尚ノ極アマリ遠大ナルヲ以テ
初學ハ聞エ難キ所アラフ故ニ茲ニ初學ノ爲ニ卑近ナル譬ヲ以テ聊
カ贅言ヲ加フベシ先ツ天地組織ノ遠大ナル思ヒテ暫ク去テ此一室
内ヲ以テ仮ニ吾太陽系中數億萬里ノ宇宙ナリト思ヒ定メヨ今此一
室内ノ空間ニハ何モ人ノ肉眼ニテ見ルベキ程ノモノハ無カルベシ
然レニテ空虛ナリト云フテ可ナルガ如クナレ共決シテ此一室内
ノ空間ハ眞ノ空虛トハ申難シ如何トナレバ今此室ノ障子ヲ少シ開
テ朝日ノ光リヲ入レ斜メニ居テ横ヨリ其日光ノ指入リ所ヲ視ヨ
必ス無數ノ塵埃ヲ見ルベシ然レ其塵埃ハ日光ノ外ト雖モ室内ニ散
在充滿シテアルハ知レタルトニテ只日光外ニテハアマリ細密ニシ
テ見エザルノミ此細密ナル塵埃ヲ仮リニ諸原素ノ細分子ガ空間ニ

散在シタルモノトセヨ然ル後其細分子タル塵埃ヲ一室内ニ一分子
モ殘ラヌ迄ニ工風ヲ廻ラシテ一所ニ集メタリトセヨ其集メタル上
ニ於テハ決シテ目ニ見エヌ如キモノニテハ無ク必ズ大キナル丸藥
ノ如キモノヲ造ルニ足ルベシ故ニ此集メタル塵埃ヲ圓形ニシテ一
個ノ大キナル丸子ヲ造リコレヲ小キ糸ニテ此一室ノ中央ニ鈞下ケ
置テ其傍ヨリ靜思シテ此一室内ヲ太陽系中トナシ其中央ニ大キナ
ル丸藥ノ如キ一物ガ出來タルトシテ其一丸ノ中ヨリ十餘粒ノ小
丸子ガ出テ室内ノ空間八方ニ散シテ夫々ニ位置ヲ定メタルトナ
シ中央ノ大丸子ト八方ノ小丸子ハ相共ニ引合フ程ノ力ヲアルモノ
トシテ思ヒ定ムル時ハ大小異ナリト雖モ初メテ天地組織ノ大元ヲ
窺フニハ一助トナラン然テ此中央ニ經三步モアル程ノ丸子ヲ置テ
モアマリ大ナル物トモ思フマア然ルニ吾太陽系ハ數億萬里ノ廣室
ニシテ其中央ニ太陽ガカ、リ八方ニ十個數餘ノ遊星ガカ、リタル
モノナルガコレヲ其室内徑三步ノ丸子ト比較シテ何レカ空間ノ割
合ヨリ大ナリト云ハバ太陽ハ一室内ノ丸子ヨリ小キ割合ニテ大虛
中ト太陽トノ比較ニ合スル程ノ丸子トセシニハ極細丸子ニ非レバ

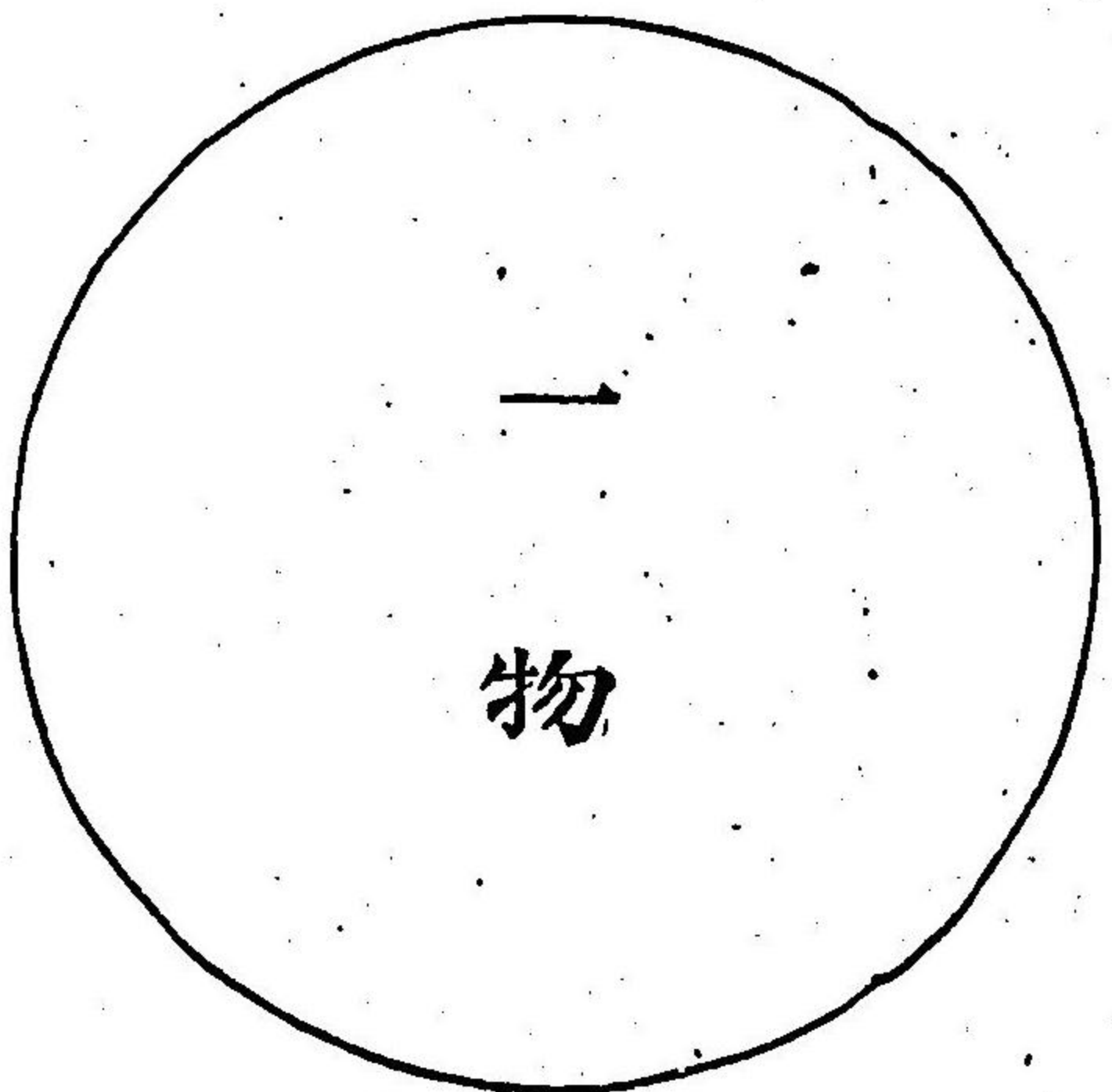
其比較ニハ當ラズ程ノモノナルヲ思ヒ宇宙間ノ大ナルヲ知ルベシ
 コレ吾大陽系ノミノ比較ナルヲ尙恒星天ニ掛ケテ比較セハ其比例
 ハ人智ノ測リ知ルベキ限リニ非ルモノナリ此理ヲ以テ考フル時ハ
 凡天地開闢前ノ大虛中ニ地球地球諸星トナルベキ元材所謂諸原素
 ノ細分子ガ散在シテアリシ時ニモ大虛中何モ無キモノト云フヨリ
 外ハ無キ程ノモノナルハ彼ノ一室内ノ塵埃ノ無キガ如キヨリ集メ
 テ數粒ノ丸子ヲ造ルノ比較ニテ粗窺知ラル、モノナリ尙初學ノ爲
 メ天地組織ノ大元ヲ爰ニ再ビ圖ヲ以テ示サン

天地開闢ノ始メ大陽系中ノ大空ニ一物初メテ成リタルヲ示ス略圖

日本書紀ニ天地初判一物在於虛中ニ狀貌難言ト傳ヘ古事記ニ國稚
 如ニ浮能シテ云々ト傳ヘタル一物所謂其形言難キモノ、大空ノ中ニ成リ出テタルヲ仮リニ

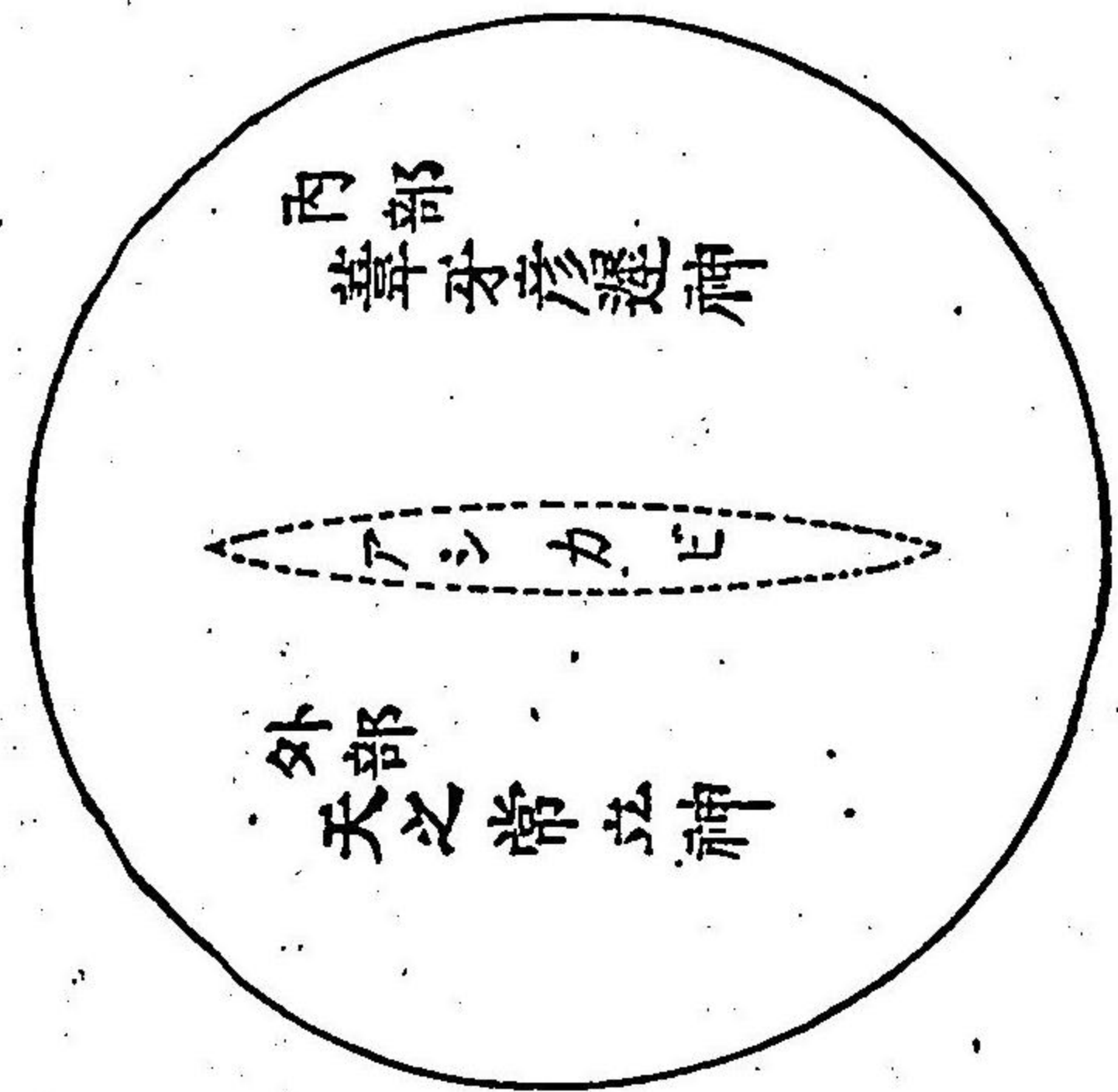
示シタル圖ナリ此時ハ未ダ何レヲ上
 ミ何レヲ下モトモ云フヘキニ非ズシ
 テクヲノトシテ漂ヒシナリ此一物
 ハ前ニ講マタル通り大陽系中ニ散在
 シタル天地萬物ノ元材トナルヘキ諸
 原素チ一所ニ衆メテ組織シ玉ヒシモ
 ノナリ此レ後チニ分判シテ大陽系中
 ニ班列スル遊星等ニ成レル大元ノ一
 物ナリト知ルヘシ

高皇產靈神
 天之御中主神
 神皇產靈神



平田先哲ノ説ニヨレバ北極星ノ方チ上ミトスル説ニテ今日ノ天象ヨリ云フ時ハ然ルベキ理
 リナレバ北極星ノ方チ天ノ真中ト定メ地球ノ上ヨリ見ル時ハ全ク此圖ヲ横位ニ置カザルヘ
 カラス故ニ次ニ再ビ横位ノ圖ヲ示スナリ地球ヨリハ次ノ横位ノ圖ヲ本位トスヘシ

天地開闢ノ始メ大陽系中ノ大空ニ始メ
 タ成リタル一物ノ中ニ葦牙ノ立初メタ
 ルヲ示ス根本位ノ略圖

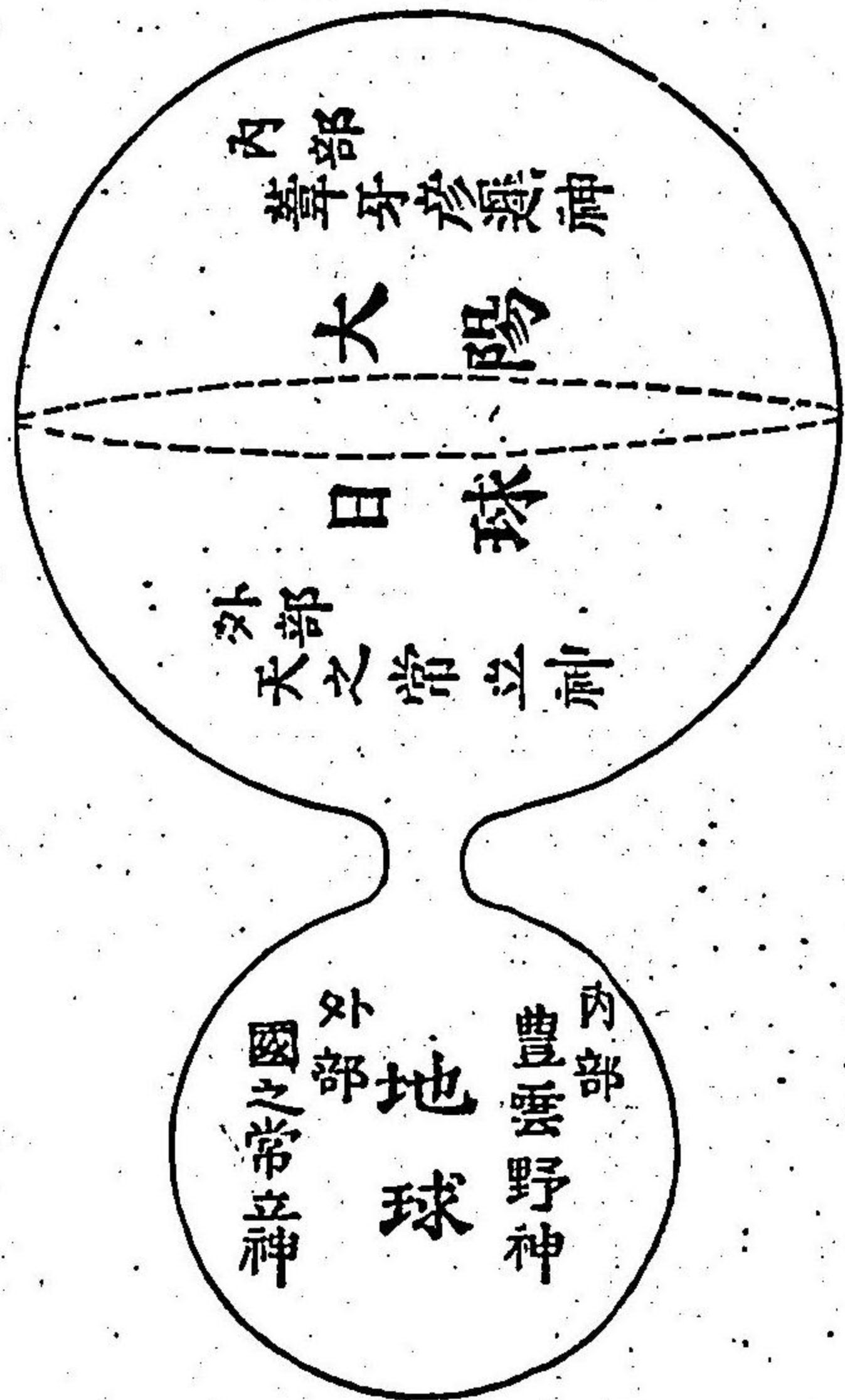


高皇產靈神
 天之御中主神
 高皇產靈神

此圖ハ前ノ圖ヲ吾地球ヨリ見ル時ノ本位ナリ然レ共大空中東西上下ノ別ナク何レヲ天ノ其中
 トモ定ムヘカラサレ共今日ノ天象ヨリ云フ時ハ衆星共ニ北極ニ向フモノ、如クナレバ此横位
 ノ分吾地球ヨリ論ズル本位トスベシ服部中庸
 氏ノ三大考平田先哲ノ靈ノ眞柱等ノ圖ハ余ガ
 講究ニテハ改メザルヲ得ザルモノアリ故ニ茲
 ニ略圖ヲ以テコレヲ示ス委シキコハ前後ノ講
 説ヲ見テ参考アルベシ先哲ハ此一物ヲ地球ト
 シテ上ニ萌騰リテ大陽トナリ下ニ垂下リテ月
 球トナリシト云ハレタリ余ガ説ハ大陽ヲ本体
 トスルノ説ナレバ其心シテ考フベシ

圖中点々ヲ以テ示シタルモノハ内部
 ニアルモノヲ仮リニ示サン爲ノ印ナ
 リ此以下皆コレニ同シ

大虚中ニ成リタル一物分体シテ日球ト地球ト別ル、ヲ示ス略圖



高皇產靈神
 天之御中主神
 高皇產靈神

此圖ハ大陽ト地球ト分体シタルヲ假ニ形容シタル迄ノコトヲ其大小
 ノ比較等ハ其當ヲ得タルモノニ非ズ
 只大陽ノ大ナルト地球ノ小ナルトヲ
 示スノミ共大小ノ比較ニ至テハ天象
 學ノ論ヲ見テ知ルベシ

此外ニモ大陽ヨリ八方ニ分体シタル遊星アルコト思想中ニ置テ此
 圖ヲ見ルベシ
 此時ハ開闢第一期ノ始メナルニ由テ月球ノ分体ハ無キ時ナリ月球ハ
 第二期ヨリ第三期ニ至リ至ク此地球ヨリ分体セシモノナルコト古傳ノ
 道理ヲ推テ明ヲカナリ故ニ月球ノ分体ハ其處ヲ講ズルニ至リ圖シテ
 示スベシ

吾大陽系中ニハ地球ノ外ニ地球ト同
 ヲク大陽ノ周圍ヲ回轉スル遊星十餘
 個アリト聞ユ此諸遊星モ分判ノ前後
 ハ知ラザレ共必ス地球ト同ク大陽
 ノ分体ナルベキハ皆大陽ト直接ノ引
 力アリテ大虚中ニカ、レルヲ以テ地
 球ト粗同質ナルモノナラント思ハル
 レ共吾古傳中他ノ遊星ノ分体シタル
 ヲ傳ヘザレバ爰ニ圖スルニ由ナシ故

○或人問フ天地分判ノ理粗了解スル所アリ然共前圖ヲ閱スルニ大陽ハ北極星ニ向ヒタルモノトスレバ全ク地球ヨリ見ル時ハ横位ヲ本位トスルモノトナルノ理ハ聞エタルヲナルガ然ル時ニハ葦牙ノ萌騰タルモ内部トハ云ヒナガテ此圖ノ如ク北極ニ向ヒテ萌騰リタルノ理ナリ此理ヲ以テスル時ハ地球ヲ始メ他ノ遊星ノ分体迄皆大陽ノ横ヨリ八方へ分体シタル理リナリ其通りニテ然ルヘキヤ

○答フ吾古傳ノ道理ヲ推ス時ハ圖ノ如クナル理リナリ今實天地ノ現象ニ於テコレヲ考フルモ此地球一年ノ間ニ一度ヒ大陽ヲ一周スルハ理學上疑無キヲナルヲ其運行四季共ニ北極星ノ動カザルヲ見ルハ地球ガ太陽ノ周圍ヲ横ニ回轉スルヲ明カナリ然ルニ此太陽系中ニアル諸星ノ公轉ハ皆其元ヲ太陽ニ起スノ理リニシテ太陽ノ自轉ハ諸星ノ公轉ヲ起スノ元氣活動ナルヲハ此地球ノ自轉ヨリ月球ノ公轉ヲ起スモ同ヲ理リナリ是皆分体ノ時ヨリ相共ニ引力ノ應ズルニヨル所ナレバ此一理ヲ以テモ地球ハ太陽ノ分体ニシテ月球ハ地球ノ分体ナルヲハ疑ヒ無キモノナリ此理ヲ以テ考フル時ハ太陽ノ自轉ハ必ズ横轉ニシテ諸遊星ハ又太陽ノ周圍ヲ横轉スルヲ以テ

四季共北極星ノ動カザルヲ見ルモノト窺ハル、ナリ然レバ太陽ハ地球ヨリ云フ時ハ横位ニシテ横轉ナリト云ハサルベカヲズ殊ニ太陽ノ分体ハ地球ノミナラズ數箇ノ分体ナレバ横ヨリ八方へ分体シタル方理ナルベシ然共未ダ其理ヲ盡シタリト云フニ非ズ只余ガ一家ノ意見ヲ吐露シテ識者ノ訂正ヲ仰ガントスルノ參考迄ナリ

○或人又問フ御説ニヨリ粗其意ヲ得タリ然レバ太陽ヲ横位トスル時ハ天ツ國ハ何レニアリテ天神ハ何レニ坐ストシテ然ルベキヤ

○答フ此御質疑ハ次々ノ講義ニ於テ第三期ノ講ヲ終ル迄ニハ粗自得セラル、ナリ然レ共一言之ヲ辨テ置ベシ天ツ國ハ太陽ノ内部ニアルトト窺ハル、ハ彼ノ葦牙ノ如ク萌騰ル活動ノ勢ヒト葦牙彦遍神ノ内部ヲ宰リ玉フ膨脹力ノ御徳トニヨリテ始メ一物ニ組成シ玉ヘルモノ、重濁ナルモノ分体シテ清明ナルモノ、ミ殘リテ益々膨脹シ其大ナルヲ驚クベキ程ノ太陽トナリシニテ必ズ此地球ニ反シ内部ニ國アリト窺ハル、ハ諸先哲ノ説モ皆同クシテ粗一定ノ説ノ如シ然レバ其内部ニテ何レニアリトモ上下縦横ニ關係無キヲハ此地球モ一日一回ノ自轉ニ就テハ夜間ハ全ク晝間ニ比スレバ例サ

マニ成ル理ナルニ夜間ト雖モ決シテ自ラ倒マニナレリトハ感セザ
ルガ如ク人間スラ如斯況ンヤ天神ノ日球ノ上國ニ坐スニ何ク縱横
上下ノ便不便ニ關スルヲカアテシ故ニ此以下ヨリハ大陽ノ國中ニ
置神号モ縱位ニ直シテ置ケリ然共大陽ノ運轉ハ橫位ナリト辨フベ
シコレ則チ地球ノ坤軸ガ今日ハ橫位ニアリテ人ハ縱位ニ立テ相反
スルガ如ク大陽中ノ大軸モ橫位ニアリテ神等ハ縱位ニ坐マスモ同
シ道理ナルヲ知ルベシ

次成神名國之常立神次豐雲野神此

二柱神亦獨神成坐而隱身也

○サテ前ニ講ヲタル道理ニテ既ニ天地分判シ其清明ナルモノニ造
化分擔ノ神坐スニ於テハ分體シタル重濁ナルモノニモ必ズ又造化
分擔ノ神坐マサ、ルヲ得ザル理リナルヲ以テ造化分靈ノ原則ニヨ
リテ此地球ト成ルベキ分體ノ重濁ナル物ニ就テ初テ成リ出テ給フ
神ヲ國之常立神ト稱ス此神ハ亦ノ御名ヲ國之底立神トモ申奉リテ

天之常立神ニ對シテ天ト國トヲ持分ケ玉フ御魂ニシテ國之常立神
ト云フ國ハ地球ヲ云ヒ常ハトコシヘノ意立ハ立切意ニテ地球ノ外
部ヲ常シ入ニ立切守リ玉フ御徳ニテ壓力ヲ宰リ玉フ神ナリ故ニ此
神ハ天之常立神ト同シ靈ノ御分靈ト申スモ誣言ナラザル理リナル
ニ此神ヲ地球ノ内部或ハ地球ノ下底ニ就キ玉フ神ナド云ヘルハ皆
非ナリ次ニ豐雲野神成リ坐セルナリ此御名ノ豐ハ尊稱ニテ雲野ト
云フハ仮名ニ用ヒタル文字ニシテ雲ハくみくむくもナド活ク詞ニ
テ組ノ意野ハぬト通フ詞ニシテ主ノ意ニテ組主ト云フ本語ナリ此
神書紀ニハ十有餘ノ御別名ヲ傳ヘテ大同小異ナリト雖モ何レモ同
シ意ト聞ユレバ別ニ解釋セス先哲ノ傳ニ隨フベシ此神ハ大陽内部
ニ立玉フ葦牙彦遲神ノ男德膨脹ノ力ニ反シテ地球ノ内部ニ成リ玉
ヒくみくむト云フ御名ノ意ノ如ク縮引力ノ御魂ニテ申サハ女德ノ
神ナリ故ニ此神ハ神皇產靈神ノ御魂ニヨリ玉フ神ト窺ハル、ナリ
此二柱神モ上ノ別天五柱神ト同ク獨神ニ坐シテ隱身ノ神ニ坐マ
セリ獨神ト云フ意ハ上ニ別天ノ神ノ解ニ講ヲタル通リニテ書紀ニ
所謂彌化神トアル是ナリ服部中庸氏ノ三大考平田先哲ノ靈ノ眞柱

等ニハ此二柱神ハ根底ノ國所謂月球ニ配シテ説カレタレ共素ト此地球ノ内部外部ニ立玉フ神ニシテ後ニ地球ヨリ月球ノ分体スルニ至リテハ又此二神ノ御分靈月球ニモ涉リ玉フハ申ス迄モ無キナレ共其御本靈ハ此地球ニ坐マスナリ是地球ト月球ノ二個ハ共ニ内部縮引ノ力ヲ則チくみくむヨリ成リテ同質ノ分体ナルガ故ナリ大陽ハ清陽ナルモノ、内部膨脹ノ力ヲヨリ成リシガ故ニコレト同ヲカラズ然ルニ先哲ハ此二神ヲ月球ニ配シテ此地球ニハ伊邪那岐伊邪那美命ヲ配當サレタレ共此兩神トハ造化御分擔ノ御神業異ルノミナラス此時ハ未ダ月球ハ無キ時ナレハ國之常立神ト豐雲野神ハ地球ニ坐マス神ナリ先哲ノ説ニモ後ニ月球ニ就キ玉フガ如クモ聞ユレ共月球ニ坐スハ只此地球ニ坐御魂ノ御分靈トスベキ理リナルニ月球ニ配シテ圖ヲ置レタルハ大ニ後人ノ惑ヒ易キナラガ故ニ余ガ一家ノ講究圖ハ先哲ノ圖ト異ナル所アリサテ此傳マテノ古傳ニ就テハ書紀ニハ天地初判トカ或ハ天地未割ナド傳ヘタルニ古事記ニハ天地分判ノ一ハ明文ニ傳ヘズシテ天之常立神國之常立神ト神名ヲ天地ニ別テ道理上ニ自ラ一物分判ノ意ヲ傳ヘタルハ吾太古

傳説ノ特ニ妙ナル所ナリ初學ニハ此深味アルハ威覺ノ起ラザルモノナレ共靜思シテ吾古傳ノ人爲チ離レタル味ヒナ疑フニ至レハ自得スル所アルメシ○サテ前々ノ講述ニテ粗天地分判ノ道理ハ了解アルメシト雖ヒ書紀ノ開卷第一ノ傳トハ大ニ明文ノ異ルモノナレハ尙前説ヲ確メシガ爲ニ書紀卷首ノ文ヲ大略ニ講ニ置メシ古天地未割陰陽不分渾沌如鷄子^{イミタカ}冥津而含牙^{ミヤヅ}及其清陽者薄靡而爲天重濁者^{イミタカ}澆滯而爲地精妙之合^{イミタカ}摶易重濁之凝場^{イミタカ}故天先成而地後定云々此書紀ノ傳ハ專ラ漢文ノ体ニ倣ヒ撰集アリシモノニテ茲ニ掲ゲタル文ノ如キハ漢土ノ古書中ニアル三五層記ノ文ト天文訓ノ文ト合セテ吾古傳ニ照ラシ本傳ノ卷首ニ置レタル文ニシテ天地未割陰陽不分渾沌如鷄子ト云フ迄ハ三五層記ノ文ニテ吾真正ナル古傳説ニ合スレハ古事記ノ國稚如浮脂而久履下那洲多陀用幣琉時トナル古傳ト同ヲ意ニシテ未ダ天地ノ分判セザル以前ノ一ナリ此文ハ漢文ナレ共能ク吾古傳ニ符合ス次ニ冥津而含牙云々トアルハ古傳ノ如キ章牙萌騰云々ト同ヲ物ナリ次ニ及其清陽者薄靡而爲天重濁者澆滯

爲地云々ヨリ以下ハ天文訓ノ文ニシテ共ニ漢土ノ古傳文ナリ是則
チ大虛中ニカ、レル一物初メテ天地ト分ル、傳ヘニシテ清陽ナル
モノハ薄靡爲天ト云フハ彼ノ含牙トアルモノハ膨脹スル勢ヒニヨ
リテ清濁混ソタル一物ヲ分チテ其清ナル物ト濁ナルモノトナニツ
ニ分判シ清ナルモノハ漸々トタナヒキテ大ナル圓形ヲ成シ終ニ大
陽日球トナリ其濁ナル物ハ漸々トツヅキトドコホリテ爲地ト云ヘ
ルナリ次ニ精妙ノ合搏易ト云フハ其陽トナレルモノハ諸分子ノ極
精ナルモノナルガ故ニ玲瓏透徹ニシテ搏キ易ク重濁ノ凝リタルモ
ノハ地球トナルベキモノナルガ故ニ場リガタシト云ヘルナリ故ニ
天先成而地後定云々ト云ヘルモ能ク道理ニ符ヒタル丈ニテ精妙ナ
ルモノハ極精ニシテ第一種ノモノナルガ故ニ先キニ成リ調フベキ
理リニテ重濁ナルモノハ第二種ノモノナルガ故ニ後ニ成リ定マル
ハ道理上然ルベキトニテ此地球トナルベキ物体ノ重濁物ハ此時ハ
如何ナルモノナラント考フルニ兩先哲モ云ハレタル通り潮水ニ泥
土ヲ混ソテ泥水ノ如キモノナルベケレバ此物ガ泥ハ凝リ固マリテ
大地トナリ潮水ハ漸々ニ清ミテ海トナリシモノト聞エタリ然ハ書

紀モ古事記モ天地分判ノ眞理ヲ傳ヘタルハ同ク意ナレ共書紀ハ專
ラ漢土ノ風ニ倣ヒ漢文体ニ傳フルガ爲ニ漢土ノ古書中吾古傳ニ其
意ノ合スルモノアレバコレヲ用ヒテ文ヲ成シタルガ爲ニ此書紀開
卷第一ノ傳ナドモ天地開闢ノ一チ文章ノ上ニ彰ハシタル迄ニテ何
者ガコレヲ造リタリト云フコトハ知ルニ由ナシ古事記ハ多ク文章ハ
加ヘラレザレ共太古ノ神言ヨリ傳ハリタル儘ナルガ故ニ天地分判
ノ道理ヲ神名ノ上ニ自ラ含ミテ傳ヘラレタルヲ以テ造化ノ神德神
量ニヨリテ成リシコトモ明カニシテ大天地組織ノ原則ハ分靈分擔ノ
神量ニアルコトモ短簡ノ本傳中ニ含メアリテ其道理ノ明カニ窺ハル
、ハ人爲ノ企テ及ブ限リニ非サル妙傳ナルコト知ルニ足ルベシ
○或人問フ前ノ御講述ニテ天地開闢ノ眞理ハ粗了解セリ御説ノ通
リ吾太古ノ傳説ナルモノハ造化三神ノ御德ヲ説クニ及テハ大宇宙
間恒星天迄カ、レハ勿論ナレ共天地分判ノ時ニ在テハ單ニ吾大
陽系中ノ古傳ト窺ハル、ガ故ニ他ノ恒星天ノコトハ暫ク措クモ同ク
區域内ナル他ノ遊星ニ至テハ地球ト同ク太陽ノ分体ナルベキハ道
理ニ於テ動クベカラザル理ナレバ此地球ニ造化分擔ノ國之常立神

豐雲野神就キ玉ヒ内外両部ヲ持分ケ玉ヘルヲ以テ考フル時ハ分判
 ニ前後ノ別ハアリト雖モ他ノ太陽系中ノ遊星モ皆分判ノ時ニハ必
 ズ造化分擔ノ神坐サ、ルヲ得サルノ理ナリ如何
 ○答フ御質疑ハ最モ高尚ニシテ道理上ニ於テハ必ス然ラザルヲ得
 ザル理ナレ共前ニモ申述タル通り太陽系中ノ遊星ハ同系ノ區域内
 ニアリテ地球モ其内ノ一遊星ナリト雖モ吾地球ト他ノ遊星トハ間
 接ノ關係ハアルモ直接ニ引力アルニモ非ズ諸遊星トモ皆太陽ニ向
 テ直接引力ノモノナレバ太陽ヨリハ悉ク其組織如何ヲ知リ玉フベ
 キハ勿論ナレ共此地球ニハ他ノ遊星ノトハ傳ヘナケレバ古傳ニ於
 テ考フベキ便リナシ只道理上ノ講究アルノミ然レ共御質疑ニ隨ヒ
 參考迄ニ之ヲ論ズレバ開闢ノ始メ此地球ノ内部ニ就キ玉フ豐雲野
 神ハ隱身ノ御魂ニ坐シテ神名ノ上ニ粗御神德ノ窺ハル、イナルニ
 吾古傳ノ例トシテ神名ノ多少ハ神業ト神德ニヨリテ名ツケ奉ル例
 ナルニ此天地分判ノ太古ニシテ豐雲野神ニ限リ亦ノ名ヲ大同小異
 十余名モ傳ヘタルヲ思ヘバ此神ハ此分判ノ時ヨリ多クノ御分靈坐
 マシテ他ノ遊星ノ造化ヲモ分擔ナシ玉フニハ非ルカト想像シ奉ラ

ル、ガ故ニ此道理ヲ推テ聊カ講究シタルトモアレ共アマリ極端ノ
 論ト成ルガ爲ニ先此トハ一家ノ想像迄ニ止メシナリ然ラレバ此
 神ノ御功業ノ明文ニ傳ハラザルニ合セテ亦ノ御名ノ多キヲ如何ト
 モ辨シガタシ兎ニ角ニ此神ノ亦ノ御名ノ多キハ後々ノ神ノ明文ノ
 御功業ヨリ種々ノ御名ヲ負セ奉リテ傳ヘタル例ニ異レバ深キ理リ
 モアルナラント考フル所アレバ御質問ニ隨ヒ他日ノ御參考ニ供シ
 置迄ナリ吾古傳ハ太陽地球月球ノ三大球ニ渉ルヲ旨トスル神傳ニ
 シテ最モ此地球ノ組織ヲ明カニ傳ヘタル書ニテ他ノ諸星ニ至テハ
 傳ヘ無ケレバ只地球上ノトナレテ古傳ノ道理上ヨリ想像ヲ及ホス
 迄ニ止ルトナレ共造化大元ノ神則タル分靈分擔ノ理ヲ以テスル時
 ハ他ノ遊星ニモ必ズ造化分擔ノ神坐スハ疑無キトナリ

次成神名字比地邇神次妹須比智邇
 神次角杙神次妹浩杙神次意富斗能

地神次妹大斗能辨神次游母陀琉神
 次妹阿夜訶志古泥神次伊邪那岐神
 次妹伊邪那美神

(古事記ニ所々神名ヲ括リテ上件幾柱神ナドアルハ此記撰者ノ加筆ニシテ古傳ト云フニ非レバ此以下皆之ヲ略ス) ○ヤテニ、ニ宇比地邇神妹須比智邇神ト云フヨリ伊邪那岐神伊邪那美神ト云フ迄ハ何レモ前ノ獨化ノ神トハ異ニシテ男女兩神並ビテ成坐セル神ナリ此内ニテ伊邪那岐伊邪那美神ヲ除クノ外八柱神ハ御名ヲ傳ヘタルノミニテ更ニ御神業ノ傳ハラズ神等ナルヲ以テ御神名ノ本語ニヨルモ更ニ其御神徳ノ如何ヲ講ズベキ道ナキ神ナルガ故ニ近時ニ至リテハ此神ヲ或ハ五元ノ徳ニ配シ或ハ他ノ遊星ニ配スル等ノ説モアレ共是等ノ説ハ採ルベキ説トシテ信ワカザシ先ヅ此神名ヲ考フルニ阿先哲ノ説ノ如ク宇比地邇須比智邇ト云フハ泥ノ未ダウヒ

うひしき意ニシテ初泥砂泥ノ義下タノ邇ハ根ト通フ稱辭ナリ角杵活杵ト云フ杵ハくみくむト云フ意ニテ物ノ芽クミ出テ活キ動ク義ナリ意富斗能邇大斗能辨ト云フ意富ハ大ト同ク尊稱ニテ斗能邇斗能辨ノ邇ト辨ハ男神ト女神ト別ツノ稱辭能ト云フモ助辭ナレバ此御名ハ只斗ト云フ一語ノミ其意ノアル所トナル斗ト云フハ處ト云フ義ニシテ男女ノ御シルシノ所ヲサス言詞ニテ此次ノ傳ニアル美斗能麻具波比トアルヒノ意ト同ク男女ノ隠シ處ヲ指スナリ遊母陀琉訶志古泥ト云フハ面足惶根ノ義ニテ御面モ足リ調ヒ惶ヒコク窺ヒ奉ラル、ヨリ稱シ奉ル御名ト聞ユルナリ惶根ノ根ハ稱辭ナリサテ此男女並ビ坐セル八柱神等ハ如何ナル神ナラント云フニ本居先哲ハ此時ニ未ダ國土ノウヒウヒしき時ニ成リ坐セル神等ナレバ其國土ノウヒウヒしき形ト此神ノ成リ玉フ御容貌ヲ國土ト神トニ配リ當テ御名ニ負セ奉ツリシナラントノ意ニ解カレ皆別神ノ如ク聞ユ平田先哲ハ全ク伊邪那岐伊邪那美神ノ御體ノ漸々ニ成リ玉フ御上ヲ順次ニ別神ノ御名ノ如ク傳ヘタルナラントノ意ニ解カレタリ余ハ平田先哲ノ説ニ隨フベク思フナリ(委シクハ先哲ノ説ヲ見

ルベシ)如何トナレハ始メノ宇比地週須比智邇ト云フハ伊邪那岐
伊邪那美神ノ御體ノ成リ玉フ始メノ未ダウハしき時ヲ指テ稱シ奉
リタルニテ後世人間ノ胎中ニヤドリテ其形ヲ造ルハ又此大元祖
ル大神ノ御神體ノ成レル狀ヲ大原因トスルナリ次ノ角杙活杙ト云
フハ物ノ芽々み角々むト云フ意ヨリ其物ノ活動スベキ形ヲ云ヘル
ニテ御神體ノ粗成リ始マリタルヲ云ヒ大斗能地大斗能辨ト云フハ
斗ノ一語ノ意ナレハ最早彼ノ御隱シ處ノ御形モ調ヒテ男女ノ御體
ノ定マリシヲ傳ヘタルニテ次ノ面足惶根ト云フハ漸々ニ神體ノ
調ヒ玉ヒテ最早御面モ足リ調ヒテ惶キ御容貌ト成リ玉ヒシ意ト聞
ユ伊邪那岐伊邪那美神ト云フニ至リ御全身調ヒ玉ヒシト窺ヒ奉
ラル、カ故ニ此所ノ十柱ノ内始メノ八柱ノ神ハ皆伊邪那岐伊邪那
美神ノ御上ヲ其御神體ノ成リ調ヒ玉フ順序ヲ以テ別神ノ如ク傳ヘ
タルナリト云ハレタル平田先哲ノ説ニ隨ヘルナリ又此兩神ノ御名
ハ本居先哲ノ説ニ伊邪ト云フハ誘フ義ニテいさなひ男君いさなひ
女君ト云フ意ナリト云ハレタルハ動クマシキ解ト云フベシ○ヤテ
此伊邪那岐伊邪那美ノ兩神ヲ平田先哲ハ地球ニテ成坐セル神ノ如

ク論ヲラレタリ亦其御體ノ成レル所以ハ高岡康則氏が考テ用ヒテ
レテ此地球ト成ルベキ物ノ未ダウヒウヒシキ時ノ初泥砂泥ト云フ
ベキ國土ノ精ナルモノヲ以テ其形像ヲ造リ玉ヘルナラント云フ説
ヲ可トセラレタリ此考委シキニ過ギタル程ノ考ナレ共此地球ハ大
陽ニ比スレハ諸原素ノ重濁ナルモノニテ其極精ナル物ハ太陽ナレ
ハ此大神ノ御神體ヲ造リ出玉フヲ重濁ナル地球ノ精ヲ以テ造リ玉
フト云フハ道理ニ於テ如何アラント思ハルレ共又此前ノ豊雲野神
ト國常立神ノ二柱ハ必ス此地球ニ就キ玉フ御魂神ナレハ其後ニ成
出玉フ伊邪那岐伊邪那美神モ地球ニテ成坐セリト云フ理リ無キニ
ハ非レ共前ノ二柱神ハ獨化隱身ノ魂ニテ造化神業ノ御分擔モ大ニ
異ル所アルノミナラズ此次ノ本傳ニ天神ノ神勅ヲ奉シテ兩神共直
チニ天降り玉フ明文モアレハ天ツ國ニ成玉フト云フ方然ルベシ此
兩神御神體ノ成リ始メノ御名字比地週須比智邇トアルハ全ク初泥
砂泥ノ意ト聞ユレハ地球ノウヒウヒシキニヨリテ稱シ奉ル御名ノ
如クナレ共此時ハ太陽天ツ國モ未ダウヒシキ時ナレハ何レニ
テモ御名ニ妨ゲナシ人アリ或ハ云ハン太陽モウヒシキ時トハ

雖ニ大陽ニハ泥砂ナドノアルマクモアラザルベシト之レ天地分判ノ眞理ニ違ヘリ大陽ハ諸原素ノ極精ナルモノニテ此地球ニアル程ノ諸原素ノ精ナル物ハ必ズアルベキ理リナルハ素ト一物ノ清濁ノ二個ニ分判シタルヲ以テ明カナリ故ニ余ハ伊邪那岐伊邪那美ノ兩神ハ天ツ國ニ成給ヘリトス先哲ノ説ト何レカ是ナラシク参考ノ爲メ茲ニ辨シ置ナリ然シテ又平田先哲ハ此兩神ハ一度北極紫微宮ニ昇リ玉ヒテ天神ノ神勅ヲ紫微宮ニ於テ奉シテ天降り玉フナリト論ヲラレタレ共コレ亦隨ヒ難キ説ニシテ必ズ此兩神ハ本居先哲ノ説ノ如ク大陽高天原ヨリ天降り玉フ神ト知ラレタレ其然ル所以ハ此次ノ傳ニ於テ此兩神ノ始メテ天降り玉フ時ノ講述ニ至リ余ガ一家説ヲ合セテ講述スベシ

○或人間ノ御講述中ナレ共序ナガヲ參考ノ爲メ聊カ承リ置タシ大陽ノ内部ニアル天ツ國ハ如何ニシテ成リシモノナリヤ

○答フ大陽ハ前ニ講シタル通り諸原素ノ極精ナルモノヲ以テ成シ玉ヘルハ道理上動カザルヲナレ共吾神代ノ傳ヘナルモノハ專ラ地球ノ組織ヲ旨トシ大陽月球ノ三大球ニ渉ル古傳ニハアレ共大陽中

ノ天ツ國ノ一ハ傳ハテザルヲ多ケレバ大陽内部ニ天ツ國ヲ造リ成シ玉ヘル神業ニ至テハ後世人智ヲ以テ如何トモ窺ヒ奉ルベキ限リニ非ズ然共吾地球ノ重濁ナル諸原素ヲ以テ造リ玉フニ比スレハ無上善美ノ最上國ナルハ申ス迄モ無ク此地球上ニアル程ノ諸原素ノ精ハ悉ク備ハリ有ベキ理リナレバ其極精ナル諸原素ヲ以テ造化ノ大神ノ不可思議ノ御神徳ヨリ直ニ造リ成シ地球ハ伊邪那岐伊邪那美神ニ勅リシテ造ラシメ玉フモノト窺ヒ奉ラル、ナリ都テ太陽高天原ニテ造化ノ神ノ直ニ成シ玉フ神等ハ皆奇成ノ神ニシテ此地球ニテ合歡ノ道ヨリ体生ニ成リ玉フ神トハ異ナルモノニテ奇成ノ神ノ御身ニ著ケ玉ヘル物ハ御衣御劔ノ類ヒニ至ル迄皆冥々ノ中ニ自テ成レルモノニテ神体ト同ク奇成ノモノナリ此幽理玄妙ノ眞理ハ愛ニ盡スベキ限リニ非レバ余ガ此講述ヲ次々聞カレナハ其玄理ヲモ粗自得セラル、ニ至ラシ尙次ノ傳ニ於テ八尋殿ヲ見立玉フ所ニ至リ講ズル幽理ト合セテ參考アルベシ○サテ愛ニ聊カ辨シ置テアリ吾古傳ナルモノハ伊邪那岐伊邪那美神ノ成出玉フ迄ハ多ク天地組織ノ大元ヲ傳フルニ文ヲ以テ傳ヘズシテ神名ノ上ニ自ラ

其實跡ヲ傳ヘタルモノナルガ故ニ必ズ神名ノ本語ヲ以テ講究セザレハ其眞理ヲ發見シ得ガタケレハ是迄ハ多ク本語ノ解ヲモ加ヘタレ共此以下ニ至テハ明文ニ傳フル所多ケレハ神名外ノ語解ノ如キハ至要ニ非レバ之ヲ兩先哲ノ傳書其他諸家ノ解ニ讓リテ別ニ語解ヲ加ヘズ專ラ道理ノアル所ヲ旨トシ眞理ヲ發見セントスルニアル故ニ他ノ同學諸子ノ解トハ異ル所アリテ時流ノ通俗言語ヲ以テ實天地ノ現象ト道理トニ訴フルヲ旨トス故ニ講述中先哲ノ說ヲ引用スルモノト雖モ更ニ諸書ノ考証ヲ引カザルハ引書ノ多岐ナルハ本講ノ氣脈ヲ妨グルノミナラズ小部冊子ノ盡スベキ限リニ非レバナリ其他諸家ノ說ニ至テハ偶々同感ノモノヲ舉ルニ過キズ故ニ何レノ說ト雖モ只其意ヲノミ採テ短簡ニ之ヲ講ズルヲ本旨トスルガ爲ニ或ハ其本說ト異ナルガ如ク聞ユルモノ無キニモ非ザルベシ然レ共他說ヲ舉ルモノハ成ルベク其意ノ違ハザルヲ旨トスベキモノナレバ自然余ガ誤解アラシムニハ必ズ叱正シ玉ハンコトナ

於是天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪

那美命二柱神修理固成是多陀用幣
流之國賜天沼矛而言依賜也

○サテ茲ニ天神諸命以云々トアル天神ハ本居先哲ハ別天五柱神ヲラント云ハレ平田先哲ハ造化三神ナリト説カレタレ共此天神諸命云々トアル天神ハ專ラ皇產靈神ノ兩神ノ御上ヲ申奉ルナリ如何トナレバ此時太陽高天原ニ坐ス皇產靈神ハ別天隱身ノ御本靈ニハ坐マサズ吾太陽系中造化御分擔ノ爲ニ太陽中ニ靈體ヲ現シ玉フ御分靈ノ皇產靈神ナルコトハ前ノ講述ニ辨シ置タル通りナレバ獨化隱身ノ魂ニ坐ス葦牙彥邇神天之常立神兩神モ此時共ニ勅リ玉フニハ非ルベキ理リナリ又平田先哲ノ造化三神ト説カレタルハ此時ノ勅リヲ北極紫微宮則チ別天ヨリノ勅リトシテ講ワラレタルモノナリ造化三神ノ御本座天眞中ヲ北極紫微宮ト云ヘタルハ實天地ノ現象ニ照ラシテ勅カザル道理ナレ共此時伊邪那那岐伊邪那美命ニ御神勅アリシハ太陽高天原ノ產靈神ヨリ勅リ玉フコトト窺ハヤ、ガ故ニ余

ハ紫微宮ヨリノ勅リト云フ説ヲ採ラズ特ニ三神並ビ坐サンニハ此
 次ニ勅リアル時ニ太麻邇ニト相テ詔リ玉フトアル占事ハ何レノ神
 ノ御神慮ヲ伺ハセテレシトセンカ大元靈天之御中主神ノ御神慮ヲ
 伺ヒ玉ヒシノ外ナラザルベシ然ハ天之御中主神ハ此時共ニ御神勅
 坐スニ非ルヲト聞ユレバ此諸命トアルヲ造化三神トハ申難ク必ズ
 大陽高天原ニ坐ス皇産靈ノ兩神ヨリ勅リ玉フ理リナリ然ハ諸ト云
 フ字ヲ如何ト云ヘバ此諸トアルハ諸共ニト云フト同ク人ニテモ二
 人以上ハ諸共ニト云フテ聞ユルヲナリ此諸命トアルハ皇産靈ノ兩
 神諸共ニト云フヲ命トアルハ詔リナリ以テト云フハ聞ユタル
 ガ如シ次ニ詔伊邪那伊邪那美命ニ柱師修理固成是多陀用幣流之
 國云々ト詔ヒシハ此時地球ハ漸ヤク大陽ト分判シタルノヨニテ前
 ニ申シタル分判前ノ一物ノエトク大空ニ漂蕩トシテアリシ時ノ形
 ナ詔玉ヒシニテ修理固成ト詔リ玉フハ其漂蕩タル地球ヲ修理シテ
 凝固ナラシメヨト詔玉ヘルナリ賜天詔予而言依賜也トアルハ其漂
 蕩タル地球ヲ凝固ナラシメ玉ハンガ爲ニ賜ハリシ詔予ニテ申サハ
 此予ナリテ修理固成ノ神業ヲ成スベシトノ御神量ナリ言依シノ言

ノ字ハ事ノ字ノ意ニテ其御事業ヲ云ヒ依シトアルハ其事業ヲ寄セ
 任カスルノ意ニテ御依任遊ハサレシナリサテ本文ノ解ハ粗如斯ナ
 ルガ此時地球ハ潮ト泥ト相混テ濁水ノ如キモノが大空ニ圓形
 ナ成シテ漂蕩トシテ未ダ大地ト云フベキ骨格モ無ク流動シテアリ
 シモノナレバ先ツ第一ニ此潮泥相混シタルモノヲ水ト土ト二箇ニ
 大別シテ土ニ屬スベキ諸原素ヲ凝結セシメ漸々ト潮ヲ澄マシメ玉
 フ始ニテ地球組織ノ第一着手トモ云フベキ御神勅ニシテ此修理固
 成ノ御神勅ハ萬世ノ今日ニ貫ク御神勅ナレ共其最モ要トスル所
 ハ凝固ノ神意ニアリテ未ダ骨格定マラザル此地球ノ泥土ヲ凝固セ
 シメテ早ク大地骨トモ成ルベキ骨格ヲ定メ國土ト成ラシメヨトノ
 御神慮ナルヲハ彼ノ固成ノ二字則チ本語かためなせト詔フ凝固ノ
 意ニ明カナリ此天詔予ナルモノハ如何ナルモノト云フハ窺ヒ難
 キヲナレ共此次ノ本文ノ明文ニ隨ヒ道理ヲ推テ申サハ未ダ此地球
 ハ自轉モ定マラズ又地軸トナルベキモノモ無ク骨格定マラザルモ
 ノナルガ故ニ深キ神慮ヲ以テ此詔予ヲ賜ヒシト窺ヒ奉ラルハナ
 リ本居先哲ハ此詔予ノ詔ハ玉ノ本語ナレバ玉銚ト云フヲナリト云

ハレ平田先哲ハ此沼矛ハ鐵氣ノ純ナルモノニテ金玉ノ凝成シタル
如キモノナラント云ハレタリ余ガ考ハ次々ニ云フベシ
○或人間ノ庸爾以來天地ノ間ニ未ダ一器物モ無キ時ナルニ此沼矛
ハ如何ニシテ成リシモノナリヤ
○答フ都テ天地ノ間ニ於テ此時迄ハ始メ葦牙ノ如キモノトアルヨ
リ外ニ一器物モ無キ時ナルハ素ヨリノニテ萬物ノ元種ハ伊那那
岐伊那那美命ヨリ起リシトナルニ茲ニ沼矛ト云ヘルモノアルハ皇
産靈神ノ不可思議ノ御神徳ニヨリテ冥々ノ中ニ造リ成シ玉ヘルモ
ノニテ奇成ノ物ト歎ハル、ナリ先哲モ同マ意ニ説カレタリサテ此
沼矛ノミナラズ伊那那岐伊那那美命ノ萬物ノ元種ヲ起シ玉ハザル
以前ト雖也神等ノ御上ニハ御衣モアリ又御劔モアリ是等ノ品ハ皆
後世人間ノ作爲ニ成レル品ト異ニシテ其神ノ神体ノ奇成ニ坐スト
共ニ其神ノ御上ニ自ラ備ハリアルモノニテ天ツ國ニテハ神等ノミ
ナラズ皆冥々ノ中ニ皇産靈神ノ靈徳ヲ以テ造リ成シ玉フナリ此幽
理ハ他ノ道理上ヨリ推スヘキモノト違ヒ玄妙ノ神理ヲ歎ヒ奉ルニ
非レハ言論ノ及テ限リニハ非レ共余ガ講述スル神傳ヲ第三期ニ至

ルマデ講究アラハ其玄妙ノ幽理アルトナ自得セラル、ニ至ルベシ
全能全智トモ申奉ル造化ノ神徳ヲ以テ何物ヲカ成シ玉ハザルトカ
アラソ都テ地球ニテハ奇成ノ神ノ御神体ヲ除クノ外ハ萬物皆其元
種アリテ順テ經ルニ非レハ一器物モ成ルト無シコレ重濁ナル物ヲ
以テ造リ玉フガ故ナリ之ニ反シテ天ツ國ニ於テハ多ク玄妙ノ神術
ニヨリテ即時ニ物ヲ成シ出シ玉フ之レ極精物ヲ以テ成シ玉フガ故
ナリ後世ニ至リテ仙術ヲ行フモノ或ハ笠ヲ投ワテ舟トナシ或ハ杖
ヲ投ワテ橋ト成ス等ノ奇術アルハ此幽理玄妙ノ神術ヨリ起リタル
モノニテ人智ノ外ノ幽理ナリ時流學ノ人ニ於テハ如斯玄妙ノトニ
至テハ善惡正邪ヲモ別タズ一向ニ虛談怪談トノミ思ヒ一言ノ下ニ
之ヲ論破セントスルガ如キ説多ケレ共天地造化ノ眞理ニ至テハ人
間ノ智力及ハザルト多キハ眼前ニ明カナルトニテ如何ナル智力ア
リトモ一艸木ト雖也其實物ヲ造リ出ス如キノ玄妙ノ神術ハ有ベカ
ラズ然ルニ天地間玄妙ノ幽理無キモノトスレバ何物カ萬物ヲ造リ
出サンコシテ疑フハ夏虫水ヲ疑フヨリモ甚シト云フベシ此玄妙ノ
奇術ハ後世ノ人間ニハ傳ラザルトナレ共仙術ヲ行フモノハ自ラ此

妙術ノ幾分ヲ得ルナリ況ンヤ開闢ノ始メ天地ヲモ造化成シ玉フ大
神等ニシテ此神術無カラシヤ然レ共玄妙ノ術ニモ善惡正邪アリテ
善神ノ行ヒ玉フハ正ニシテ善ナリ惡神ノ行フ所ハ邪ニシテ惡ナリ
人間多ク此正邪ヲ分別スルニ迷ヒ邪惡ノ妖術ニ犯サル、モノ少ナ
カラズ故ニ神傳ニ隨テ其正邪ヲ常ニ辨フベキナリ尙次々ノ講究ヲ
其心シテ聞カルベシ

○或人又問フ御辨明ニヨリテ粗其意ハ了解セリ然ルニ此時伊邪那
岐伊邪那美命此地球ニ天降り玉フニ於テ參考ノ爲メ聊質疑致置度
トアリ如何トナレハ此兩神ハ前ノ御説ノ通り男女偶成ノ神ニシテ
此前ノ八柱ノ神ヲ此神ノ御神体ノ漸次ニ調ヒ給フ上ノ御名トスレ
ハ全ク男女偶生ノ神ハ此兩神ノ外坐マヤ、ルノ理ナルニ吾太陽系
中諸遊星モ多キ中ニ於テ吾地球ハ太陽最近ノ遊星トモ申シ難ク又
遊星中ノ大ナルモノトモ申シ難ク云ハハ小ナル方ニ屬スル一遊星
タル此地球ヲ撰テ天降り玉フハ如何ナル道理ノアルニヤ參考ノ爲
メ承リ置タシ

○答フ高尚極端ノ御質疑ナレ共必ス道理無キニ非ズ先ツ太陽系中

ニ於テ太陽ノ周圍ヲ回轉スル諸遊星ハ吾地球ト同ク太陽ニ直接ノ
引力アリテ回轉スルモノナレハ何レモ太陽ノ分体ナルベキハ此地
球分体ノ神傳ニ照ラシ道理ヲ推テ窺ハル、トニテ其諸遊星ハ太陽
所轄ノモノタルハ疑ナ容ル、所無シ然ハ吾地球ノミナラス他ノ星
球ヲモ造化シ玉フベキ理リアルハ之ヲ推テ彼ニ及ボスノ道理ナレ
ハ必又其星球造化ノ分擔ヲ成シ玉フ神坐スベキナリ然共吾古傳ナ
ルモノハ單ニ太陽地球月球ノ三大球ニ涉ルノ神傳ニシテ他ノ遊星
球ノトナ傳ヘタル明文非ザレハ他ノ星球ノ組織如何ヲ講究スベキ
道ナシト雖ハ御質疑ニ隨ヒ諸遊星中特ニ吾地球ヲ撰テ天降り玉フ
神慮ニ於テハ假令極端ノ論ト雖ハ講究スベキモノナレハ聊一家ノ
意見ヲ述ベシ吾古傳ニ據レハ伊邪那岐伊邪那美命ハ萬物ノ大元種
ヲ起シ玉フ大神ニシテ体生ノ道ヲ始メ萬物種子ノ道ハ此兩神ニ初
マリタルモノニテ萬物ノ大元種トモ申スベキ大神ナリ然ルヲ特ニ
吾地球ニ降シ玉フ御神量ヲ窺ヒ奉ルニ吾地球ハ太陽ニ最近ナルニ
モ非ズ又遊星中大ナルニモ非ザレ共各星ノ中ニ於テ最モ萬物ノ蕃
殖スベキ質アルヲ以テ此地球ヲ良田トシテ萬物ノ元種ヲ起シ玉フ

御神慮ニモアルベシト歎ヒ奉ラル、ナリ其故如何トナレハ第二期ノ末ニ至リテ、大陽高天原ヲ主宰シ玉フベキ天照大御神キヘモ此地球上ニテ奇成シ玉ヒシヲ思フニ造化ノ御神業ノ上ニ於テ最モ此地球ニ御神慮ヲ寄セ玉ヒシ事ト歎ハル、ナリ然ハ大小遠近ノ別ニヨルニ非ズシテ其地質ノ善其ナルコト云ハザルベカク、卑近ノ譬ヲ採ルハ恐懼ノ至ナリト雖、此道理ヲシテ見易カラシメンガ爲メ假ニ譬喩ヲ以テ申セバ先ツ爰ニ一家ノ農民アリトセヨ其主人ガ自ラ所有スル田地數ク所アリテ此田地ニハ大ナルモアリ小ナルモアルベク又自家ヨリ近キモアリ遠キモアルベク然レテ各其地味ヲ異ニスルモノト假ニ思ヒ定メテ其主人ガ善其ナル米種ヲ貯蓄シテリトセヨ春氣巳ニ至リテ其善其ナル元種ヲ蒔カントスルニ當リ其主人ハ初メヨリ各所ノ田地ニ植付ルニ非ルベシ必ズ其元種ヲ一度苗代田ニ降シテ播キ其繁茂スルヲ俟テ各所ノ田地ニ之ヲ植ウルナラシメ其始メテ種ヲ降キントスル時其主人ハ如何ナル思想ヲ抱クベキヤ此種ハ地味ノ善美ヲ問ハズ田地ノ大ナルヲ撰ンテ之ヲ蒔ベキカ又地味ハ善ナラズト雖、便利ヲ以テ最近ノ田地ニ之ヲ蒔ベ

キカ又ハ大ナルニモ非ズ最近ト云フニモ非レ共地味極上等ノモノヲ撰ンテ之ヲ蒔ベキカト云ハハ其主人ハ必ズ大小遠近ヲ撰ハズシテ其元種ヲ最上等ナル地味ト見定ムル田地ニ蒔キ其種ヨリ繁茂スル所ノ苗ヲ以テ之ヲ各所ノ田地ニ移スナルベシ是道理ノ最モ見易キモノトテ天地ノ大ナルト人事ノ小ナルトノ別ハアレトモ道理ヲ以テ推ス時ハ吾地球ハ他ノ遊星ヨリ小ナリト雖、造化ノ上ニ於テ萬物ノ元種ヲ起シ玉フ御神業ニ最良ノ御田地ナリト云ハザルヲ得ザルモノナリ故ニ吾地球ニ此兩神ヲ降シ玉ヒ此神種ヨリ八百萬神ト繁茂シ玉フ神ヲ以テ各遊星造化ノ神業ヲ分擔成サシメ玉フト云フモ道理上誣言ニ非ズ故ニ此理ヲ推シテ參考アルベシ此ア論マリ極端ノ論ナルノミナラズ神典明文ノ外ニワタル論ナレ共第二期ノ末ニ至リ天照大御神ノ成リ坐セルコトニ就キ參考トスベキ論ナレバ御質疑ニ隨ヒ爰ニ意見ヲ述置ナリ

故一柱神立天浮橋而指下其沼矛以

畫者鹽許袁呂許袁呂邇畫鳴而引上
 時自其矛未垂落之鹽累積成島是淤
 能碁呂島

○サテ伊邪那岐伊邪那美命ハ天神ノ勅リニ隨ヒ此地球ニ降リ玉ヒ
 テ先立天浮橋而云々此浮橋ノ説種々アリト雖也余未ダ信チ置迄ノ
 説ヲ聞カズ前ニモ辨ツタル如ク此時ニハ未ダ天地ノ間ニ橋ト云フ
 べき物ノ有ベカラザル時ナレ共造化ノ神量ヨリ成シ玉ハノニハ冥
 ヲノ中何事ナカ成シ玉ハザラン都テ神等ノ天地ノ間ヲ通ヒ玉フニ
 ハ浮橋トカ磐舟トカ傳ヘタルハ全ク方今地球ニアル橋舟ナド、異
 ナリ天地往復ノ便ニ備ヘ玉フ造化奇成ノモノナレハ今日其何物タ
 ルナ知ルベキニ非レ共橋舟共此岸ヨリ彼ノ岸ニ渡ルベキ備ヘナレ
 ハ其意ハ同シクシテ天ヨリ地ニ渡リ玉フ備ヘナリト見テ然ルベシ
 先哲ノ説モ亦此意ノ外ナラズ前ノ沼矛ノ參考説ト共ニ幽理ニ屬ス

ルモノナリ此時地球ハ未ダ分判シタルノミニテ國土ト云ベキモノ
 無ク潮泥相混ヲタル一個ノ流動物タルヲ以テ兩神モ先ツ浮橋ノ上
 ニ立玉ヒテ彼ノ天沼矛ヲ潮泥相混ヲタル此地球ニ指下シ玉ヒシナ
 リ然シテ其沼矛ヲ以テ潮ヲ畫回ラシ玉フニヨリテ畫玉ヘバト傳ヘ
 タルナリ其畫回ラシ玉フ御手ノ運ビニヨリテ鹽ノ漸々ニ凝行形ヲ
 指シテ鹽許袁呂許袁呂ニ畫成シ玉フト云フナリ其沼矛ヲ引上ケ玉
 フ時ニ其沼矛ノ先ヨリ垂落ル鹽累積成嶋ト傳ヘタル如ク其潮ヒ泥
 トガ累リ積リテ一個ノ島トナリシナリ島ト云フハしまりしまるト
 云フ本語ヨリ云ヘルユテ是淤能碁呂嶋ナリト有ルハ自ラ凝リ縮ル
 ト云フ意ナリ○サテ此明文ヲ以テ者フルニ始メ許袁呂許袁呂ニ畫
 成シ玉ヘルハ此漂蕩トシテ未ダ運轉モ定マラザル地球ニ始テ自轉
 ノ活動力ヲ起サシメ玉フ御神業ニシテ今吾人ノ住居シタル地球ガ
 自轉ヲ成スハ此時伊邪那岐伊邪那美命ノ潮ヲ畫成シ玉ヘル御手ノ
 運ヒト沼矛ノ徳トニ起リシモノナリ實ニ人智ノ測リ知ルベカラサ
 ル奇傳ト云フベシ暫ク靜思シテ思テ太古ニ同ク此神理玄妙ノ御
 神業ヲ窺ヒ奉ルベシ此沼矛ナルモノハ後ニハ此地球ノ大坤軸トナ

リテ地球ニ骨格ノ定レルハ此沼矛ナル坤軸アルガ爲ナリ造化ノ神業恐ルベキモノニ非スヤ穴賢ニ

○或人問フ御説ニヨリテ地球自轉ノ原因ト大地軸アリテ地球ノ骨格定マリタル原因ハ大ニ了解シ其神業ノ大ナルニ驚ケリ實ニ伊邪那岐伊邪那美大神ハ地球ノ大造化御分擔ノ神ニ坐セバ此御兩神ニ於テハ其御神体ノ大小ハ今窺ヒ奉リカクシト雖ヒ全能全智ト申奉ル造化大元靈ノ御手ニ代ラセラル、神業ナレバ其御神体ノ大小ニ拘ラズ此地球ノ如キハ人間ノ愁ヲ弄スル程ノ御事ト申奉ルモ敢テ過稱トモ申シ難カルベシト雖ヒ此沼矛ナルモノ初ヨリ地球ノ北極ヨリ南極ニ貫ク程ノ大ナルモノニモ非ザルベク然ルニ此矛テ地球ニ指下シ玉フニヨリテ大地球全体ニ感動シ自轉ノ活動ヲ起スノミナラズ其矛ノ先キヨリ垂落ル一滴ノ潮露ヨリ自凝結トナル等今少シ其理ノ解セザル所アレバ御説明ヲ仰ク

○答フ此質疑ニ就テハ先ツ天沼矛ナルモノハ何物ナリト云フヲ辨置クニ非レバ解スルニ難カルベキガ故ニ爰ニ其沼矛ト云フモノ、性質ヨリ講究スベシ此沼矛ハ先哲ノ説ノ如ク玉銚トモ申スベ

ク又鐵氣ノ純ナルモノトモ申ベキ理リニシテ地球ノ北極ニ磁石ノ向フ如キモ皆此坤軸タル沼矛ノ鐵氣ノ吸引力ニヨルモノナレバ動クマシキ説ナレ共深ク道理ヲ推テ考フルニ吸引力ナルモノハ縮引カト粗相似タル引力ニテ内外ノ別アルノミト聞ユルニ此沼矛ヲ先哲モ男柱ノ形ナラント云ハレタルヲ思フニ全ク男徳ヲ備ヘタル矛ト考ヘラレタルナラント然ルニ吸引力ヲ旨トシテ説カレタルハ理ニ於テ如何アラント考ヘラル、ナリ故ニ余ハ此沼矛ハ男徳ニシテ膨脹力ノ徳ヲ專ラトシ加フルニ吸引力ヲ兼タル性質ノモノト考フルナリ如何トナレバ平田先哲モ此沼矛ハ造化奇成ノ奇物ニシテ皇産靈神ノ靈妙不可思議ノ神徳ヨリ天ノ御柱トモ申スベキ彼葦牙ニ寄セテ作り出テ玉ヒ皇産靈神ノ魂ヲ添テ授ケ玉ヒシナリトノ意ニ説カレタリ此説實ニ動クマシキ説ナレバ此説ニ隨テ考フルニ此沼矛ハ皇産靈兩神ノ造化ノ魂ヲ付ケ玉フハ膨脹ト吸引トノ兩力ヲ備ヘ玉フ所以ニシテ之ヲ天ノ御柱ニナラテヘテ奇成シ玉フモノナレバ必ズ葦牙彦遲神ノ靈徳ノ加ハリタル理リナレバ膨脹力ノ男徳ヲ主トシ加フルニ吸引力ノ添ヒシモノト云ハザルベカラズ夫ノミナラ

ス都テ獨化隱身ノ神ハ一柱ニシテ男徳女徳ヲ兼玉フ理リナルハ男
徳女徳ノ兩皇産靈神ノ魂ヲ一神ノ上ニ負玉フニテ此後ト雖ヒ一神
ニシテ男徳女徳ヲ兼玉フ神ハ神典中數フルニ違アラズコレ其元ハ
獨化隱身ノ神ニ起ルモノナリ故ニ葦牙彦遲神ハ御名ノ通り男徳ノ
神ニ坐スト雖ヒ又女徳ヲモ兼玉フベキ理リアリ此兩徳ハ皇産靈兩
神ノ御徳ニ起リテ造化分擔ノ神ハ獨化ノ神ト雖ヒ兩徳ヲ備ヘ玉ハ
ザルヲ得ザルハ然ルベキ理ニテ則チ葦牙彦遲神ハ天御柱タル葦牙
ニ添玉フ御魂ナレ共男徳ノ膨脹ノミナラザルハ終ニ此葦牙ナルモ
ノ大陽中ノ御柱ト成リ其相兼タル吸引ノ靈徳ニ因テ大陽系中ノ諸
星ヲ吸引シ萬々世相離レシメザル徳ノ備ハリタルハ神傳ノ道理
ヲ推シ實天地ノ現象ニ考証シテ動クマシキ理リナリ然レバ此沼矛ハ
男徳ヲ主トシ吸引ノ徳ヲ兼タルモノト云ハザルベカラズ此兩徳備
ハリタルモノナルガ故ニコレヲ地球ニ指シ下シ玉ヒシニ依リ此沼
矛ノ男徳ト始メヨリ此地球ノ内部ニ就キ玉ヒシ豐雲野神ノ女徳ト
相感動シテ地球ニ大活動力ヲ起シタル道理ヲ推テ窺知ラルベシ
此道理アルヲ以テ此矛ヲ引上ケ玉フ時ニ至リテハ其矛ノ末キヨリ

垂落ル潮ト又沼矛ノ備ヘタル吸引ノ力ヲト豐雲野神ノ縮引ノ靈徳
ト同氣相感シ吸引縮引兩力ノ爲メニ潮泥凝固シテ淤能若呂嶋トハ
成レルニテ地球ノ骨格ハ此沼矛ヨリ起リシナリ○此論アマリ高尚
ノ極論ニ付再ヒ卑近ノ譬ニテ之ヲ示サン先ツ天地組織ノ大ナル思
ヒヲ暫ク去リテ自己ノ一身ヲ以テ假ニ地球ナリト思ヒ定メヨ此己
レニ身ノ身体ニ今小サキ一ツノ針ヲ指下シ此針ニ藥汁一滴ノ靈氣
ヲ加ヘ僅カニ皮肉ノ間迄是ヲ刺ス時ハ其藥汁一滴ノ靈氣ニ感シテ
腹中内部ノ疼痛忽チ治スルニ非ズヤコレ其針ノ大ナルガ爲ニ非ズ
其針ニ藥汁ノ靈氣加ハルガ故ナリ此理リハ恐ラクハ婦女子ト雖ヒ
凡ソ人間ノ思想ヲ抱クモノハ疑ハザル所ナルベシ然ルニ天地組織
大元ノ時ニ當リ伊邪那岐伊邪那美ノ兩神御立會ノ上地球タル一身
上ニ天沼矛ト云フ大針ヲ下シ給ヒ其沼矛ニ造化靈妙不可思議ノ靈
徳タル藥汁ヲ加ヘ玉フニ何ツ地球内部全体ニ感動ヲ起サザルカ
アラン尙造化秘蘊ノ靈妙ヲ今日ニ實ク實物ニ照テシテ云ハハ人間
ノ身体始メテ成ラントスル時ハ母ノ胎中ニアリテ未ダ骨格モ定マ
ラザル一ツノ流動物タル卵ナリシヲ父ノ精氣此卵中ニ透シテ始メ

テ人体ノ組織ヲ成スニ至リタルモノニテ今吾人ノ骨格ノ成レル大
原ヲ推シテ考フル時ハ男精中ニ含蓄シタル極微ノ精虫ヨリ起リタ
ルモノナリ此精虫ナルモノハ五百倍以上ノ顯微鏡ヲ以テ見ルニ非
ザレバ見ルヘカラザル程ノ小サキモノナレ共此物漸々膨脹シテ終
ニ人体中ノ巖石ト云フヘキ凝固物タル大骨枝骨ト成レルモノナリ
ト云フハ人ノ疑ハザル所ナルベシ大小異ナリト雖ニ造化ノ真理ハ
一ツナルモノニテ地球組織ノ始メ造化ノ神ヨリ伊邪那岐伊邪那美
命ニ授ケ玉ヘル沼矛ナルモノハ全ク地球ニ骨格ヲ定メ玉フベキ精
虫ヲ降シ玉フ神算ニシテ地球ノ組織ハ全ク此沼矛ト云フ精虫ヨリ
起リタルモノナルコトハ人体組織ノ始メ男精中ニ含蓄シタル極微ノ
精虫ヨリ起リタルヲ以テモ明ナリ此精虫ナルモノハ全ク人体組織
ノ爲ニハ一身上ノ沼矛ト云フベキ理リナリ實ニ吾太古ノ傳説造化
ノ秘蘊ヲ傳ヘタルコト如此奇シク妙ナルモノニ非ズヤ靜思シテ深ク
其真理ヲ講究アルベシ世ニ識者ヲ以テ自ラ任スル人ニシテ是等ノ
道理アルヲモ知ラズ吾神典ヲ以テ奇怪解スベカラザルノ書トスル
ハ造化ノ玄妙ニ對シテ自ラ耻ル所アルニ非ズヤ○サテ此沼矛ノ眞

理ニ至テハ如此幽理アルヲ以テ假令元ト小ナリト雖ニ彼ノ膨脹ノ
力ヲト吸引ノ力相兼終ニハ地球ノ南北ニ貫ク如キモノト成テ萬世
吾地球ノ大地軸タルハ人体組織ノ精虫ガ一身ヲ貫ク大骨ト成レル
モ同シ理リナリ實ニ奇ナリト云フハソカ妙ナリト云フハソカ此道理ヲ
以テ推ス時ハ始メ大陽ニ成リシ葦牙ノ如キモノ其始メハ小ナリト
雖ニ終ニ大陽ノ大軸天ノ御柱トモ成レルモノナリト云フ疑モ併セ
テ散ズル所アツシ大陽中心ニ此御柱アルガ爲メニ大陽系中ノ諸星
ヲ吸引シ地球此大坤軸アルガ爲メニ大地上ノ萬物ヲ吸引スルコト火ヲ
見ルヨリモ明カナル理リナルベシ然ルニ時流ノ學生偶々神典ヲ一
讀シ此深理ヲ知ラズ明文ニ天沼矛トアルヲ見テハ只其物質ニノミ
眼ヲ止ルヲ以テ其何物タルノ徳ヲ發見スルコト能ハザルナリ余ガ所
謂天地萬物ハ靈氣質ノ三者ヨリ起ルノ真理ニ基キ靜思シテ考フル
時ハ自得スル所アルベシ
○或人又問フ御辨明ニヨリテ天沼矛ノ御徳了解セリ御説ノ如クナ
レバ此沼矛ヲ指下シ玉フハ地球ノ北極ニ當ルベキ理リナリ然リト
スル時ハ伊邪那岐伊邪那美命ノ兩神ハ平田先哲ノ説ノ如ク北極紫

微宮ヨリ降り玉フノ道理ナルニ前ノ御講述ニ據ル時ハ此兩神ハ大陽高天原ヨリ降り玉ヒシトノ御説ナリ此説ヲシテ實天地ノ現象ニ合セテ考フレバ此兩神ハ一度大陽ヨリ降り玉ヒテ更ニ位置ヲ轉マテ北極ニ回リ玉ヒ横向ニ成玉ヒテ沼矛ヲ指下シ玉フノ理ナリ若シ然リトセハ天地自然ノ道理ニ於テ大ニ疑フ所アリ如何御説明ナク

○答フ此御質疑吾ガ意ヲ得テ都テ講究ハコトアルモノニテ則チ吾神典ニ於テ天地組織ノ真理ヲ定ムル要点ナリ先哲ノ世ニ在テハ神典講究ノ御創業ナルヲ以テ本居平田兩先哲トモ天地開闢ノ組織一定ノ説ナラズ故ニ服部中庵氏ハ本居先哲ノ説ニヨリテ三大考ヲ著シ大陽高天原ヨリ兩神天降り玉フ理ヲニ解カレ平田先哲ハ北極紫微宮ノ説ヲ立ラレ兩先哲ノ説縱横ノ兩説トナレリ此平田先哲ノ北極紫微宮ヲ天真中ト云ハレタルハ今日實天地ノ現象ニ於テ動クベカラザル説ナレ共伊邪那岐伊邪那美命ノ北極紫微宮ヨリ降り玉フト論ヲラレタルハ此地球ヲ三大球ノ本体トシテニヨリ大陽ヲ分体シ又次ニ月球ヲ分体シタルモノト見ラレタルヨリ起リタル

論ニテ今地球ノ坤軸北極ニ向テ横位ニアルヲ以テ説カレタル共神典ノ明文大陽ヨリ降り玉フ理ヲナレバ余ハ大陽ヨリ降り玉フト説ケリ然ル時ハ先キニ御疑点ノ通り沼矛ヲ指下シ玉フニ天地自然ノ道理ニ背キ再ビ北極ニ回リ玉フ事トスルノ外無キ道理ナレ共此ハ伊邪那岐伊邪那美命ガ北極ニ回リ玉フニハ非ズシテ此地球ノ今ノ坤軸ニ向テ北極ノ所ハ此時ニハ未ダ大陽ニ向ヒテ横位ニテアリシモノナリ今日ノ如ク地球ガ横位ニ定リタルハ開闢第三期ノ氣運ニ至リ始メテ横位ニ倒レシモノナルヲ神典前後明文ノ照應ト開闢ノ道理トチ推テ明カニ知ラル、トニテ此縱横轉動ノ真理ハ余ガ神典講究中發見シタル説ナレバ初メテ之ヲ聞ク人ニ於テハ明文外ノ極端ナラント思ハルベケレ共必一家ノ私言ニ非ズ明文ト道理ノ然ラザルヲ得ザルモノアルガ故ニ余ガ一家ノ説ト成スナリ其委敷トハ此第一期ノ講究ニ盡スベキ限リニ非ザレバ先ツ暫ク余ガ家説ニ任セ第三期迄ハ此地球ハ今ノ横位ト違ヒ大陽ニ向テ縦位ニアリテ自轉モ大陽ニ向ヒナガテ自轉スルガ爲メニ上半球ハ常ニ晝ニシテ下半球ハ常ニ夜ナリト思想中ニ於テ其然ル所以ノ真理アルヲ第三期

ノ始メ須佐之男命ノ高天原ニ昇リ玉フ時ニ至リ其建キ御神徳ヲ以テ地球ヲ横位ニ倒シ玉ヒシニ因リテ天地位ヲ定メ始メテ一自轉一晝夜ヲ成スニ至リシ理ヲ自得アラントテ此理ハ先哲ハ素ヨリ他ノ説ト大ニ異ナルヲ以テ必ス疑團アルベシト雖モ此地球縦横ノ位置ヲ換タルヲ窺ヒ得ルニ非レバ到底吾神典ノ明文ト今日ノ實天地ト符節ヲ合スル迄ノ道理ニ符フ講説ハ得テ有ベカラザルモノト自信シテ疑ハザルモノナリ然レ共一言ニテ了解ナシガタキヲナレバ以下道理ト順序トヲ推テ其横位ニ定マル時ニ至リ更ニ圖解ヲ以テ共然ル所以ノ真理ヲ解ベシ兩先哲共此地球ノ横位ニ倒レシトニ思ヒ由ラレザリシハ余ガ最モ遺憾トスル所ナリ

◎サテ是迄ノ講述ニテ此地球ニ自轉ノ起リシト又此時代未ダ一面ノ泥海ニテ自凝嶋ト云フ浮嶋ガ一ツ出來タ計リト云フトハ粗知ラル、コナレバ是ヨリ次ノ傳ハ伊邪那岐伊邪那美命ノ兩神國土生産ノ神傳ヲ講述スルニ就テハ參考ノ爲ニ茲ニ一場ノ咄ヲ致シ置テ^{ヒミヤ}デムカヲ是ハ本傳講述外ノトシテ御聞取ニ成度^{ヒミヤ}テム先ツ吾大古ノ傳説ハ天地ヲ組織シ玉フ造化ノ實蹟ヲ傳ヘタルモ

ノデムカヲ今日地球上萬物ノ上ニ其事蹟ハ皆傳ハラテバナナラヌ善ニテ目前証蹟ガ無ケレバナナラヌ譯デム故ニ太古此地球ヲ組織シ玉ヒシ時代ト今日目前ニ觀ル所ノ地球ノ實形トヲ比較シテ置テバナナラヌ^{ヒミヤ}テムガ其今日觀ル所ノ地球ハ如何ナルモノナラント云フニ先ツ内部ハ暫ク措テ外部カヲ是ヲ見ル時ハ六大洲各國ガ大概赤道以北ニ七分餘以南ニ二分餘アリテ此圓形ナル地球ノ周圍ニ班列シテ共三分ノ一ハ大陸三分ノ二ハ海水ト云フ位ノモノ^{ヒミヤ}テム是ハ外部ダケ觀タル大体ノトニテ地球ノ組織ハ如何ナルモノト云フ講究ニ至リテハ内部ニ思想ヲ及ボシテ考テ見テハ組織ノ如何ナルモノト云フコトハ知レヌ理リテム譬ハ人間一身ノ組織ニテモ内部骨格ノ組織ヲ知ラザレバ全体ノ如何モ分ラヌト同ヲ理リテムガ人間ハ解剖スレバ目前ニ内部ノ組織モ見ラル、コナレドモ此地球ノ内部ヲ知ルコトハ至テ六ヶ數^{ヒミヤ}テム外見ル所ノ事ニ至テハ吾太陽一系中ノミナラズ他ノ恒星天迄其天象ハ窺知ラル、モ此一地球ノ内部ニ至テハ未ダ萬國トモニ知ラレタル程ノ説ハ無イ^{ヒミヤ}テム然レ共道理ヲ推テ考フル時ハ當ラズト雖モ

遠カラザル位ノコハ知レヌ譯トモ申サレヌコトデムカラ一通リ此
地球ノ内部ハ如何ナル組織ノモノト云フコト推考シテ見ルニ此
地球が一晝夜ニ一回ツト自轉ナスルニ就テハ何カ此地球ノ内部
中心ニ地軸トナルモノガ無ケレバナラヌト云フ想像ガ起ルコト
ム都テ車ニモセヨ回ルモノニハ軸カアルガ道理カ無イガ道理カ
ト云ヘバ誰モ有ガ道理ト云フデムコレニ因テ理學デハ地球ノ旋
轉スル中心ヲ線ト名ケテ何物ト云フコトハ知ラレヌカ故ニ此地軸
ヲ假ニ線ト云フテアルコト然レバ此地球ニハ地軸カ有ルモノ
ナレバ何物ガ地軸ア有カト云フ考ガ起ル筈デム此地軸ガ前ニ講
述シタル沼矛ヨリ起ルト云フコトハ世界中ニ吾日本ノ神典ヨリ外
ニ各國共ニ知ルベキ書ハ無キモクデム此外ニハ支那ノ古傳ニ聊
カ參考トスベキモノガアルコト斗リノコトデムガコレハ次ノ講述デ知
レルコトデム扱處地球ハ凡直徑ガ何程カト云フニ先舊説ニヨレバ
英里ニテ直徑二万五千里モアルト云フ程ナルモノデムテ其真中
則チ中央ニ至ル迄ニテモ一万二千五百里計リモ深サガアルコト
ムガ其中央ニ至ル迄想像ヲ及ボシテ見ルニ海水計リトスレバ地

球ハ一ツノ水玉ノヤウナモノデ其外面ニ六大洲ガ流動シテアル
ヤウナモノナレ共假令六大洲ガ海底ニ至リテ一連絡ノモノト成
テ居ルニモセヨ何カ其根トスベキモノガ無ケレバ漂フテ位置ガ
類リニ動カチバナラヌ理リデム然ルニ其位置ノ定マリテアルチ
思ヘバ何カ地球ノ内部ニ六大洲ヲ受テ居ル程ノ國土ノ陷止メガ
無ケレバナラヌ譯デム地震ナドノコト考テ見ルト彼ノ一小部ガ
海底ニ陷没スレバ他ノ一小部ガ海上ニ墳起スルコトモアレバ流動
物デ有カトモ疑ハルレ共地震ハ地脈ニヨリテ震動スルコトニテ一
小部ニ止リ大地全体ガ動クト云フ譯デハムヌソコデ他ノ物ニ比
較シテ考ヘテ見ルニ人間デモ禽獸又ハ魚ノ類デモ其体ノ組織ニ
ハ大骨ト云フ軸ガアリテ其軸ヨリ枝骨ガ出來テ組立テアルガ造
化御作爲ノ定則デムカラ此地球ニモ必地軸ニ添フテ大地球ノ骨
格ガ定マルベキ程ノ物ガ海底ニアリテ其物ガ外部ノ國土ヲ受テ
アルモノナラント云フ想像モ起ルベキ筈ノコトデム其物ハ何物デ
アルベキカ地球内部ノ中央迄ハ一萬二千五百里計リモアリトス
レバ其中央ニアル國土ノ陷止メハ驚クベキ程ノ長大ナルモノナ

ラザレバ國土山嶽等ノ重キモノヲ數限リモ無ク動カサヌヤウニ
保ツコハ成ガタイヲム近來海底ノ測量ヲ用ヒテ最深ト思フ所
ヲ測量スルモ七里ヲ出デザルベシト云フ説モアリ又外部ノ大氣
地球ヲ包ミタル比較ヲ以テスルモ四五十里ニ過キザレバ地球海
底ノ中央ニ達スル迄ハ残り一萬二千四百五十餘里ハ如何ナルモ
ノデアルト云フコガ起ル譯デム佛蘭西ノラフレースト云フ者ノ
云ヘルニハ若シ大洋ノ水ガ今ヨリ増加スルコト四分ノ一ナレバ地
球上最高山ノ外ハ皆水中ニ埋没スベク又之ニ反シテ同量ノ水ヲ
減少スルコトアラバ大江河モ衰發シテ小泉トナリ海灣ノ大ナルモ
ノモ消失スベク且ツ地球上過宜ノ濕氣ヲ失ヒ萬物乾燥シテ荒廢
スベシ凡ソ洋水ノ壓力ハ水深ケレバ益々大ナルモノナリ故ニ海
濱ヲ遠ザカル距離或ハ水面ヨリ下底ニ至ル深サニ限界アリテ之
ヲ過グレバ水深ク壓力大ナルガ故ニ動物植物共ニ生育セズ此故
ニ大洋ノ深淺ハ實ニ至要ナルモノニテ大洋中ニハ生活物蕃茂ス
ルモ其深キノ甚シキニ至テハ猶雪ヲ載ク高峯頭ノ如ク寂寞空虚
ナルベシ云々ト云ヘルコトアリコレ洋人ノ想像論ナリト雖也大ニ

參考トスベキ所ノモノデム此洋人ノ想像説ニテハ海底最深ノ所
ヘ達スレバ空虚ニシテ海水無キ所有ベシト云フコト論ヲモ
デム又近來或洋人ノ説ニハ地球ノ内部海底ニアル國土ノ根底ハ
大岩石ノ如キモノニシテ其岩石ノ内ハ空洞ニテ常ニ火氣盛シナ
ルモノナランナドノ説モアルコトデムガ是モ洋人ノ想像論ナレド
モ外部ト違ヒ内部ノ事ハ想像ノ外ハ無キコトニテ其然ルト然ラザ
ル保証ハ致シ難キコトナレ共大ニ吾大古ノ傳ヲ説クニ參考トナル
ベキモノデムカラコレモ注意ノ爲メニ一言申置コトデム是等ノ説
ハ隨分面白キ説ニテ此地球ガ外部カタ見ル如ク大ナル水玉ノ上
ニ六大洲ガ流動シテアリテ内部ハ丸テ水計リデアラフコト云フヤ
ウナル通俗尋常ノ想像トハ違フテ隨分道理ニ符フタルコトニテ何
カ内部ニ大地ノ根底タル大骨格ガアルベキ理リナルコトハ前ノ想
像ニテモ知ラル、コトデム故ニ此次々國土生産ノ神傳ヲ説クニ至
リテハ專ラ此地球内部ニ思想ヲ回ラシテ考ヘテレタイコトデム此
地球内部ノ想像無クシテ地球組織ノ如何ヲ知ラント欲スルハ譬
ヘバ人体ノ外部ヲ見テ人身ノ組織如何ヲ知ラント欲スルト一般

之ヲ知ラント欲シテ得ヘカヲザルモノデムコレ余ガ始テ心付シ
一家ノ講究説デムカラ御注意迄ニ申置テデムガ前ノ談話ニテ粗
地球海底ノ内部ニ想像ヲ及ボシテ地球ノ組織ヲ講究スベキモノ
ト云フコトハ道理ニ於テ動カスベカラザル理ナリトノコトハ粗御合
点デムカラ茲ニ今一ツ參考ノ爲メニ咄テ置テバナラヌコトガム如
何トナレバ内部ノ思想バカリデハ又講究ノ出来ヌモノデムカラ
コレヨリ地球外部ニ就テ今日視ル所ノ國土山川等ノ組織方チ一
通り考ヘ置度イモノデム此外部ノ事ハ地文地質化學等ノ學科ニ
論ズルコトナレバ其細説ニ至テハ其等ノ專門學ニ非レバ能ク一言
ノ盡スベキ所ニ非レ共聊參考迄ニ申迄ノコトデムガ先ツ多言ハ要
セズトモ其外部ノ大体ハ山嶽ノ組織ニテ粗知ラル、モノデム都
テ山ト云フモノハ其山ノ内部ニ入レバ地骨ト云フベキ岩石ガア
リテ其地骨タル岩石ノ中ニ金銀銅物類ノ如キモノヲ含蓄シ其岩
石ノ上ニ泥砂ガカ、リ申サハ地骨ニ上塗土ヲカケタル如キモノ
ニテ其地骨ノ外皮ト云フベキ所ニハ石炭ノ如キモノアリ又其内
部ノ地骨ト相似タル大ナル岩石ガ上塗土ノ外面ニ顯レテ仙骨ヲ

帶ビタル如キ山景ヲ成セル所モアリ又地骨ハ無キ程ニ思ハル、
圓巒ノ山峯モアリテ是等ノ山ハ中々數十間上土ヲ類トモ地骨ハ
知レテ程ノ所モアルモノデムガ其外部上塗ニカ、リタル泥沙ノ
中ニハ種々質ノ異ナル石ガ澤山アリテ多クハ俗ニ川石ト云フ如
キ圓ノ摩タル大小ノ石ガ恰モ壁ノ上塗ニスルニ似テ云フモノ
ヲ入レテアル如ク山嶽ノ上塗ニシテアル土ニモ其大小ノ石ガす
さノ代リトナリテアルモノデム此大小ノすさ石ガ少シモ無キ所
ハ多クハはげ山トナルモノデハすさノ少ナイ壁ガ落易イヤウ
ナモノデム其外地骨ガ其儘顯ハレテアルトモ云フベキ岩石ノ多
キ山モアリテ數フルニ遠モ無キ程ノ變體ノ多イモノデムガ其地
骨外ノ石ノ種類ガ金石學ノ説ニヨレバ火造石水造石ナド云ヒ其
石ノ出来テ時代チ何期石トカ名付ケテ一期石ト云フハ花崗石ノ
類ニテ是等ノ石ノ中ニハ何モ生物ナドノ別種類ノ物ハ孕ンデ居
ラヌガ故ニ此一期石ハ未ダ世界ニ生物ノ無キ以前凝結シタル石
ナラント云ヒ其第二期石第三期石ニ至レバ多ク水造石ニテ水ノ
爲ニ石ト化スベキ物質ノ集マレルニ際シ或ハ虫魚艸ノ類ガ偶々

石中ニ入テ化石シタルナドノ類モアルヲ認メテ第二期石ノ後ハ
 世界ニ生物ガ出來タ後ニ凝結シテ石トナリシモノナリナト云フ
 一デムガ是ハ最モナル説ヲ上古ノ時代ヲ講究スルニハ必要ナル
 一デム是等ハ先ツ山嶽ノ外部ノ一コトテ平地ト雖モ土砂ノ淺深ハ
 アレ共地下ハ皆地骨ト云フベキ岩石ガアルベキ理リニテ其地骨
 タル岩石ノ間ニハ氣脈ノ往來スル筋ガ澤山アルモノニテ地質學
 者ノ論ズルガ如ク此氣脈ニモ亦火脈ト水脈トノ別ガアリテ火脈
 ガ外部ニ破裂スレバ噴火山トナリ水脈ガ外部ニ破裂スレバ昨年
 則チ明治二十二年大和國ノ變動ノ如キ一トナルベキ理リニテ是
 等ノ一ハ此講述ノ趣意ニハ非レ共コレモ一ツノ參考ナレバ一言
 申置一デムガ都テ人間ノ体中モ一面ニ氣脈ノ通フガ如ク大地ニ
 モ亦氣脈ノ通ヒガアルハ造化ノ定則ト窺ハル、一デム然共此地
 骨ト云フモノ計リテハ艸木モ出來ヌ故ニ上ニ土砂ヲ上塗ガ掛ケ
 テアルハ造化ノ御作為デムガ申サハ土ノアル間ハ淺クシテ地骨
 タル岩石ニ至リテハ海底ニ入テ何程ノ深サガアルト云フ一、知
 レヌ程ノ大ナルモノト思ハル、一デムガ其外部上塗ノ土ノ中ニ

アル大小ノ石ヲ見ルニ岩石ノ小片ノ外ハ皆波ニユラレテ角ガ無
 キ迄ニナリテ川石ノ如キモノ計リガ山嶽ノ半腹ヨリ上ノ土中ニ
 モアルヲ思フニ此山岳等ニ上塗土ノ掛リタル時代ニハ未ダ此地
 球上ニアル國土ト云フモノハ悉ク海底ニ沈ンデアリシモノニテ
 海水ガ地骨ノ上ニ泥砂ヲ塗り付ケテ漸々ト國土ハ成リシモノト
 思ハル、一デム如何トナレバ近來ハ所々道路ヲ開鑿スルニ就テ
 ハ山嶽ヲ地骨ノ現ハル、所々掘リ開キタル所ヲ見ルニ泥砂ヲ一
 層々々ト重キタル越キガ皆横ニ筋ガ立チ土質ヲ異ニスルモノア
 リテ到底海ニ有テ浪ノ爲ニ土砂ヲ重キルニ非レバ成スベカラザ
 ルガ如ク其時ニ大小ノ石ガ數年間波ニユラレテ角ノ無キ迄ニ摩
 擦シテ泥砂ト共ニ地骨ノ上塗トナリテ終ニ艸木ヲモ生スベキ程
 ニ成リ而シテ後ニ始メテ海上ニ墳起シタルモノナラント想像セ
 ラル、一デム然レバ此大地ガ組織ノ成リ上ル迄ハ必ス六大洲トモ
 海底ニ沈ンテアリシモノト思フ程ノ一デム夫カラ其國土ガ海面
 ニ墳起シタルモ萬國カ一時ニ墳起シタト云フ譯テハムニ先ツ此
 地球ノ北半球ノ東ノ方カテ漸次ニ墳起シタル如ク思ハルム一テ

ムガコレ等ハ多ク第二期ヨリ第三期迄ノイデムカラ此咄シハ第
三期迄參考トシテ申シテ置イデム吾太古ノ傳説ヲ窺フニモ必ズ
國土ハ海底ニテ組織コナリタル事本傳ノ明文ヨリ道理ヲ推テ講
究スレバ明ラカニ窺ハル、イデムガ世人多ク神代ノ古傳ヲ如斯
道理ニ符フタル書ニハ非ザルベク思ヒ等閑ニ看過スル人アルハ
慨歎ノ至ニ堪ヘヌイデムカラ謹シテ此傳ヲ講究致シ度ヒイデム
サテ又爰ニ聊注意ヲ乞テ置ベキイガム其故ハ是迄講シタル所モ
本傳ノ明文ヲ讀テ見ルト只ニ昨日ト今日トノ如ク間モ無キイノ
ヤウニ思ハルレ共中々サヤウナ譯アハムニ是迄ノ所ノ年數ニテ
モ幾千年ノ久シキイカモ知レヌ程ノイニテ即時ニ出來タト云フ
ヤウナモノアハムニ最モ造化奇成ノモノハ地球ノ組織ナド、ハ
違ヒ即化ノモノナレ共ソレハ天賦不可思議ノ靈徳ニ因テ成シ玉
フイニテ今世コアル物質ノ如キモノトハ大ニ異ナルモノニテ今
ノ世ニ存在スル現物ハ悉ク順化ノ道理ヲ以テ出來タモノイデムカ
ラ即化奇成ノ神術ト物質順化ノ道理トヲ能ク辨ヘ今日地球上ノ
萬物ハ皆順化ノモノナルガ故ニ太古ト雖ヒ地球上ノ物質ハ漸々

ト序ヲ經テ順化シタルモノト窺フベキイデム然レバ此地球ノ如
キ大ナル物質ヨリ國土ノ如キモノニ至テハ其成立迄ハ幾多ノ星
霜ヲ經タトモ量リ難ヒイデムカラ御注意迄ニ申置イデム序ナガ
ラ茲ニ今一ツ御斷リ申置イガム此次々々講究スルニ就テハ諸先
哲ノ説ト余ガ一家説ト大ニ異ナル所アルヲ以テ未ダ先哲ノ説ヲ
聞カレヌ人ニハ却テ道理ニ照ラシテ合点ノ早ク行クイモ多カル
ベク存シタル、イナルニ先哲ノ説ヲ一通リ知ラレタル人ニ於テ
ハ先入主トナリテ却テ先哲ノ説ニ反スル所ハ聞取難ク疑ヒモ起
ルイナラント思フイデムカラ他説ニ反スルモノハ暫ク忍マデ余
ガ一家ノ説ヲ一通リ聞カレタル上ニテ他ノ諸説ト何レカ是何レ
カ非ト云フイテ能ク講究アリテ余ガ一家説ノ可ナルモノヲ採リ
其不可ナルモノアランニハ余ガ爲ニ必ズ忠告シテ其過ヲ糾サ
シメラレシイナ希ヒ置イデム

於^ニ其^其島^島天^天降^降坐^坐而^而見^見立^立天^天之^之御^御柱^柱一^一見^見立^立

八尋殿

○サテ本傳ニ於其島天降坐而云々トアルハ申ス迄モ無ク伊邪那岐伊邪那美命淤能碁呂嶋ニ天降り玉ヒシト云フ迄ノ一ナリ見立天之御柱云々トアルハ彼ノ天沼矛ヲ淤能碁呂嶋ノ中ニ築立玉ヒテ其矛ヲ天之御柱所謂太陽中心ノ大軸ニ比シテ立玉フト云フ傳ヘナリ此御神業ハ則チ地球ニ地軸アルノ原因ニシテ古事記ニハ甚ダ簡略ナル傳ナレ共釋紀ノ引替ニ採ラレタル私記ノ古説ニ據レバ云々天神所賜瓊矛既探得磯取盧嶋舉即以共矛衝立此島爲國柱也即其矛化爲小山也云々トアリ又舊事記ニハ以天瓊矛指立於磯取盧嶋之上以爲國中之一天柱也云々トアリ平田先哲ノ説ニヨレバ此時伊邪那岐伊邪那美命淤能碁呂嶋ニ天降り玉ヒテ彼ノ沼矛ヲ其嶋ノ中ニ衝立玉フハ太陽中心ノ柱ニ倣ヒ玉フ御神業ナリト云フ意ニ説カレタリ故ニ成文ニハ此矛ヲ爲國中之御柱而見立天之御柱云々ト文ヲ改メタレタリ之ニ由テ者フルニ此沼矛ノ半ハ淤能碁呂島ヲ貫キテ海底ニ入り其半ハ島上ニ殘リテ後ニ八尋殿ノ中心ノ御柱トナリシモノト

窺ハル、ナリ先哲ノ説ニ委シケレバ合セ見テ其然ル所以ヲ知ルベシ次ニ見立八尋殿トアル八尋ノ八ハ彌ノ義ニテ彌廣殿ノ意ナリト本居先哲ノ説アリ見立ト云フハ書紀ニハ化作ト書レタリ此化作ノ字能ク當レリ此時兩神淤能碁呂嶋ノ上ニ彼ノ沼矛ヲ心ノ御柱トシテ其周圍ニ彌廣キ殿ヲ作り玉ヘルハ後世ニ所謂木材等ヲ用ヒテ作り玉フニ非ザレバ造化奇成ノ殿ナルハ論無キコトナルヲ時流學ノ人ハ是等ノ幽理ハ信セザルモノナレ共天地ヲ造リ玉フ神等ノ御上ニ此神術アルハ前ニモ辨シ置タル通りコト疑フベキコトニ非ス尙其事ノ參考ニモ成ルベキコトヨリ茲ニ人皇以後ノ考証ヲ擧グベシ諱和天皇紀天長九年五月伊豆國賀茂郡ニ坐ス伊古那比咩神ノ奇事ヲ擧テ此神塞深谷摧高巖平造之地二十町許作神宮二院池三處神異之事不可勝計ト見エタリ又仁明天皇紀承和七年九月同國上津嶋ニ坐ス阿波ノ神ノ新ニ神宮四院石屋二間屋二間閣室八基ヲ化作シ玉ヘル事ヲ記セリ尙次々ノ御歴代ニ此等ノ類數多アレ共所狹キニ由リテ之ヲ擧グス右ハ吾國史上ノ明文ニシテ平田先哲モ引用セラレタル文ナルガ別ニ解チ加ヘズトモ一見奇事ナルヲ知ルニ足ルベシ人皇以

後ト雖ニ冥々ノ中ニ神等ノ成シ玉フ一ハ如此モノニテ皆造化奇成
所謂即化ノ神術ナリ然ルニ此兩神ハ太古ノ時造化大元靈ノ御手ニ
代リテ大地球ヲ組織シ玉フ程ノ大神ニ坐セバ八尋殿ヲ化作シ玉フ
ニ何ノ疑ヒヲ容ル、所カアラズ人間ノ小智ナル假令今日ヲ文化ト
誇ルモ幽顯ニ貫ク造化ノ眞理ニ對スレバ未ダ百中ノ一ヲモ知レリ
ト云フベカラズ偶々吾國ニ如此妙傳アルヲ以テ粗天地組織ノ一端
ヲモ窺フベキ道アルヲ文化ノ人トシテ之ヲ度外ニ措キ不可思議ノ
神術ヲ疑フハ愚モ亦甚シト云ハザルベカラズ他日今一層ノ文化ニ
至レバ洋人モ亦此眞理ヲ講究シテ吾太古傳ハ世界無二ノ寶典タル
ヲ知ルニ至ルベシヤテ此八尋殿ハ何ノ爲ニ化作シ玉ヒシト云ハハ
次ノ傳ヘニアル如ク兩神合歡ノ道ヲ開キ玉フ御備ヘニテ書紀ニ所
謂二神降ニ居彼嶋ニ化作八尋殿同宮共住而云々トアルガ如シ此八尋殿
ニ就テハ余ガ一家講究ニ於テ尙別ニ論スベキトアレ共其ハ此次々
ノ講述ヲ畢リテ講究ノ參考マデニ申置クベシ

於是問其妹伊邪那美命曰汝身者如

何成答曰吾身者成々不成合處一處
在爾伊邪那岐命詔我身者成々而成
餘處一處在故以此吾身成餘處刺塞
汝身不成合處而爲生成國土奈何伊
邪那美命答曰然善

○サテ此明文ハ別ニ解釋ヲ加フルニ及バズ本文ノ儘ニテ能ク聞エ
タルヲナレバ愛ニ細密ナル語解ヲ略クガ故ニ語解等ノ委シキトハ
兩先哲ノ傳ヲ合セ見テ知ルベシ此古傳ニ就テハ近時ノ說ニハ吾神
代ノ傳ナルモノハ古代ノ小説ナリト云フガ如キ妄說モ起リ又此兩
神合歡ノ道ヲ開キ玉フハ萬世不易造化ノ後榮ヲ起シ玉フ神業ナル
ヲナモ辨ヘズ單ニ猥褻ノ如ク思フモノ尠ナカラズ既ニ洋人某ガ吾

古傳説ヲ評シタルニモ此處ノ傳説ハ只猥褻ニシテ厭フベキトノ
ミ見タルモノ、如シ實ニ他ノ道學ヲ講ズル人造ノ經書等ノ上ヨリ
云フ時ハ必ス如此評セザルヲ得ザル傳ヘニシテ一應厭フベキトノ
如クモ聞ユレ共是等ノ説ハ未ダ人爲ノ道教ヲ信奉スル習慣ヨリ出
ヅルモノ、外ナラズ人爲ヲ去リ天地ノ眞理造化ノ定則ヲ窺フニ至
リテハ此神業コソ地球上ニ萬物ヲシテ生々化育成サシメ玉フベキ
大元ニシテ人間ハ素ヨリ禽獸草木ニ至ル迄有情ト非情ニ論無ク皆
合歡ノ道ヨリシテ生々化育セザル無ク申サハ造化ノ神業ハ此合歡
ノ道ヲ以テ萬世無窮ノ定則トナシ玉フト云フベキ理リナレバ假令
如何ナル論者アリトモ造化生々化育ノ眞理ハ必ズ合歡ヨリ成レリ
ト云フハ疑フベカラザルモノナリ然レバ之ヲ猥褻トシテ厭フハ人
爲ニシテ如此傳ヘタルユソ造化ノ實ナルヲ知ルニ足ルベシ斯カル
神秘ノ事ヲモ其實ヲ其儘ニ傳ヘ玉ヘル神意ノ偽リ無キヲ感戴シ吾
太古ノ傳説神典ナルモノハ造化ノ眞傳ニシテ人爲ヲ離レタル直筆
ナルトナ知ルヘシ然ルニ其深意アル所ヲシラズシテ後世人爲ヲ以
テ作爲シタル書ヲ見ルノ習慣ヨリシテ如此神秘ノ傳ヘテ只ニ猥褻

トノミ看過スルハ憐ベキ小眼ニ非ズヤ天地間此神業アルガ爲ニ生
々化育止ム時無キモノナルトハ六大洲中ノ人間タルモノ皆其保証
人トナルベキノミナラズ禽獸草木ニ至ル迄皆コレガ保証トハナル
ベキトニテコレヲ造化ノ眞傳タル所以ナリ然ハ此御神業ヲ以テ萬
物ノ起元ナリト云フモ疑フ所アルベカラズ實ニ此道ハ大切ナル神
業ニシテ造化ノ秘術トモ云フベキ程ノ重キトナルガ故ニ此道ヲ猥
リニ成スガ如キハ道義ヲ失フノ甚シキモノニシテ造化ノ定則ニ背
クノ大罪ナリト云ハザルベカラズコレ古ヘヨリ賢者人ヲ教フルニ
此道ヲ猥リニ成スベカラザルヲ示シ言外ニ出ストナモ慎ム所以ナ
リ如此秘中ノ秘ヲモ傳ヘ玉ヘル神意ヲ窺ヒ奉リ謹テ以下ノ神傳ヲ
モ講究スベキナリ然レ共此時兩神合歡ノ道ヨリシテ國土ヲ生ミ玉
フト云フ傳ヘニ至テハ其道理ノアル所ヲ窺ヒ難キガ故ニ誰人モ皆
疑團アルトニテ他ノ學科ノ人ハ勿論吾國學ヲ以テ自ラ任ズル人ニ
於テモ近時ニ至リテハ或ハ國魂神ヲ生玉フナルベシト論テ或ハ國
民ノ祖先ヲ生ミ玉フナラント論テ國土其物ヲ生ミ玉フト云フ明文
ニ異ル説アルニ至ル本居平田兩先哲等モ正ニ國土其物ヲ生ミ玉フ

ト説カレ服部中庸氏ハ此國土ヲ生ミ玉ヘル時ハ最モ小キモノナル
ヲ幾萬年ヲカ經ル間ニ如此大ナル國土トナリシヲ論ヲタル
ヲ平田先哲モ然ルベシト云ハレタルニ非ズヤ故ニ余此國土生産ノ
ヲ謹ク深ク研究シ漸クニシテ其實ヲ得タリト自信スル所アルガ
故ニ以下一家説ヲ以テ辨明セント欲ス暫ク人爲チ離レ靜思シテ其
然ル所以ヲ知ラルベシ後世人智ノ及バザル程ノ不可思議ノ神術無
クシテ能ク如此天地組織ノ成ルベキモノカハ

爾伊邪那岐命詔然者吾與汝行廻逢
是天之御柱而爲美斗能麻具波比如
此云期乃詔汝者自右廻逢我者自左
廻逢約竟以廻時伊邪那美命先言阿

那邇夜志愛袁登古袁後伊邪那岐命
言阿那邇夜志愛袁登賣袁各言竟之
後告其妹曰女人先言不良雖然久美
度邇興而生子水蛭子此子者入葦船
而流去次生淡島是亦不入子之例

○サテ此本分ニアル爾伊邪那岐命詔然者吾與汝行廻逢是天之御柱
而云々ト云フ迄ハ能ク聞エタル通りニテ兩神互ニ彼ノ淤能若呂輪
ニ衝立玉ヒシ八尋殿ノ心ノ御柱トナリシ沼矛ヲ廻リ玉ハントノ
ナリ次ニ爲美斗能麻具波比云々トアルハ美斗ハ假字ニテ御處ト云
フ意ニシテ御ハ尊稱處ハ前ニアル大斗能廻大斗能辨ノ斗ト同ク
御陰處ノヲ云ヘルナリ麻具波比トハラまくひあひナリト先哲

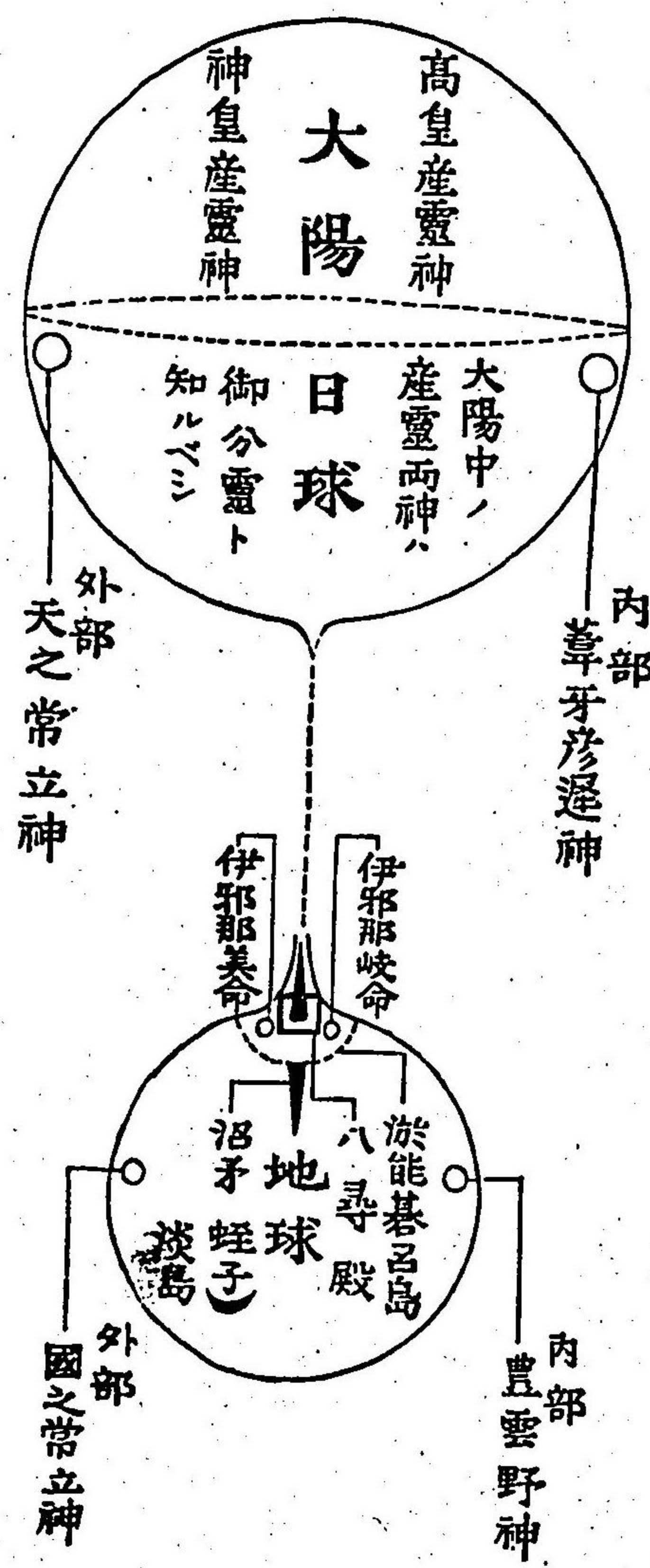
ノ説アリ然ルコナルベシ如此云期ハ互ニ御言カハシ遊ハサレテト云フ意ナリ乃詔ニ汝者自右廻逢我者自左廻逢約竟以廻時云々ハ彼ノ天御柱ヲ互ニ左右ヨリ御廻リ遊ハサル、コト御約束アリシナリ平田先哲ノ説ニヨレバ此時ノ御約束ハ書紀ノ傳ノ通り始メハ男神ハ右女神ハ左ニ御廻リ遊ハサレ後ニ男神ハ左女神ハ右ト改メテ廻リ玉フナリト説カレタレ共次ノ傳ヘニ天神ノ詔リニ左右ノコトハ詔リアラザレバ左右ノ御廻リ方ハ始メヨリ違ヘルニハ非ズシテ女神ノ先言ノミ不長トスルモ聞エザルニ非レバ余ハ古事記本傳ノ儘ニテモ然ルベシト考フルナリ平田先哲ノ説モ委キ考ナレバ其説ニ隨フモ亦可ナルベシ次ニ伊邪那美命先言阿那邇夜志愛登古袁云々トアリ此阿那邇ト云フハあやト同ク邇夜志ハ邇ノ一言ニ意アリテヤシハ添言ナリ其邇ト云フ本語ノ意ハ嬉シキサマヲ云フコト今ノ俗言ニにつこり笑フナド云フにノ音意ナリ愛ハめづる意ノ言詞ナリ末ノ袁ハよト云フニ同ク先哲ノ説アリコレニテ明文ノ意ハ能ク聞ユルコトナリ次ニ各言竟之後告其款曰女人先言不長云々ハ開エタル通りナレバ別ニ解チ加フル迄モ無キコトナリ次ニ雖然久美度邇

興而云々此久美度邇ト云フハこもり處ト云フコトナリト先哲ノ説アリ興而ト云フハ御交合ノコト云フ發起ト云フ意ヲ含ミテアル本語ト聞ユレバ互ニ言ヒ難キ御情ノ發リ玉フコト見ルモ然ルベシ次ニ生ニ子水蛭子此子者入葦船而流去トアル此蛭子ト云フハ國土トナルベキ御子ナルニ書紀ノ正書ニ生蛭子雖已三歲脚猶不立云々同書一書ニ此兒年滿三歲脚尙不立云々ト同ク傳ニツ迄モアリテ久シク足モ立タヌ程ノコト故國土ノ元種トナルベキニ非ズトシテ葦船ニ入レテ流シ捨玉フナルベシト云フハ後世ノ三年ト云フ事ニ非ズ古傳ノ例トシテ其間ノ長短ヲ傳フルニ長キハ年ヲ以テタトヘ短キハ日ヲ以テタトフル例ニシテ月ヲ以テタトヘタル例ナシ三年トアルタトヘハ最モ長キコトナルベシ本居平田兩先哲等モ久シク脚ノ立タヌ程ノナエ、シキ御子ナルガ故ニ不長ナリトシテ流シ玉フナリト云フ意ニ説カレタリ次ニ生淡島是亦不入子之例云々トアルハ此御子モ御名ノ通り淡々シクシテ國土ノ元種トナルベキモノニ非ズトシ御子ノ例ニ入レ玉ハザリシナルベシ先哲モ淡島ト云フハあはれ惡ミ玉フヨリ名付ケタルナラント説カレタリ○サテ此段

ノ本傳ハ一通リ解シタル通りニテ明文ノ上ダケハ能ク聞エタル
ナルガ人間普通ノ思想ヲ以テ考フル時ハ伊邪那岐伊邪那美命ノ合
歡ノ道ヨリシテ女神ノ神体ヨリ國土ヲ生産シ玉フト云フハ道理上
アルベカラザルコトノ如ク思フハ吾人皆同ク思ヒナルベシ余獨リ疑
ヒ無キノ理アラシヤ然ルニ幸ヒ神典ニ此真傳アルヲ以テ其然ル所
以ヲ窺フコトヲ得ルナリコレヲ以テ以下ハ余ガ一家ノ定説トスル所
ノ異考ヲ講述スベシ余始メ阿先哲ノ記史阿傳ヲ拜讀シ阿神國土生
産ハ其生ニ玉ヘル時ヨリ直チニ今ノ國土ノ如ク大ナルモノニ非ザ
ルヲ知リ兩神ノ産ニ玉ヘルハ其國土ト成ルベキ原因元種ヲ生ニ玉
ヘルコトヲ傳ヘタルニテ生ニ玉ヘル時ニハ最モ小キ物ナリシガ數千
年ノ久シキヲ經テ如此大ナル國土トハ成リシモノナラントハ粗窺
フコトヲ得タルモ其國土ノ元種タル蛭子ノ脚ノ立タザルニヨリ流シ
拾玉フト云フハ是又如何ノ道理ナラント疑團百出心中ノ講究ニ付
シタリシテ大國隆正翁ノ説ニ蛭子ハ國土ノ元種タルニヨリテ早ク
葦ノ生ズヘキニ其葦サヘモ立タズト云フコトニテ脚ハ葦ノ仮字ナリ
トノ説ヲ聞シヨリ此説然ルベキ説ノ如ク思フガ故ニ尙參考ニ付シ

置シニ今ニ至リテ能ク考レバ本居平田阿先哲ノ説ニ本傳ノ儘ニ
シテ正キ解ト云フベク思ハル、ナリ其故如何トナレバ此時兩神ノ
蛭子淡島ヲ生ニ玉フハ全ク淤能基呂嶋ノ上ニ生ニ玉ヒシナリ然ル
ニ何心無ク本文ヲ見ル時ハ此御子ヲ生ニ玉フハ嶋上トモ海上トモ
明文ニ傳ヘ無ケレバ何レトモ知リ難ク之ヲ國土ノ元種ナリトスル
時ハ海上ニ生ニ玉ヒシトモ思ハルレ共明文ヨリ道理ヲ推テ講究
スレバ必ス嶋上ニ生ニ玉ヒシ理リナリ都テ脚ト云フモノハ人間ノ
足ノミナラズ亦器物ニモ机ノ脚三寶ノ脚ナドアリテ脚ト云フモノ
、主意ハ何カ下タニ蹈止ムルモノアリテ始メテ用テ成スモノナレ
バ此蛭子ハ嶋上ニ脚ヲ蹈立ルヤ否ヤト其レノミ久シク待玉フハ國
土トナルベキモノニハ後ニ國脚トモ成ルベキ兆シノ有無ヲトシ玉
フニテ其國脚ノ立ツベキ兆シノ見エザルガ故ニ終ニ葦船ニ入レテ
流シ去テ玉フトト窺ハル、ナリ之ヲ海上ニ生ニ玉フトスレバ別ニ
船ニ入レ流シ玉フベクモ非ズ故ニ蛭子淡嶋ハ共ニ淤能基呂島ノ上
ニ生ニ玉ヒシト見ルベキモノナリ尙次々講述スルヲ合セテ其然ル
所以ヲ知ルベシ又此時ハ未ダ船ナドノアルベカラザル時ナレバ葦

船ハ造化奇成ノモノナルハ論ズル迄モ無キナリ
 ○或人問フ此時姪子淡島ノニタ御子ヲ生ミ玉ヒシニ姪子ノミ船ニ
 入レ流シ玉ヒテ淡嶋ニ其事無キハ如何
 ○答フ淡島ハ名ノ通りニテ淡然水泡ノ如キヨリ名付ケ玉ヘル程ノ
 一ナレハ船ヲ用ヒズトモ海底ニ沈ムベキニモ非ズ之ヲ以テモ姪子
 淡嶋ヲ嶋上ニ生ミ玉ヒシト明カナルベシ如何トナレハ船ヲ用ヒ玉
 フハ海底ニ沈マザラシメンノ神量ナリ然ルニ始メヨリ海上ニ生ミ
 玉ヒシトスル時ハ三歳トモ譬ヘ云フベキ程ノ久シキ間ニハ沈ム
 ヘキ理リナルニ流シ捨玉フ時ニ殊更ニ造化奇成ノ船ヲ用ヒ玉フナ
 思ヘハ道理上必ズ嶋上陸地ニ生ミ玉ヒシトハ明カナルベシ如此國
 土ノ元種ヲ嶋上ニ生ミ玉ヘルコソ妙ナル真理ナルハ次々ノ講究ニ
 テ自得セラル、一アルベケレハ暫ク疑ヒテ存シテ次ノ講究ヲ俟タ
 ルベシ尙參考ノ爲メ此御國産ミノ時代ノ地球ノ形容ヲ略圖ヲ以テ
 示スベシ然レ共太古ノ神傳ハ到底圖上ニ其真ヲ寫スベキニ非ザレ
 ハ左ニ圖スル所モ只初學ノ爲ニ其大体ヲ指點スル迄ノ一ナレハ此
 圖ニカ、ハルベカラズ



伊弉那岐伊弉諾美命ノ兩神能登呂嶋ニ沼ヲ指下シ姪子淡島
 生ミ玉ヒシ時代大陽ノ地球トノ關係ヲ示ス圖
 伊弉那岐伊弉諾美命兩神天降リ玉フニ至リ後ハ兩球中ニ獨化隱身ノ神ノ御名ヲ學ゲ
 ザレ共常ニ坐スハ素ヨリノト知ルベシ且此圖ノ據位ノ如ク見ヨルハ皇產靈神ノ神號
 ナ據位ニ普入レタルニヨルモノニテ大陽ノ大軸タル葦牙ハ據位ニアルモノト知ルベシ

高皇產靈神
 大陽中ノ
 產靈兩神

日球
 御分靈ト
 知ルミシ

外部 天之常立神
 内部 葦牙彦遲神
 伊弉那岐命
 伊弉諾命
 能登呂嶋
 沼
 地球
 姪子
 淡島
 外部 國之常立神
 内部 豊雲野神

○サテ前ニ圖ヲ以テ示シタル通り此時吾地球ハ未ダ坤軸骨格ノ定
マラザル時ニシテ今日ノ地球トハ位置ヲ異ニシ北極氷海ト云フ所
ハ全ク大陽ニ向ヒ縦位ニテ自轉スル時代ノ一ナルガ故ニ上へ半球
ハ晝ノヨコシテ下々半球ハ夜ルノヨコナルトハ前ニモ祖示シ置タル
通りナルガ此理ハ余ガ發見シタル一家ノ説ナルヲ以テ必ス聽者疑
團アルベシト雖モ吾神典ノ眞理ヲ購セントスレバ此地球横ガ位ニ
倒レタルハ開闢ヨリ第三期ノ後ナルトナ知ルニ非キレバ解シ得ベ
カラザルト多カラント信ズルナリ平田先哲ハ地球ヲ始メヨリ横位
ノモノト考ヘラレタルガ故ニ北極紫微宮ヨリ伊邪那岐伊邪那美命
ハ天降り玉ヒシト云ハレタルナリ然ラザレバ沼矛ヲ指下シ玉フ傳
ヘニ合ハザルヲ以テ云ハレタルトニテ此地球ガ第三期ニ至リテ横
位ニナリシモノト云フト考ヘ得ラレザリシガ故ナリ且ツ此時迄
ハ未ダ地球ハ骨格モ無キ漂蕩タル流動物ナレバ何物カ其骨格ヲ成
スノ原ヲ起シタルモノナラント想像中ニ疑團ヲ置テ此次ノ講述ヲ
聞カレタル上前後ヲ合ヒ道理ヲ推シテ講究アラバ地球ニ骨格ノ定
マリシ大古ヲ窺フニ足ルベシ

於是二柱神議云今吾所生之子不良
猶宜白天神之御所即共參上請天神
之命爾天神之命以布斗麻邇爾卜相
而詔之因女先言而不良亦還降改言
故爾反降更往迴其天之御柱如先於
是伊邪那岐命先言阿那邇夜志愛袁
登賣袁後妹伊邪那美命言阿那邇夜
志愛袁登古袁如此言竟而御合

○サテ於是二柱神議云云々トアルハ申ス迄モ無ク伊邪那岐伊邪那
美命ノ両神始メニ生玉ヘル蛭子ノ三歳ニ成ル迄脚ノ立ヌガ故ニ流
シ捨テ玉ヒテ後チ相共ニ神議シ玉ヒシニテ今吾所生子不長云々ト
アルハ彼ノ蛭子淡嶋ヲ生ミ玉ヒテ久シク國土トナルベキカ否見合
セ玉ヘ共更ニ國脚ト成ルベキ脚サヘモ立タザルガ故ニ此御子ハ到
底此地球上ニハ不長ノ御子トシテ流シ捨玉フナリ共不長トアルハ
ふさはサト云フ本語ニシテ物ノ思ヒ合ハザルヲ云フ言詞ニテ夫婦
ノ間ナドモ互ニ思ヒ合ハザレバふさはぬト云フガ如ク淤能碁呂島
ノ上ニ生玉ヒテ久シキ間見合セ玉ヘドモ其淤能碁呂島ニ脚モ立タ
ズ程ノナエシキ御子ナルガ故ニ此蛭子ハ淤能碁呂嶋トふさは
ぬト詔フト聞ユルナリ只ニ之ヲ其カヲ又御子ト云フトスルハ
其意淺クシテふさはサノ本語ニ違ヘリ如何トナレバふさはひふさは
ぬト云フハ何か片ハヲニモ相對スルモノ、アル時ノトニテソレト
思ヒ合ハヌト云フヨリ移リテ田畑ニ種ヲ蒔ニモ其土ト種トガふ
さはぬ時ハ不作ナルモ同ヲ意ナレバ此御子ト淤能碁呂嶋トノ間ニ
脚サヘ立タヌト云ふさはサトハ詔フナラント考ラル、ナリ先哲ノ

説ニヨレバ此ノ御子ノ不長ナルハ淤能碁呂嶋ニ關スルコトハ無キ
ノ如クナレ共深ク眞理ノアル所ヲ考フレバ全ク淤能碁呂嶋ニふさは
はぬガ故ナリ尙次々ニ其意ヲ講究スベシ次ニ猶宜白大神之御所即
共參上諸天神ノ命云々トアルハ能ク聞ユル通り其御子ノ不長ナ
ルヲ天神ニ御奏聞遊バシテ猶天神ノ御神慮ヲ窺ヒ玉ハントノ
ナリ此天神トアルハ太陽高天原ニ坐マス皇産靈兩神ノ御事ナリ兩
神ノ命以トアル命ノ字ハ詔リト云フ仮字ニ用ヒタルナリ布斗麻
邇爾ト相而云々トアル布斗ハ太ト同ヲク麻邇ハまにト云フ意
ニテ神慮ノマ、ヲ窺ヒ玉フトフ意ヨリ神ノマ、ト云ハンガ
如キ本語ナリ此太麻邇ト云フハ今ノ易占ノトニテ占事ノ起リハ此
時ニ皇産靈ノ兩神造化大元靈タル天之御中主神ノ御神慮ヲ窺ヒ玉
ヒシ神術ヲ始メトスルモノナリ麻邇トアル下ノ爾字ハ助辞ナリト
相テト云フラト云フ本語ハ表ヨリ顯ハニ見エヌヲ云フコト家
ノ裏次類ノ裏ナドモ顯ハニ見エヌヨリ云ヘルナリ又人ノ心ヲモウ
ラト云フハ顯ハニ見エヌヨリ云ヘルニテ同ヲテレバ幽事ノ見エ
ズ處ニ坐ス神ノマ、ト云フ其御心ニ合セテト云ハンガ如キナリ尙

太麻邇ノフハ先哲ノ説ヲ始メ洋氏ノ正卜考等ニ委シケレハ其書ニ
就テ見ルベシコノ御占事ハ專ラ天之御中主神ノ御神慮ヲヒ玉ヒ
シナリ因ニ女先言而不良亦還降改言ト詔ヒシハ始メ八尋殿ノ御柱ヲ
通リ玉ヒテ女神ヨリ先キコ言舉シ玉ヒシヨリテ男女ノ道ニ違ヒ
レガ故ニ不良ノ子ヲ得タルナレバ亦還降ル改メテ男神ヨリ先ニ言
舉スベキ旨ヲ教詔シ玉ヒシナリ故爾反降更往還其天之御柱如先云
々此御通リ方ノフハ前ニ講述致シタル通り古事記ニハ始メヨリ左
右ノ違ヒアラザレバ如先ニテ然ルベシ於是伊邪那岐命先言阿那志
夜志愛衰登賣衰後妹伊邪那美命言阿那志夜志愛衰發古衰如此言竟
而御合云々ハ前ニ講シタル如ク先言ガ男神ニ換ハリタルノヨリナレ
ハ別ニ解ナ加ヘズ○サテ此神傳ヲ以テ考フルニ造化ノ神業ハ上無
キ重キ御神業ナルガ故ニ大元靈ト坐ス天之御中主神ノ立テ玉ヒシ
神則ニ法トリ玉ハンガ爲ニ産靈神ニ坐シテモ尙占事ヲ以テ御神慮
ヲ窺ヒ女神先言不良ナリト詔玉ヒシハ全ク天之御中主神ノ御神慮
ヨリ出ル所ナレバ天地アラン限り男女ノ分ヲ亂スベカラザルモノ
ナリ時流ノ男女同權等ノ論者此造化ノ原則トモ云フベキ神意ヲ窺

ヒ奉リテ少シク顧ミル所アレ男女其性ヲ異ニスルハ人間ノミナラ
ズ萬物皆男強女弱ノ原則ヲ以テ造化シ玉ヒシモノナルコトハ眼前天
地ノ間ニ考証アルコトナレバ時流ノ爲此原則ヲ犯シ大道ニ背クコトナ
カルベシ然リト雖也方今日本ノ婦人ニ於テハ弱性ノ度過ギタルモ
ノ、如シ古代ノ日本婦人ノ貞操ト氣力トヲ考合セテ弱ニ過ギタル
今世ノ日本婦人ノ性ヲ挽回シ古人ノ氣力ニ復サシメントスルハ最
モ余ガ賛成スル所ナレ共女權ヲ示スヲ以テ造化ノ原則ヲ誤ルコト無
カラシコト○サテ序ナガテ茲ニ一言申シ置ベキコトアリ其ハ如何ト
ナレハ凡ソ世ノ道學ヲ講ズルモノ合歡ノコトヲ論ズル等ノコトアレハ
只之ヲ猥褻ノコトシテ道義ヲモ亂ルコトト思考スルモノ、如シ合歡
ノコト共道ヲ誤ルニ於テハ道義ヲ亂ル最モ甚シキモノナレ共其道ヲ
誤ラザル合歡ニ於テハ造化ノ定則ナレバ何ク道義ヲ講ズルニ害ア
ラン都テ人造ノ道教ナルモノハ戒律ヲ以テ人心ヲ束縛シ人心ニ善
良ノ行爲ヲ作り出サシメントスルモノ、如ク然リ故ニ其弊終ニ造
化ノ定則タル合歡ノ道ヲシテ終身之ヲ斷タシムルガ如キニ至ル之
ヲ以テ見ル時ハ人造ノ宗教ハ道義ヲ束縛ノ内ニ存セシメントスル

ニアリ吾神道ナルモノハ天地ノ組織ト共ニ天地ノ間ニ自ラ備ハル
造化ノ原則ヨリ起ルモノニシテ自由ノ中ニ自ラ存スルガ故ニ別ニ
戒律ヲ設ケズ自ラ行ハル、モノナリ故ニ之ヲ天地ノ大道ト云フ凡
戒律ヲ設ケ或ハ仁ト云ヒ義ト云フ名目ヲ付スルニ至ルハ善惡ノ道
ヲ分別セシメンガ爲メノ指道標ノ如キモノニテ人トシテ天地自然
ノ大道ヲ忘ル、ガ故ナリ之ヲ以テ老子ハ仁義ノ道ヲ講ズルヲ聞テ
之ヲ歎ハズ大道廢レテ仁義行ハルト歎クタルナリ此語實ニ然リ今
旅行セントスルモ國道ト云フベキ大路ヲ歩行スレバ八方ニ枝路ア
リト雖モ大道ヲ行クモノ何ゾ指道標アルヲ要センコト吾皇國上古
ノ道學ニシテ忠孝ノ名ヲ用ヒズシテ忠孝ノ實萬世動カザル所以ナ
リ故ニ余常ニ云フ支那ハ忠孝ノ名アリテ忠孝ノ實無キヲ以テ君臣
其所ヲ換ル奉テ計フベカラズ吾皇國ハ上古忠孝ノ名無クシテ忠孝
ノ實アリコレ天地ト共ニ君臣ノ大義ヲ失ハザル所以ナレバ余ガ此
太古ノ傳説ヲ講ズルヲ聞ク人ニ於テハ造化自然ノ道學此内ニ有テ
存ズル事ヲ注意シテ聞カルベシ都テ道トスベキハ天地ノ造化ト共
ニ自ラ天地ノ間ニ備ハリタル道ヲ大道トスベキモノナリ

生子淡道之穗之狭別島云々

日本書紀曰 以礮馭盧島爲胞生淡

路洲云々

○サテ前ニ講シタル如ク伊邪那岐伊邪那美命ハ天神ノ太麻爾ノ占
事ニヨリテ教詔シ玉ヒシ如ク再ヒ淤能碁呂嶋ニ降り玉ヒ天神ノ詔
ノ隨ニ男神先言ノ大禮ヲ行ヒ玉ヒシニヨリテ此度ハ八國六島ヲ生
ニ成シ玉ヘリ其第一ノ長子タル國土ノ原種ヲ淡道之穗之狭別島ト
古事記ニ傳ヘタルナリ此名ノ淡道ト云フハ後ニ名付ケタル名ニシ
テ穗之狭別嶋ト云フハ太古ノ眞道ナリ其故ハ淡道ト云フ名ハ阿波
ノ國ニ通フ船路中ニアルヨリ名ヅケタルニテ後ナルヲ明カナリ穗
之狭別ト云フ穗ハ物ノ表ニ顯ハレテ見ユルニテ彼ノ穗ニ見ユル
ナド云フハニテ之ハ助辭ナリ狭ト云フハ早ノ字ノ意ニテ早ク水ノ
穗ニ顯ハル、ト云フ意ニシテ眞ニ通フ狭トハ異ナリ別ト云フハ若

ニ同ク都テ神名ニモ人ノ名ニモ男ヲ稱スルニ多ク用ユルヲニテ國名ノ別トアルモ皆男性ノ國ナリ然レバ此穗之狹別ノ嶋ハ男性ノ國ニテ海上ニ早ク穗ノ現ハルベキ原質アル國ナルガ故ニ如此名ヅケ置玉フナルベシコレ則チ太古ヨリノ名ナリ然ルニコレヲ淡路ノトシタルハ後ニ配當シタルモノコレニテ此次々ニ生ミマセル八國六嶋ノ名モ今現ニ日本ノ内ニアル國名ハ多ク神武天皇後ニ名ヅケラレタルモノナレバ此國土生産ノ太古ニハ無キ名ナルガ故ニ眞ノ眞傳トスベキハ亦ノ名ノミナリ今傳ハリタル古事記ニハ後ノ國名ヲ本名トシテ太古ヨリノ名ヲ亦名ニ配當シテ傳ヘタルモノナルヲハ此次々ノ國名ヲ委シク辨ズレバ判然タルヲニテ亦ノ名ハ太古ノ眞傳其餘ハ皆神武天皇ノ後ニ至リテ太古ノ國名ト後ノ國名トヲ附會シタルモノニテ譬ハ近江八景ヲ自宅ノ假山ニ移シタルガ如シ其委シキヲハ次ニ八國六嶋ノ名ヲ講述スル時ニ至リテ辨明スベケレバ暫ク余ガ一家説ニ任セテ國名ハ亦名ノミ太古ノ眞傳ナリト思考シテ此講述ヲ聞カルベシ實ニ此國名ノ新古ヲ合セテ古事記ニ傳ヘラレタルハ吾神代ノ眞理ヲ講ズルニ大ナル惑ヒヲ生ゼシムルノ原因ト

ナリ此レガ爲ニ本居平田兩先哲ノ如キ活眼ニモ伊邪那岐伊邪那美命ノ生産シ玉ヘル國ハ日本ノミト思ヒ定メテ説カル、ニ至リシヲ以テ後學者又其説ニ隨ヒ兩神生産ノ國ハ日本ノミト思フニ至リ甚シキニ國土生産ハ國魂神ヲ生ミ玉ヒシニテ顯國土ヲ生ミ玉フニハ非ズトシ本傳ノ明文ニ異ナル説ヲ以テ國土ノ眞問ニ對スル遁辭トスルニ至ル謹ンテ神傳ノ明文ヲ拜讀スルニ兩神國生ノ古傳ハ顯ニ此國土ノ原種タル物ヲ生ミ玉フナリ尙次々其然ル所以ヲ講述スベシ○サテ兩神國生ノ傳ハ古事記ニハ爲胞ト云傳ヘ非ヤレ共平田先哲モ書紀ニ四ツ迄モ傳ヘタルハ必ス胞ハアリシモノト論ヲラレ以淡路洲爲胞ト云フ書紀ノ傳ヘテ加ヘテ成文トセラレタリ然レ共淡路洲ハ大八洲ノ數ノ内ニシテ同ク生マセテラレタル國土ノ原種中ニモ長子ナルニコレヲ胞トスルト云フハ道理ニ於テアルベカラザルヲナシ若シ此説ノ如クナレバ今時人ノ子ヲ生ミシニヨリテ出テタル胞モ其子ト同ク人トナルノ理ニシテ胞ト子トヲ混ワタル説ニ非ズヤ然レバ淡路洲ヲ胞トスルノ傳ハ誤リトスベキナリ夫レノミナクズ同ク胎中ヨリ生レ出デシニハ爲胞ト云フ爲ノ言詞ハアル

ベカヲヤル語勢ナリ如何トナレバ此爲胞ト云フ語勢ハ他物ヲ以テ
其物ヲ胞ト借り用ヒテト云フ語勢ナルヲ明カナリコレニ由テ者フ
ルニ此時ニ胞トナシ玉フハ全ク淤能基呂島ナルベキ道理アリト思
ヒ書紀ヲ拜讀スルニ一書ニ以破取盧嶋爲胞生淡路洲云々ト云フ傳
ヘアリ是ク太古ノ正傳ニシテ大地球組織ノ眞理ヲ窺フニ足ルベキ
妙傳ナリ實ニ書紀ニ此傳ナカリセバ兩神地球ヲ組織シ玉フ眞理ハ
窺ヒ得難キモノナリ此傳アルヲ以テ地球ノ外部ハ素トヨリ地球海
底内部組織ノ原因ヲモ窺フニ足リ始メテ伊邪那岐伊邪那美命ノ國
土其物ヲ生産シ玉ヒシ疑ヒモ晴レタルヲ以テ謹テコレヲ余ガ一家
説ト確定シタルナリ○サテ前ノ本文ニ掲ゲタル書紀ノ傳ノ以破取
盧嶋爲胞トアルヲ正傳ナリト云フハ道理上動クベカラザル眞理ナ
レバ次ニ其然ル所以ヲ講述セントスルニ先ダチテ胞ト云フモノヨ
リ講究スベシ先ッ此胞ト云フモノハ人ノ子ノ生マレタル跡ニテ出
ルモノ、名ニテ其胞ニ紐アリテ胎子ノ臍ニ連シ胞ヨリ其紐ヲ通り
テ胎子ヲ養ヒ胎子ハ其養ヒニヨリテ月々膨脹シテ人体ノ具足スル
迄胎内ニアリテ生マル、モノナリ然レバ胞ト云フモノハ胎兒ヲ養

フノ元ナルヲ明カナルベシ是ノミナラズ都テ工ト云フモノハ槌斧
ノ類ニテモ柄ト云フモノアリテ始メテ全身ノ力ヲテ向フニ送り槌
斧ノ活キテ成ザシムルモノニテ柄無キ時ハ槌斧ハ何ノ用ヲモ成ス
ベカラズユレテ以テモ槌斧等ノ柄モ胞ト同ク其物ノ全身ニ力ヲ
テ達スルノ道路タルハ柄ナルヲ知ルニ足ルベシ然レ共槌斧ノ柄
ハ胞紐ノ如キモノニテ實ノ胞ト云フベキハ其柄ニ力ヲテ送ル人ノ
勢力ニアリ是等ハ皆胞ト云フモノ、作用ニ就テ參考スベキモノナ
ルガ故ニ茲ニ辨シ置ナリサテ伊邪那岐伊邪那美命ハ御國生ミノ時
ニ彼ノ淤能基呂嶋ヲ何ガ爲メニ胞トナシ玉ヒシカ其御神慮ヲ窺ヒ
奉ルベキナリ然シテ又第一ニ道理ノアル所ヲ熟考スベキハ此時兩
神ハ八國六嶋ヲ海上ヲ飛行シテ直チニ海面ニ生ミ玉ヘルカ又ハ淤
能基呂嶋ノ上ニ生ミ玉ヘルカト云フ講究ナリ先ッ先哲ノ説ニヨレ
バ中國ト四國トノ間ニアル淤能基呂嶋ヨリ次々海上ヲ産ミ廻リ玉
ヒシガ如ク考ヘラレタルモノ、如シ今ノ日本内地メケノ參考ニテ
ハ必ス然ルベキ理リノ如ク聞ユレ共伊邪那岐伊邪那美命ハ日本ノ
ミノ神ニ非ズ造化ノ神ノ神勅ヲ以テ地球ヲ造化シ玉フ神ナリ此時

ハ未ダ沼矛ハ淤能基呂嶋ニアル時ニテ地球ニ坤軸モ定マラザル程
 ノ一ナレハ素ヨリ大地骨ト云フベキ程ノ物モ無ク申サバ泥海ニテ
 アリシ時ナルニ地球上只一地方ノ日本ノ國土ノミヲ生ミ玉フト云
 フハ道理上聞エ難キニ非スヤ又海上ニ生ミ玉フト見ルガ如キハ目
 今日本内地ノ地理上ヨリ云フニ過ギザルヲナルベシ然レハ何レニ
 生ミ玉ヒシト云フニ此レハ必ズ淤能基呂嶋ノ上ヘニ生ミ玉フベキ
 理リナリ如何トナレハ先キニ姪子淡嶋ヲ生ミ玉ヒシ時モ嶋上ニ生
 ミ玉ヒシトハ本傳及ビ書紀等ノ明文ニ照ラシ道理ヲ推テ講述シタ
 ルガ如クナレハ此時モ亦島上ニ生ミ玉フベキ理リナリ其生ミ玉フ
 國土ト云フハ如何ナルモノナラント云フニ今眼前ニ見ル所ノ山川
 艸木ノアル巨大ナル國土ノ如キモノニ非ズ申サバ國土ノ原種柔軟
 ナル小キモノニテ其形モ亦一ヤウナラズ或ハ身一ツニシテ面ノ數
 ヲアル等モアリ又男性ノ國種モアリ女性ノ國種モアルハ國名ニテ
 明カナリ始メノ度ニ生玉ヘル御子ト違ヒ此度ハ善長ナル御子ト聞
 エテ明文ニハ脚ノ立ツトモ立タヌトモアラザレ共始メ姪子ヲ生ミ
 玉フ所ニ脚ノ事ヲ傳ヘタルヲ以テコトニハ同ク道理ナレハ不言ノ

内ニ傳ハリタルモノニテ何レモ脚ノ立タヌ御子ハ無キト明カナリ
 如何トナレハ若シ此御子ノ内ニモ脚ノ立タヌ御子アレハ必ズ又流
 シ玉フベキハ始メノ明文ヨリ道理ヲ推テ明カナリ然ルニ其事無キ
 ナリテ見ル時ハ皆能ク國脚ノ立チシ御子ト窺ハル、ナリ此國生ミ
 ノ時ニ生ミ玉ヘルハ他ノ神ヲ生ミ玉フトハ違ヒ國土トナルベキ物
 質ノ原種ナレハ脚ノ立ト立ザルトニヨリテ良ト不良トノ別アルハ
 如何ナルト考フルニ此ハ深キ理リニテ淤能基呂嶋ニ脚ヲ立能ク
 淤能基呂嶋ニ生付キテ密着成サシメ玉ハントノ神量ト窺ハル、ナ
 リ然ラザレハ大地ノ骨格調ハザルノ理リアルハ次々ニ講究スベシ
 ○或人又問フ姪子淡島ノ御講述ト併セテ參考スレハ此御國生ミハ
 必ズ淤能基呂嶋ノ上ニ生ミ玉フナリトノ御説ハ本傳明文ノ道理ヲ
 推テ粗然ルベク思ハルレ共假令御生ミ遊バサレシ時ハ國土ノ原因
 原種ニシテ小サキモノトスルモ其島上ニ生ミ玉ヘルハ國六嶋ノ原
 種ガ如何ニシテ今大海中ニ班列スルニ至リシモノナリヤ
 ○答フ此御質疑ハ此次ニ八國六嶋ノ國名ヲ講ツタル後ニ講述スベ
 キ順序ナレ共幸ヒニ御質疑ニ隨ヒ茲ニ其意ヲ述ベシ故ニ八國六嶋

トモ生ミ玉ヒシ後トシテ聞カルベシ先ツ古事記ニハ伊那那岐伊那
 那美命ハ國生ミノヲ終リテ後又更ニ神ヲ生ミ玉フ傳ヘアルガ故ニ
 此時ヨリ直チニ神生ミノ事ニ至リシガ如ク思ハルレ共其ハ服部中
 庸氏ガ論ヅタル通り此國土ノ原種ヲ生ミ玉フテ其原種ガ神人共ニ
 住ムベキ國土トナリシハ數萬年ノ久シキヲ經タルナルヘシト云ヘ
 ルヲ平田先哲モ然ルヘシトテ史傳ニ加ヘラレタルガ如ク其間ハ伊
 那那岐伊那那美命ハ何レニ坐シタリト云フ事明文ニハ見エザレ共
 必ズ天神ノ御許ニ坐シテ其生ミマセル國土ノ粗成リ調フ迄ハ高天
 原ニ坐シタルトト窺ヒ奉ラレ共其ハ第三期ニ至リ參考ニ
 供スヘキ傳ヘアレバ其所ノ傳ト共ニ講述スヘケレバ先ツ單ニ御質
 問ニ隨ヒ島上ニ生ミ玉ヘル國種ノ海上ニ班列スルニ至ル道理ヲ講
 ズヘシ先ツ平田先哲ノ云ハレタルニハ彼ノ天神ヨリ賜ハリシ天沼
 矛ナルモノハ始メ地球ヲ盡キ廻ハシ玉ヘル御手ノ運ビヨリ自轉力
 ナ起シ次ニ其沼矛ノ滴リヨリ淤能基呂嶋成リ其沼矛ヲ其嶋ニ衝立
 玉ヒ國種ヲ生ミ成シ玉ヒシハ地球ノ北極ノ所ナリシヲ其後漸々流
 動シテ今ハ日本ノ所ニ漂ヒ來リシガ如ク説カレタレ共前ニモ申シ

タル通り先哲ハ此地球ヲ始メヨリ横位ナルモノト視認メテレタル
 ヨリ起リシヲナルガ余ガ考ニテハ前ニ圖ヲ以テ示シタル如ク此時
 ハ未ダ地球ハ縦位ノ時ナレバ太陽直下ニシテ生ミ玉ヒシナリ其國
 種生産ノ時迄ハ沼矛ノ半ハ地球ノ外部ニアリテ其半ハノニ淤能基
 呂嶋ヲ貫キテ地球ニ入りタル迄ニテ未ダ坤軸ト云フベキ程ノモノ
 ニ非ザリシニ此國生ミノ終リシ後ハ其沼矛ハ漸々ニ膨脹シテ大ナ
 ルモノトナリシハ此沼矛ニ膨脹力ヲ吸引力トノ二ツヲ備ヘタルガ
 故ナリ其漸々大ナルニ隨ヒ又漸々ト海底ニ沈ミテ終ニハ北極ヨリ
 南極ニ貫ク迄ノ大地軸トナリシハ人體組織ノ始メ極微ノ精虫ヨ
 リ一身ヲ貫ク大骨ノ成レルト云フ造化ノ道理ヲ推テ窺ヒ知ラレ、
 モノナリ此沼矛海底ニ入ルニ至リテハ其沼矛ト密着シタル淤能基
 呂嶋ノニ海上ニ殘ルベキ理リニ非ザレバ沼矛ト共ニ海底ニ入り
 ハ疑フベカクザルノミナラズ其嶋ヲ胞ト爲シタル八國六嶋モ亦共
 ニ海底ニ沈ミシハ道理ノ然ラシムル所ニテ此沼矛漸々膨脹シテ地
 軸ト云フベキ長大ナルモノト成ルニ隨ヒ淤能基呂嶋モ同ク巨大
 ナルモノトナリ終ニ地球内部中心ノ大核タル大地骨トナリ八國六

嶋ノ國脚ヲ受ケ其國脚ヨリ養ヒテ送リテ八國六島ノ原種ヲ海中ニ
テ養ヒ國土ト成ルベキ骨格成レルニ及ンテ終ニ海上ニ墳起セシメ
今ノ國土ト成リシモノト窺ハル、ナリ如何トナレバ淤能基呂嶋ニ
國土ノ原種ハ生ニ置玉ヒテ其大八洲ニハ悉ク國脚ノ立チシハ神典
ノ明文ニ照ラシ道理ノ動カスベカラザルモノナレバ必ず淤能基呂
嶋ハ此大八洲ノ胞ト爲リテ相離ルベカラザル理リナレバ大八洲モ
亦淤能基呂嶋ト共ニ一度ビ海底ニ入ラザルヲ得ザルノ道理ナルハ
疑ヒ無カルベシ此眞理ヲ以テ考フルニ國土ハ先ツ一度ビ兩神ノ神
體ヨリ其元種ノ出生シタル時ニハ柔軟ナリ小キモノニテ後チ再ビ
地球ノ内部海底ニ孕マレ漸次出現シテ今ノ國土ノ如ク凝固シテ巨
大ナルモノトナリシハ全ク再度ノ出生ニテ今ニ於テ海底ニアル彼
ノ始メ胞トシテ代用セラレシ淤能基呂嶋則チ内部中央ノ大地骨ト
ハ相離レザル理ニテ兩神ハ國土原種ノ御祖ニテ地球海底ハ再ビ國
土ヲ孕ミシ後母トモ云フベキナリ尙コレヲ卑近ノ譬ヲ以テ云ハシ
ニ兩神ノ神體ヨリ出生セシ國土ノ原種ハ卵ノ如ク海底ヨリ出現セ
シ今ノ國土ハ其卵ヨリ孵化セシ雛ノ長セシガ如キモノト窺ヒ知ル

ベシ如此理リナルヲ以テ兩神ノ生ミ玉ヘル國土ノ原種再ビ雛ト化
シ漸々海底ニアリテ大ナルモノトナルニ隨ヒ始メ潮泥相混フタル
地球ノ諸原素ヲ別チ國土トナルベキ分子ハ凝固シテ國土トナリ海
水トナルベキ分子ハ清ミテ海水トナリ然ル後第二期ヨリ第三期迄
ノ間ニ萬國共ニ漸次海面ニ墳起シタルモノナル、尙次々ノ講述ニ
合セテ參考アルベシ後ノ六嶋ハ生ニ添玉フモノナレバ淤能基呂嶋
ニ直接ニ國脚ヲ下サズトモ他ノ國脚ノアル大八洲ニ添フテアルモ
ノト見ルモ妨ゲナカルベシ然レバ大八洲ノ本國ハ地球上ノ萬國ヲ
云フベキ理リナリ
○或人又問フ大八洲ノ原種假令胞トナシ置玉ヘル淤能基呂嶋ノ養
ヒアリト雖ヒ萬國ト云フベキ程ノ大ナルニ至リシト云フ道理ハ如
何
○答フ此御質疑ニ就テハ先ツ造化ノ定則ヨリ講究スベシ都テ造化
ノ定則ハ今モ眼前ニ備ハリタルモノニシテ小ナルモノ、大ナルニ
及ブハ天地間萬物ノ上ニ動カスベカラザル眞理ニテ此太古ノ時代
ヨリ備ハリタルモノナリ如何トナレバ今茲ニ數百年ヲ經タル一本

ノ松樹アリト假定セヨ其樹ノ大ナルヲ周圍ハ丈餘其高キヲ數丈其
幹ハ龍鱗ノ如ク其枝ハ四方ニ繁茂シ其根ハ數歩ノ外ニ蟠ル若シ蟻
ノ如キ小虫ヲシテ其幹ニ登ラシメハ樹上ニ達スル迄ノ程路ハ人ノ
他國ニ行クノ思ヒアルベシ其龍鱗ノ間ニ入レハ深谷ニ至リシ思ヒ
アルベシ如此大ナル松樹ニ向テハ蟻ハコレヲ國土ナリトモ思フナ
ラシ然レ共其大ナル松樹ノ生レタル始メハ芥子ノ如キ小サキモノ
ナリト云フトモ蟻ハ必ズコレヲ疑フナラシ然ルニ人ナシテ其大ナ
ル松樹ハ元ト芥子ノ如キ小サキ松種ヨリ成レリト云フモ誰カ疑フ
モノアラシヤコレ小ヨリシテ大ニ及テ造化ノ定則ヲ知ルガ故ナリ
國土ト松樹トハ異ナリト雖ハ小ヨリシテ大ニ及テ其眞理ニ於テハ
更ニ異ナルモノニ非ルナリ然レ共人松樹ヲ疑ハザルハ目前ニ多ク
見ル所ノ習慣ヨリコレヲ奇トセズ玄妙ト思ハザルノミ能ク其然ル
所以ヲ講究セント欲スレバ國土ノ原種小ヨリシテ大八洲ト成リシ
ト何ケ異ナルノ理アラシ然ルニ一ツハ信ヲテ一ツハ疑フ如キハ小
眼モ亦憐ムベキモノニテ松樹ニ對スル蟻ノ思想ト何ケ異ナラシヤ
○或人又問フ御説明ニヨリテ小ヨリ大ニ及テハ造化ノ定則ナリト

ノ眞理ハ了解セリ然ルニ此國土生産ノ時ニハ未ダ地球ハ經位ナリ
シモノナリトノ御説ナリ然ルニ説能恭呂嶋ニ生シ居ヒ一度ビ海底
ニ沈ンテ漸々大ナル國土ト成リシハ然ルヲトスルモ大陽直下ニ
海底ニ入リシ國土ノ再ビ八方へ廣起シ今ノ如ク萬國ノ位置ヲ成ス
ニ至リシハ如何ナル理由ナリヤ
○答フ御質疑ニヨリテ聯カ意見ヲ辨明スベシ前ニ講述シタル理
大八洲トモ一度ビ海底ニ沈ニテ内部中心ノ大地骨タル説能恭呂嶋
ノ榮ヒニヨリテ其大地骨ヨリ凝結ノ性ヲ傳へ終ニ泥海中ノ泥土集
合シテ枝骨ノ如クナリシハ今ノ國土ノ骨格皆岩石ナルコトモ知テ
ルハ、コナルガ其海底ニテ組織中ハ國脚タルモノハ何レモ長大ナル
ベキ理ヲナレ共未ダ全ク凝固シタル迄ニモ至ラニ道理ナレバ流動
物ニシテ後第三期ニ至リ海水ヲ吸フテ月球ヲ成就ナレ玉ヒシニ
リ萬國共ニ海上ニ現出スルニ至ル迄ノ間ニハ造化ノ神量ヲ以テ其
位置ノ宜キヲ量リ自ラ班列成サレメ玉ヘルヲト疑ハルハ、ナリ
申スハ只想像ニ出ルモノ、如クナレ共今日目前ニ見ル所ノ國土ガ
全ク水中ニアリテ地骨ノ上ニ泥砂ヲ以テ上蓋ヲカケタルモノナリ

ト云フハ前ニモ考述ニ相辨テ置タル通りナレバ併セテ講究
 アラハ思ヒ半ハニ過クル所アルベシ
 ○或人又問フ國土ノ原種トハ柔軟ナル小ナキモノトスルモ兩神
 ノ神体ヨリ國土共物ガ生マルト云フハ理ニ於テ疑ヒ無キアテハ
 ス共理ノアル所ヲ今一應承リ度シ
 ○答フ兩神國生ヨリ一ハ他學者ハ勿論吾同學者ノ中ニ於テモ疑点
 百出終ニ國魂神ヲ生ヨ玉ヘルニテ國土共物ヲ生ヨ玉ヘルニハ非ズ
 ト論ズルニ至ル然レ共前ニ講述シタル通り記紀兩傳共ニ明文ノ動
 カスベカラザルモノアルノヨニ非ズ此兩神ハ地球造化ノ大祖ニ坐
 シテ他ノ諸神ト違ヒ萬物ノ原種ハ皆此兩神ニ起リシモノナレバ國
 土ノ原種ハ素ヨリ萬物ノ元種ヲ生ヨ玉フモ何ノ疑フベキカアラ
 シ今萬物皆合歡ノ道ヨリシテ蕃殖スルハ此兩神ノ合歡ノ道ヨリ起
 リテ萬世ニ今日ニ貫クモノナリ故ニ萬物ガ大地ノ上ニ有テ合歡ス
 ルハ大地ニ合歡ノ先性ヲ備フルニ非レバ行ハレ難キガ故ニ殊ニ國
 土ノ先種モ合歡ノ間ニ起シ玉ヘル御神量ト規ハル、ナリ申サバ今
 日ノ萬物ハ動物植物ノ別無ク直チニ大地ヨリ産出スト云フベキ程

ノ道理ナレバ萬物ノ上ニ於テハ大地ハ今日ノ伊邪那岐伊邪那美命
 トモ申スベキ理リアリ人ニ有テハ合歡ノ道ハ其欲スル所ニ隨フ四
 季ノ氣候大地ノ氣性ニ關セザルモノ、如クナレ共到底人間ノ固有
 性計リテハ行ハレザルモノニテ必ズ大地ニ備ハリタル合歡ノ氣性
 ガ半ハハコレヲ助ケテ行ハシムルモノナラント思ハル、ナリ如何
 トナレバ禽獸ニ至リテハ四季ノ氣候ニヨリ大地ノ氣性ヨリ之ヲ行
 フヲ助ケザレバ合歡ノ道行ハレザル程ノモノニテ草木ノ如キニ至
 テハ全ク國土ノ合歡氣性ヨリ其道ヲ傳フルニ非ザレバ行ハレガタ
 キヲハ目今ノ現象ニ考証アリテ疑ヒ知ラル、モノナリ故ニ地上ノ
 萬物ヲ合歡ノ道ヨリ起シ玉ハンニハ其元トアル大地所謂國土ナル
 モノニ合歡ノ原性ヲ備ヘ置給ヘザルヲ得ザルハ造化真理ノ然ラシ
 ムル所ニテ國土共物ノ原種ヲ地球造化ノ第一着手トシテ合歡ノ道
 ヨリ起シ玉ヘルナリ其レガ爲メニ國土共物ニ男性女性ノ別サヘ
 ルノ神傳ナルハ妙ナル真理アルニ非ズヤ
 ○或人問フ御説明ヲ乞ヒ大ニ吾太古傳説ノ真理ヲ發見スベキ端緒
 ナ得タリ前々ノ御講述ヲ以テ地球海底ノ内部ヲ想像スルニ前ニ御

辨明アリシ洋人ノ説ニ海底ノ極深所ニ至レバ又寂漠トシテ空虚ナル一世界アルベシト云フモ大ニ參考トナルベキモノニテ又地下ハ大岩石ニシテ其岩石ノ内モ空洞常ニ火氣盛ナルベシト云ヘルモ共ニ採ル所アルベシ然レ共火氣ハ之ヲ含ムハ勿論ナレ共常ニ相々トシテ燃ルガ如キモノニモ非ザルベシ尙此レ等ノ一ハ地質ノ學理ニ照ラシテ他日御質問ニモ及ブベキガ今御説ノ趣ニヨリテ考フレバ海底ニ至リテ大八洲ノ國脚地球ノ内部中心ニアル淤能基呂輪ニ達シタル程ノ長大ナルモノナレバ内部ノ組織ハ必ズ大地骨ト表面ニアル大八洲ノ地骨トノ間ハ長大ナル國脚八ツモ並列シタルモノニテ殆ソド人体ノ胸骨ノ如キモノナラント窺ハル、ナリ如此想像シテ然ルベキヤ

○答フ地球海底ノ内部組織ニ至リテハ未ダ他學ノ深ク論ゼザルノミニ非ズ先哲ニ於テモ只外部ヲノミ旨トシテ講述セラレタルヨリ大地骨ノ成立如何ト云フ迄ニハ考ヘ及バレザリシハ古傳講究ノ創業ナルヲ以テ止ムヲ得ザルヲナレ共吾古傳ナルモノハ地球ノ外部組織ヲノミ傳ヘタルニ非ズ明文ノ道理ヲ推ス時ハ自ラ内部ニ及ブ

ベキ傳ヘナルハ前ニ講ザタル通りナレバ余ガ一家説ノ講究ニ於テハ先ツ御尋ノ通り海底ニ國脚ノ多クアルベキヲト存ズルガ故ニ尙モ御參考ニ供スル爲メ支那ノ太古傳ヲ以テ聊カ海底内部ノ如何ヲ講述スベシ先ツ平田先哲ノ赤縣太古傳ニ引カレタル河圖括地象ノ文ニ昆侖山爲天柱爲地首一日昆侖丘一日昆侖虛氣上通天地之中也上爲天鏡橫爲地軸立爲八極滿爲四瀆云々此語中ニアル昆侖山爲天柱ト云フハ則チ彼ノ淤能基呂輪ニ衡立テ玉ヒシ沼矛ノ事ヲ彼國ニモ云ヒ傳ヘタルト聞ニレバ昆侖山ハ淤能基呂輪ノ一ヲ云ヘル傳ヘナルト明カナリ地首トハ始メ淤能基呂輪ノアリシ處則チ地首ト云フヘキ所ナリ氣上通天ト云フハ彼ノ沼矛ノ氣所謂吸引力ノ太陽ニ通シテアルヲ云フナリ地之中ト云フハ後ニ地球ノ内部ニ大地骨トナリテ位置ヲ定メタルト聞ヘ上爲天鏡ハ始メノ爲天柱ト相似タル意ノ如ク橫爲地軸ト云フハ彼ノ沼矛ハ後ニ地球ガ倒レタルニ由リ地軸ガ橫ニ成リシト聞エテ吾古傳ト符節ヲ合スガ如ク面白キ傳ヘナル八極ハ八方ナルベク四瀆ハ四海ト云ハンガ如シ先哲ノ説ト異ナル所アリ併セテ參考アルベシヤテ此赤縣太古傳ニ引カレ

タル括地象ノ文ヲ他書ニ擧ゲタルヲ見ルニ河圖象曰崑崙山爲天柱
氣上通天崑崙者地之中也地下有八柱柱廣十萬里有三千六百軸互相
牽制名山大川孔穴相通云々トアリ此地下ニ八ツノ柱ガアルト云フ
ハ特ニ面白キ傳ヘコト余ガ考ノ大八洲ノ國脚ハ必ズ地下ノ八柱ニ
シテ此八柱ガ何レモ海底ノ崑崙山ヲ踏止メテ萬國ヲ海上ニ横起セ
シメタルナリ其次ノ柱廣十萬里云々以下ハ全ク其數ハ信用シガタ
キ文ナレ共彼ノ地球内部ニ八柱ノ廣ガリタル形ハ數萬里共云フベ
ク又其次ノ有三千六百軸互相牽制名山大川孔穴相通スト云フモ其
數ハ當レリヤ否ハ知難シト雖ニ萬國ノ間ニハ彼ノ八柱ノ國脚ヨリ
幾多ノ枝骨アリテ氣脈相通シ名山大川ヲシテ或時ハ噴火ヲ吐カシ
メ或時ハ噴水ヲ吐カシムルモ量ルヘカラズ實ニ此文ハ支那ノ古傳
ナレ共彼國ニ上古ヨリ傳ハリタルモノト見ヘテ吾古傳ノ眞理ト符
節ヲ合スルノミナラズ方今地理地質學ノ上ニ於テモ大ニ參考トナ
ルヘキ文ナリ又支那ノ神異經ニハ崑崙山有銅柱共高入天所謂天柱
也國三千里圓周如削云々ト傳ヘタリ是又異書ニシテ同シ古傳ナル
ハ必後世作爲ノ文ニ非ザルヲ知ルニ足ル銅柱トアルモノ則チ沼矛

ノトニテ所謂大地軸ナリ國三千里ト云フ數ハ信ズベキニモアラザ
レ共地軸ナレバ其大ナルヲ知ルベシキテ外邦ニモ如此古傳アレバ
是等ノ說ヲ併セテ參考スル時ハ今地球海底ノ内部ニ至レバ地軸大
地骨ノ大ナルニ驚クノミナラズ國脚八柱ヨリ出ル所ノ枝骨ノ岩石
數多ニ別レテ恰モ人体ヲ組織スル大骨枝骨ノ如キ形ナリト云フモ
其理リナキニ非ルベシ
○或人又問フ赤縣太古傳ノ說ヲ併セテ御講究アリシニ由リ益々信
チ置ニ至リシガ茲ニ又承リ置度トアリ其故ハ伊邪那岐伊邪那美命
ノ生ミ玉ヘル國ハ萬國悉ク其内ニアルモノトスレバ此後兩神再ビ
天降り玉ヒ神ヲ生ミ玉フニハ何レノ國ニ降り玉ヒシトスベキカ
○答フコハ御質問迄モ無ク吾日本ナリ然レ共太古ノ時ニハ日本ト
云フ名ハ素ヨリ秋津島ト云フ國名モ神武天皇ノ御時始メテ名ツケ
玉ヒシモノナレバ此名モ亦無キ時ナリ然レバ大八洲ノ内何レカ今
ノ日本ト成リシト云ハハ道理ニ於テ第一ニ生ミ玉ヘル國土ノ長子
タル穗之狹別島ナリ國名ノ如ク他ノ國々ヨリモ早ク水ノ穗ニ顯ハ
レ出ツベキ國ナルガ故ニ御國生ミノ時ヨリ此名ヲ負セ置玉ヘルト

ト窺ハル、ナレバ余ガ講究ニテハ穂之狹別島ハ日本太古ノ名ニシテ
夫レヨリ種々ノ名ヲ負ハセタルハ次々ノ講述ニテ明カナリコレ
則チ吾日本ノ神國タル所以ニシテ萬國ノ宗國タル大原因ナリ尙第
二期ヨリ第三期ニ至ル迄ハ萬國未ダ海底ニアリ獨リ穂之狹別島則
チ今ノ日本ノミ先キニ海上ニ墳起シタルニ由リテ兩神此國ニ再ビ
天降り玉ヒシヨナルハ第二期ニ至テ講ズルヲ俟タルベシ然ルヲ兩
神ノ生ミ玉ヘル國ハ吾日本ノミト云フ時ハ日本ニ傳ハル神道ナル
モノハ日本ダケノモノニテ更ニ外國ニ關係無ク又八百萬神モ皆日
本ノヨニ係リテ萬國ニ深キ關係無キモノ、如クナレバ外國ヨリ尋
信スルニ及バスト云フニ至ラン然ル時ハ俗ニ所謂最負ノ引倒シト
云フベキ外無シ見ズヤ彼レハ人造ノ宗教ヲ以テ萬國ニ廣布シ我レ
ハ天造ノ真教ヲ持シナガラ未ダ全ク邦人ヲ信セシムルニ至ラズ如
此モノハ他無シ神典ノ注解未ダ眞理ニ達セザルガ故ナリ然レバ同
學者相共ニ協力シテ此傳ヲ講究シ眞理ヲ發見セシムルニ勉ムベキナ
リ余不肖ナリト雖モ茲ニ見ル所アルヲ以テ神典ノ明文ニ隨ヒ之ヲ
道理ニ訴ヘ之ヲ天地間ノ實踐實物ニ糺シ眞理ノアル所ヲ發見セシ

トスル一家ノ學風ナレバ其諸説ニ讓ラサルノ不敬ナルヲ咎メズシ
テ一向吾神國ノ爲メ道ノ爲メト相共ニ此傳ヲ講究シ先哲ノ遺言ヲ
奉シテ外人ヲシテ世界無二ノ寶典タルヲ知ルニ至ラシムベシ今
日ハ徒ラニ日ヲ送ルノ時ニ非ズ彼ノ近江八景ヲ自家ノ假山ニ移シ
タル如ク中國ト四國トノ間ニアル淤能基呂嶋ノ如キハ古事ヲ存ス
ルガ爲メニ仮リニ此名ヲ配當シタル一島ナルニ過キザルヲ之ヲ太
古伊邪那岐伊邪那美兩神ノ沼矛ヲ衝突テ玉ヒシ寶物ナリトスルガ
如キ見解ハ昔日ノユニシテ今日文明ノ講究ニハ非ザルベシ
○或人又問フ御説明ヲ乞ヒ大ニ道理ノアル所ヲ了解セリ然ルニ
、ニ又參考ノ爲メ窺ヒ置度アリ共ハ如何トナレバ彼ノ淤能基呂
島ノ沼矛ト共ニ大八洲ヲ戴セテ海底ニ沈ミシ時ニハ始メ此島ニ見
立玉ヒシ八尋殿ハ如何ニ成リシモノナリヤ
○答フ此御質疑ハ神典ヲ講究スルニ於テ必ず注意スベキ御質問ニ
テ大ニ余ガ一家講究ノ意ヲ得タリ御尋問ノ通り伊邪那岐伊邪那美
命兩神ノ成シ置玉ヘル御神業ハ一ツトシテ消滅ニ歸スルヲハ無キ
モノナレバ必ず八尋殿モ御子産ミノヲ終リ玉フトモ消滅セザル理

リナリ譬へハ始メ生ミ玉ヒニ姪子淡島ハ不其ニシテ御子ノ例ニサ
へ入レ玉ハズ流シ棄テ玉ヘル程ノモノナレ共其ハ此地球ニコソ不
其ナレ後ニ第三期ニ至リテ地球ヨリ月球ヲ分体スルニ至リテハ此
流シ棄テ玉ヘル姪子淡島ハ此地球ヨリ月球ニ流レ入ル海水ト共ニ
月球ニ入リテ今月球ノ中ニ國土アリト見ユルモノハ此姪子淡島ヲ
原種トシテ成リシモノナルヲ神典ノ道理ヲ推テ窺ヒ知ラル、ナリ
此ハ第三期ノ講述ニ其然ル所以ヲ述ブル心得ナレハ其處ニ至レル
時其然ル所以ノ眞理ヲ講究スベキナリ如此棄テ玉ヘル御子サヘモ
不用ニ屬セザル程ノモノナレハ此八尋殿モ亦不用ニ屬スルニ非ス
消滅スルニ非ズコハ淤能若呂島ノ海底ニ入ルト共ニ海底ニ入リテ
後チ海宮ノ本府トナリシハ此八尋殿ヨリ原因ヲ起スベキ理リナレ
共アマリ高尙極端ノ論ナルガ故ニ第五期ニ至リ火々出見命ノ海宮
ニ入リ玉フ時ノ傳ヲ講究スルヲ俟テ其所ノ講述ト併セテ參考アラ
ハ自得セラル、所アルベシ

○或人問フ御辨明ニヨリテ兩神國生ノ疑團ハ粗水解セリ故ニ今一
層確信ヲ得ンガ爲メ御質問致シ度ニアリ如何トナレハ彼ノ海底ニ

入りテ地球内部ノ骨格トナリシ沼矛淤能若呂島ノ二ツハ密着シテ
今海底ニアルハ素ヨリノ一ナルニ其沼矛淤能若呂島ハ必ズ大ナル
モノトハ想像スレ共何程ノ大キヤナリト云フ一窺ヒ難シ之ヲ知ル
ベキ道アリヤ如何

○答フ御疑点了承セリ其沼矛淤能若呂島ノ二ツ如何程ノ大キナリ
ト云フ一ハ今日ニ知ルヘキニアラザレ共コレヲ造化ノ定則ニ照シ
道理ニ訴フルニ於テハ又知ラザルニモ非ズ故ニ其大キノ如何ナ
ラント云フヲ量リ見ルベキ考案ヲ示シ申サソ自ラ其方法ヲ以テ之
レヲ量リ見ラルベシ凡ソ造化ノ定則ハ大小ヲ問ハス一定ノ法則ア
ルモノニテ人間ハ素ヨリ禽獸ニ至ル迄其体ヲ組織シ玉フニハ又其
定則ニ法トリ玉フモノナリ此道理ヲ推ス時ハ人間ノ坤軸ト云フベ
キ大骨ノ身体ニ適スルハ何程ノ大キヤナルカ又禽獸ノ如キニ至テ
モ小鳥ノ骨格ハ如何大鳥ノ骨格ハ如何獸類又大小ニヨリテ必ズ骨
格ニ大小アルベク海中ニ住ム鯨ノ如キ大魚ニ至レハ其大骨ハ脊ノ
如キモノナルベシ然レバ此地ニハ何程ノ大ナルモノト云フ外部ノ
大キヤガ知ラル、以上ハ之ニ應ズルダケノ坤軸ナラント云フ一ハ

道理ヲ推シテ自得セラル、所アルベシ又淤能基呂嶋モ今海面ニア
ル大八洲則チ萬國ノ國脚ガ踏ミ止メト爲ス程ノモノナルガ故ニ今
日ニ至リテハ又萬國ノ國脚ヲ悉ク受クルタケノ大ナルモノト云フ
一モ推シテ知ラルベシ序ナカラ今一ツ參考ニ供シ置クヘシ前ニ引
用シタル支那ノ古傳ニ崑崙山ニアル所ノ銅柱ハ吾古傳ノ沼矛ノ一
ヲ彼ノ國ニモ傳ヘタルモノト聞ユルヲ其周圍ノ大キヤチ三千里ト
云ヒ傳ヘタルモノト見ユルヲ其當否ハ保シ難シト雖モ造化ノ定則
ニ照ラシ他ノ動物ノ骨格ニ比較スレバ實ニ坤軸ノ周圍三千里（六
丁一里トシテ吾五百里）トアルモ大ナルニ過クルト云フ程ニモ非
ザルヘシ又大八洲ノ國脚タル地下八柱ノ廣サ十萬里トアルモ（吾
一萬六千六百六十六里餘）ナレバ此レモ八柱合シタル柱廣ト見レ
ハ參考トスルニ足ルヘシ此八柱チ一ツノ崑崙山所謂吾ガ淤能基呂
嶋タル大地骨ヲ以テ受ケ止メタルモノナレバ其八柱ノ廣サチ以テ
自ラ崑崙山ノ大ナルヲモ量リ知ルヘキナリ然レバ此數ヲ傳ヘタル
支那ノ古傳モ亦參考トスルニ足ルヘシ是等ノ道理ヲ以テ考フル時
ハ今海底内部中心ニアル淤能基呂嶋ハ其内部ハ空洞ナル理リナレ

共殆ンド月球ノ大キヤニ比較スルモ不當ト云フベキ程ニモ非ザル
ベシ
○或人又問フ御説ニテ益々地球ノ内部組織ヲ窺フヘキ參考ヲ得
リ序ナガラ彼ノ支那ノ古傳ニ就テ御尋申度ハ支那モ太古ヨリ開ケ
タル國ト雖モ吾神典ト如此迄符節ヲ合スル程ノ妙傳ヲ今日ニ存シ
タルハ如何ナル理由ニヨルモノニヤ
○答フ御尋ノ義ハ未ダ取調ヘタル事モ無キナレ共彼ノ國ノ古傳
説ハ多ク神仙ヨリ傳ヘタルモノト聞ユレハ是等ノ一モ恐ラクハ仙
傳ナルヘシ如何トナレハ尸解ノ術アル程ノ神仙ハ今日ニテモ海底
ニ入ル一人ノ遠國ヘ旅行スルヨリ易キ程ノ一ナレハ直ニ海底内部
ノ組織ヲモ見ルヘキナリ其レ等ノ神仙ヨリ洩ラシ傳フル一アレハ
必ズ正シキヲ傳フヘキナリ然レ共彼ニ傳ヘル所ハ内部組織ノ出
來タル上ノ傳ニテ吾ニ傳ヘル所ハ其組織ノ因テ起ル原因ヨリ傳ヘ
タルモノニテ神仙ト雖モ又知ラザル所アリ然ルニ吾國ハ天地ノ分
判ヨリ神世ノ事ヲ殊ニ委シク傳ヘ至ヘル國ナルガ故ニ神國トモ云
ヘルニテ吾國體ノ起因ニハ、ニアルモノナリ然ルニ神代照應ノ時ニ

至リ此宗國タル日本ニ生レテ其神國ノ神國タル所以ヲ知ラズシテ
可ナラシヤ洋人モ亦吾神典ニヨリテ地球内部ノ組織ヲ知ルニ非ザ
レハ到底地質ノ原理國土變換ノ因ヲ起ル所ノ大元ヲ知ルニ據ナカ
ルヘシ
○或人又問フ今一言何置度ニアリ其故ハ先キニ質疑ヲ乞ヒシ内部
ノ淤能器呂嶋ハ其形ハ如何ナルモノナリヤ
○答フ是又海底ノ事故今知ルヘキニ非ザレ共是モ造化ノ定則ニ照
ラシ道理ヲ推ス時ハ當ラズトモ違カラザルダケノ事ハ知ルヘキナ
ニ先ツ今日菓實ノ類ニ種々變体ノモノモアレ共桃梅等ノ類凡圓形
ノ菓實ニシテ一實一核ノモノハ外部楕圓ナルモノニハ又楕圓ノ核
アルヲ思ヘハ地球ノ外部圓形ナレハ其核モ亦圓形ナル理リニ非ズ
ヤコ、ニ於テ再ヒ思ヒテ始メニ回ラシテ彼ノ沼矛ガ淤能器呂嶋ヲ
貫キタル儘八國六嶋ノ國種ト共ニ海底ニ入りシ時ノ事者ヘ合ス
ヘシ本太陽ト此地球分判ノ時ニハ漂蕩タル泥海ニテ骨格モ何モ無
キモノナリシガ造化ノ定則ハ僅カニ菓實ノ如キモノニモ其圓形相
應ナル核ト云フ骨格アル以上ハ此大地球ニモ亦核ト云フヘキ程ノ

骨格アルヘキハ造化ノ定則ニ照ラシ動キ無キ理リナリ然レハ何物
ガ原因ニテ地球ノ大核ト成リシト云ハレ則チ淤能器呂嶋ヨリ起リ
タルハ目前ニ見ルガ如キ程ノ思ヒアルヘキナリ今假リニ坤軸タル
沼矛ト大地骨タル淤能器呂嶋ト國土トノ關係ヲ極卑近ノ譬ヘテ以
テ云ハレ手巻ノ中ニ軸ヲ貫キ其紐ヨリ八箇ノ國脚ガ生ヘタル形ハ
恰モ菌ノ生ヘタル如ク今海面ニ墳起シタル國土ノ上部ハ菌ノ頭ノ
如ク大ニシテ其國脚ハ菌ノ莖ノ如ク長ク延ビタルモノニテ其菌ノ
頭(帽蓋)ノ如クナリタル外面ノ上部ノ所ニ國土ニテ其頭ノ方モ
半ハ以上ハ海底ニアリテ各國共連絡シタルモノナラント想像スレ
共極端ノ論ナレバ參考ニ供シ置迄ナリ今地球ノ大核トモ云フヘキ
大地骨所謂淤能器呂嶋ナルモノハ赤道直下海底内部中心ニアルモ
ノナラント思ハルヘナリ人体ノ組織ハ体中ノ坤軸タル大骨ヨリ直
チニ胸骨ヲ生ズレ共地球ノ坤軸ハ直チニ枝骨ヲ生ズルニ非ズ其坤
軸ノ中央ニ淤能器呂嶋ト云フ大地骨アリテ其レヨリ國脚ハ枝骨ノ
如ク出テタルモノト窺ハルヘナリ此レ人体ノ組織ト又大ニ異ナル
所ナリ世ニ神典ナカリセハ地球骨格ノ原因ヲ窺フコトハ勿論何物カ

有テ地球ニ自轉力ヲ與ヘント云フハ萬國共ニ發見スル道ハナカ
ルベキニ吾古傳テ道理ニ訴ヘテ其蘊奧ヲ窺フニ至レバ如此モノニ
テ人智ノ測リ知ルベカラザル不可思議ノ妙傳恐ルベキモノニ非ラ
ズヤ

○或人又問フ御講述ニ由テ天地ノ組織且兩神ノ神体ヨリ國土其物
ガ生レタリト云フハ爭フベカラザル道理ヨリ海底内部ノ組織迄ハ
了解セリ然ルニ假令國土物質ノ原種ヲ御生ミ遊ハサレタリトスル
モ亦必ズ國魂神モ御添ヒ遊ハサルベキ理リナリ其國魂神ト云フハ
如何ナル神ナリヤ

○答フ御質問ノ通り國土其物ニハ素ヨリ國魂神ノ添玉フベキナリ
然レ共此神ハ他ノ神トハ異ナリテ神靈ノ御作用ヲ國魂神ト申スナ
リ其故ハ此次ノ傳ニアル黃泉平坂ノ千引石ヲ道反大神ト云フ例ト
同ク其石ニ伊邪那岐命ノ魂ノ添ヒ玉フガ故ナリ然レバ國土ニモ
必ズ伊邪那岐伊邪那美兩神ノ魂ノ添ヒ玉フノミナラズ其國土ノ漸
々大ナルニ隨ヒ凝結スルニ至リタルハ全ク沼矛ニ添ヒ玉フ膨脹ノ
魂ノ御作用ト豐雲野神ノ縮引ノ魂ノ御作用トニヨルモノナレバ此

御魂ノ御作用ヲモ併セテ國魂神ト申スベキ理リナリコレナ今日大
地上ノ現象ニ照ラシテ考フレバ大地上ニ成リ出ヅルモノ動植物ノ
別無ク其始メハ皆柔軟ナル小キキモノナルニ漸々膨脹シテ大ナル
ニ及ブノミナラズ又縮引ノ力ヲアリテ縮リ固マリテ萬物ノ形ヲ備
フルハ皆坤軸タル沼矛ノ膨脹力ト淤泥能器呂嶋ノ凝結力ニ起リ國脚
ヨリ此兩力ヲ傳ヘ來リテ大地上ノ萬物ヲ造リ出シ又其萬物ヲ吸引
力ヲ以テ悉ク大地ニ吸付クルノ活キハ此時ヨリ定マレル造化ノ原
則ニテ其原則ノ起ル所以ハ彼ノ天神ノ修理固成ト詔フ一言ノ神勅
萬世ニ貫クモノナリ吾神傳ニ傳フル所ノ天地組織ノ原理ハ靈妙不
可思議ノモノニ非ズヤコレヲ以テモ造化ノ真理ハ分靈分擔ニアル
ヲ思ヒ定ムベシ今此大地上ニ於テ分靈分擔ノ神ノ一柱ニテモ欠
グルトアレハ萬物今日ノ造化ハ其歩ヲ止ムベキ理リニテ造化大元
靈天之御中主神ノ如此開闢ノ始メニ分靈分擔ノ大原則ヲ立玉ヒシ
御神量ヲ窺ヒ奉ルベキモノナリ人間ノ分靈ト雖モ亦必ズ此元則ニ
法トルモノナレバ人魂ハ不死ニシテ神人不二ナルヲ疑ヒ無カレベ
シ

○或人又問フ今少シ天地現象ノ理ニ就テ御辨明ヲ乞ヒ置クシ今天
象學ノ論ズル所ハ全ク地球ハ楕圓ナリトノ説ナリ如何
○答フ御尋ノ通り理學ノ論ズル所ニテハ地球創造ノ時ハ柔軟ナル
モノニテ其軟球ヲ急速ニ旋轉スルガ故ニ遠心求心ノ二力ニヨリテ
自ラ扁平ニナリシナラントノ説ハ大ニ據アルベシ又神典ヨリ道理
ヲ推スモ地球ハ楕圓ナルベキ理リ無キニ非ス其故ハ大陽ト地球ト
互ヒニ相引クモノハ地球坤軸ノ北極ヨリ大陽中心ノ大軸彼ノ葦牙
トノ吸引力ニヨルモノニテ又南極ヨリハ坤軸ノ氣ヲ月球ニ傳ヘタ
ル理リアレバ地球ノ南北ヲ大陽ト月球トニ引クガ故ニ自ラ兩引力
ニヨリテ少シク楕圓ナルモ知ルベカラス如此論スレバ然レバ地球
ハ自ラ又再ビ大陽ニ北極ヲ引付ルノ理リアリト云フ疑点モアルヘ
キガ此ハ地球赤道ノ以北ハ赤道以南ヨリモ重量ノ多キト造化ノ御
神徳トニ因テ其宜キヲ得サシメ玉フ理リナルヨハ第三期地球ノ横
位ニ倒レタル處ニ云フヘシニ、ニ余ガ吸引力ト云フモノハ求心力
ト相似タルモノニテ重量ト云フモノ自ラ遠心力ヲモ含ムガ如シ理
學ニ論ズル遠心力求心力ノ二者ハ大陽地球大体ノ上ニ係リテ別ニ

南北兩極ノ一ヲ云ハザレ共是ハ理學上未ダ地球ハ全ク大陽ヨリ分
体シタリト云フ一ヲ確定セザルガ故ナラント思ハルレ共假令理學
上ノ理ヨリ論ズルモ大陽地球相共ニ引合フモノハ同氣同質ノ分体
タルヲ証スルニ足ルベキモノニテ大ニ吾神典ヲ講ズルニ益スル所
アリ然レ共神典上天地分判ノ眞理ヨリ論ズル時ハ求心遠心ノ外異
ナル引力北極ニアルノ理リアリテ此北極吸引力ノ伸縮ニヨリテ寒
暑ノ往來ヲ生ズルモノ、如シ今曠ニ磁石ノ北極ニ吸引スルモ分判
ノ原理ニ因ルモノナルガ故ニ磁石ヲシテ赤道以南ニ於テコレヲ用
フルアアラハ磁石ハ必ズ又坤軸ノ南極ニ吸引スベキ理リナリ神典
ヨリ出ヅル所ノ道理ト理學上ヨリ講ズル所粗如此今理學上ノ論ズ
ル所ニテ楕圓ト云フハ此大地球ニテ漸ク英里二十六里餘ノ差ナレ
バ楕圓ト云フベキ程ノモノニモアテザルベシ余素ヨリ天文地理等
ノ學理ニ就テ細目ヲ論ズルモノニ非ズ單ニ神典ノ道理ヲ推シ大原
理ヲ講ズルモノナレバ同ヲ大陽地球ノ引力ヲ論ズルニモ理學上ノ
論トハ異ナル所アリ然レ共神典ハ天地ヲ組織シ玉フ造化神ノ實傳
ナレバ其解ニシテ動かザルニ至レバ人造理學ノ誤リヲモ質スヘキ

程ノモノナルガ故ニ謹テ神典ノ真理ヲ講究スベシ今日ノ天象學ハ
動カザル理リノ如クナレ共各遊星等ノ大小ヲ論スルニ至リテモ他
日訂正スベキモノ無キニ非ザルベシ如何トナレハ吾地球ト雖モ未
ダ全ク動カザル測量トモ云ヒカタシ況ンヤ他ノ遊星ニ於テチヤ既
ニ先年ヨリ富士山ヲ測量シ其高サヲ論ズルモノ九度ニ及ビ一ツト
シテ同シキモノ無キ程ノ一ナレハ他ノ遊星等ノ推歩ハ先ツ大概ノ
モノト見ルノ外無カルベシ
○或人又問フ數回ノ御説明ヲ乞ヒ大ニ參考ヲ得拜謝ノ至リナリ尙
此上ノ質疑ハ本講ノ氣脈ヲ隔ツル恐レ無キニ非ザレ共地球ノ北極
ト太陽トノ引力ニ伸縮アルハ何等ノ理由ヨリ生ズルモノナリヤ
○答フ此御質疑ニ就テ一家ノ意見ヲ申セバ地球ノ北極ガ一年ニ一
度傾斜スル所以ノモノハ全ク造化ノ神量ヨリ出ル所ニテ地球上ノ
萬物ヲ生々繁茂ナサシメ玉フニハ必ス四季ノ循環無カルベカラサ
ル理リナレハコレヲ伸縮成サシメ玉フハ又造化ノ定則ナル一明カ
ナルヘシコレニ由テ開闢ノ始メ兩神天沼矛ヲ地球ニ指下シテ坤軸
ト成シ玉ヒ此沼矛ノ作用ヨリ地球ノ活動ヲ起サシメ地球ノ北極ハ

素ト太陽ト分体シタル離レ口ト云フベキ所ナレハ萬世太陽ト地球
ノ相離レザル吸引力ヲコトニ採リ玉フ一ニテ申サバ北極ハ地球ノ
神經ノアル所ト云フベキナリ如斯論ズレバ何ツ地球ニ神經アリ
ト云ハソカコレ深ク思ハサルノ云ヒニシテ凡天地間ノ動物ハ勿論
植物ト雖モ一ツノ神經ト云フベキ所アリ菓實ノ類ヲ以テコレヲ譬
ヘンニモ其木ヨリ離レ口ナル蒂ノ所ヲ神經トシテ其レヨリ全体ニ
數百ノ筋ヲ出ダシ始メテ菓實ヲ造ルニ非ズヤ然ルニ地球ハ萬物ヲ
住マシメ共萬物ニ活動ヲ與フル元ヲ起スベキ一大活物ナリ何ツ地
球ニ神經筋骨ナシト云ハソヤ只動物ト否ラサルハ性情ヲ備フルト
備ヘザルトニアリテ動植トモニ死物ニ非ザルナリコレ則チ地球組
織創造ノ時ニ沼矛ヲ指下シテ此地球ニ神經ト云フベキ所ヲ定メ玉
フ所以ナレハ北極ノ傾斜スルハ造化ノ神量地球ノ神經ニ應ズルガ
故ナリト知ラルベシ是等ノ真理ニ至テハ天象學ノ講ズヘキ限リニ
非ズ吾神典ニ傳ハル玄妙ノ幽理ヲ窺フニ非レハ他ニ窺知ルベキ道
アラザルベシ今天象學科ノ論ズル所ニテハ地球ノ傾斜ハ何等ノ理
ヨリ起ルモノトスルカ單ニ遠心力求心力ノ二力ノミニテハ北極傾

斜ノ理起ル所アルヘカラス學理ニ此論アルハ只地球ノ傾斜ヲ現象ニ見ル所ヲ以テ論スル迄ノナラシテ恐ラクハ大原理ヨリ起シタル論ニハ非ルヘシ果シテ然リトセバ吾神典ニヨリテ講スルニ非サレバ地球上他ニ此原理ヲ知ルヘキ由無カルヘシ尙前ニ講シタル地球骨格ノ如何ニ思ヒ合セテ地球ニモ亦神經アルヲ思ヒ定メラルヘシ此論極端ノ論ノ如クナレ共道理上動クマフキコニ非スヤ
○或人曰ク物質凝固世記ノ相繼テ拜聽大ニ了解スル所アリ然レハ伊邪那岐伊邪那美命兩神ノ生マセラルタル柔軟ナル國土ノ原種ガ地骨タル岩石トナリシト云フニ至リテハ其原理ハ粗自得スル所アルモ尙半信半疑ノ思ヒアリ故ニ他人ニコレヲ示スモ亦然ルナラント推考ス願クハ一言ニシテ此惑ヲ散ゼシムル御考案ハ無キヤ
○答フ天地造化ノ大ナル一言ニシテ盡スヘキニハ非サレ共常ニ辨スルガ如ク萬物造化ノ大原理ハ靈氣質ノ三者ヨリ起リ膨脹縮引變化ノ神徳ニヨリ成レルモノニテ造化一定ノ神則ハ萬世ニ貫キ開關第一期ノ太古ノナリモ今日目前萬物ノ上ニ見ル所アルモノナリ然ルニ世人多ク國土岩石地骨ノ類ヲ見テ始メヨリ如此大ニシテ且堅

硬ナルモノト想像スルガ故ニ兩神合歡ノ間ニ如此モノヲ生ミ玉ハシヤト云フ疑ヒヲ生スレ共理學ノ論スル所ニテモ地球創造ノ始メハ岩石ノ類モ皆柔軟ナルモノナリシヲ冷結スルニ隨ヒ堅硬ナルモノト成レリト論ス此論實ニ然リ凡萬物創造ノ始メハ皆柔軟ナル小キモノヨリ起リテ後堅硬ニシテ大ナルモノトナルハ造化一定ノ原則ナレハ國土ト雖此理ノ外ナラズ然シテ又原種ト結葉ト其形ノ同シカラサルモ造化ノ作爲ニテ目前ニ其証少カラズ先ツコトニ一ツノ鶏卵アリトセヨ其卵ヲ破リテ見ルニ筋骨アリヤ無シヤト云ハ
い如何必ズ卵ノ時ニハ筋骨ト云フベキモノアルベカラズ誰カ鶏卵ヲ食シテ骨アルヲ知ルモノアラザン然ルニコレヲ解化セシメテ鳥トナリタル以上其鶏肉ヲ食ハントズルニ骨ヲ除クニ非ザレバ食フベカラザルナルベシコレ始メ柔軟ナル卵ヨリ起リテ堅硬ナル鶏骨トナリシニ非ズヤ又植物ヲ以テコレヲ云ハシテ如キハ其始メ柔軟ナル小サキモノニテ老人ト雖コレヲ食シテ其堅キヲ覺ヘズ然ルニ僅カク一歳ノ間ニシテ數丈ノ長竿ト膨脹シ其堅キヲ竹刀ヲモ造ルベキニ非ズヤ然レバ小ナルヨリ大ナルニ及ビ柔軟ナルモノヨ

リ堅硬ナルモノト變化スルハ造化ノ定則ナリト云フ一ハ三歳ノ童子ト雖ヒコレヲ知ルベキノミニ非ズ大地上ノ萬物ハ皆コレガ保証ニ立ツベシ其萬物ノ始メ小ナル原種ヨリ大ニ及ブハ如何ナル原理アリテ如此カト云ハハ此地球創造ノ始メ兩神ニ授ケ玉ヒシ沼矛ニ造化ノ靈徳ヲ備ヘ玉ヒテ萬世大地上ノ萬物ヲ膨脹ナサシメ玉フ神算ニ出ルモノニテ其萬物ガ又自ラ凝固質ヲ備ヘタルハ大地骨タル淤能基呂嶋ヨリ凝固ノ原性ヲ傳ヘ來ルガ故ナル一神典ノ明文ト道理ト實物ノ三者ニ照ラシテ疑ヒアルヘカラス大小異ナリト雖ヒ其原理ハ一ツナリ然レバ鷄卵ヨリ鳥骨ヲ生シ筭ヨリ堅硬ナル竹ト變化スルヲ疑ハザル以上ハ地球上膨脹物ノ大原タル沼矛ガ大地軸トナリ凝結物ノ本原タル淤能基呂嶋ガ地球ノ大核ト云フヘキ大岩石トナリ其兩種ト密着成サシメ玉ヒシ柔軟ナル小サキ國土ノ原種ガ大ナル一驚クヘキ大地萬國トナリシテ疑フノ理萬々アルヘカラスニレテ以テ伊邪那岐伊邪那美命國土其物ノ元種ヲ合歡ノ間ニ起シ玉ヘルハ造化分擔ノ御神業ニ於テ地球上ノ萬物ヲ合歡ノ道ヨリ繁殖セシメ玉ハソニハ必ズ國土ニ合歡ノ原性ヲ備ヘ置キ玉ハザルヲ

得ザルノ理リニ出ツル一ヲ思ヒ定メ此疑点ノ散ズルト共ニ吾神典ノ人造作爲ノ書ナラザルヲモ自得セタルベシ尙是ヲモ疑フモノトスレバ夏虫氷ヲ疑フヨリ甚シキモノニテ再ヒ共ニ語ルベカヲザルノ外無キモノナリ

古事記曰 次生伊豫之二名島此島者身一而有四面每面有名故伊豫國謂愛比賣讚岐國謂飯依比古粟國謂大宣都比賣土左國謂建依別次生隱伎之三子島亦名天之忍許呂別次生築紫島此島亦身一而有四面每面有

名故築紫國謂白日別豐國謂豐日別
 肥國謂建日向日豐久士比泥別熊曾
 國謂建日別次生伊伎島亦名謂天比
 登都柱次生津島亦名謂天之狹手依
 比賣次生佐度島次生大倭豐秋津島
 亦名謂天御虛空豐秋津根別故因此
 八島先所生謂大八島國然後還坐之
 時生吉備兒島亦名謂建日方別次生

小豆島亦名謂大野手比賣次生大島
 亦名謂大多麻流別次生女島亦名謂
 天一根次生知訶島亦名謂天之忍男
 次生兩兒島亦名謂天兩屋

○ナテ前ニ淡道之穂之狹別島ノ一ハ講ヲタレバ次ニ伊豫之ニ名島
 云々ヨリ講述スベシ此ノ國名ヲ解スルニハ先ヅ先哲ノ説ニ一家説
 ナ加ヘテ解ベシ伊豫ノ國ノ名ハ古事記ニヨレバ四國ノ大名ヨリ起
 リテ又其名ヲ今ノ一箇國ノ名ニモ用ヒ亦其伊豫ノ國ニ伊豫郡ト云
 フ郡モアリテ三ツ重ナリタルモノナルガ都テ日本古代ノ國名ハ大
 名ヨリ一國ノ名トナリ一國ノ名ヨリ一郡ノ名トナルガ如キハアマ
 リ無キ例ニテ一國ノ國名ハ一地方ノ地名ヨリ起リタルモノ多キヤ
 ハ日本各國ノ國名ノ起リテ委ソク考ヘタル人ハ其然ル所以ヲ知ラ

ル、イナラン其例ニ由レバ伊豫ノ名ハ今ノ伊豫郡ト云フ一地方ノ名ヨリ起リタルモノ、如シ其名ハ何レノ時代ヨリ名付ケタリト云フハ未ダ考ヘ得ザレ共國土生産ノ時ノ名ニ非ズシテ伊豫郡ノ地名ヨリ唱ヘ始メタルハ他ノ國名ノ例ニ由テ知ラル、イナリ故ニ此名ハ後ノ名ニシテ太古國生ミノ時ノ名ニハ非ズトスベシ然レバ二名島ト云フコソ全ク太古ノ真傳ト疑ハル、ナリ其二名ノ由ト云フハ此島ニ名ガ二ツアリシヨリ云ヘルコト先哲ハ今ノ日本ノ四國トノミ思ハレタルガ故ニ二名コトハ聞エ難キヲ以テ二並ビト云フイナラントモ云ハレタルレ共古事記ノミナラズ書紀ニ四ツ迄アルニ皆二名島トアレハ疑ヒモ無ク名ノ二ツアリシ島ナルイ明カナリ之ニ因テ能ク考フレバコトハ真ノ古傳ハ愛比賣ト建依別ノ二ツノミ太古ヨリノ名ニシテ讀枝ト粟ニ當テラレタル飯依比古ト大宜都比賣ノ二ツノ名ハ日本ノ四國ト此國生ミノ時生ニ玉ヘル二名嶋トナ假ニ配當シタル時ヨリ名ノ數ノ足ラヌガ故ニ加ヘラレタルイナラント考ヘラル、ナリ如何トナレバ此國生ノ時ハ未ダ米粟ノ類ハ無キ時ニテ米粟ノ類ノ出來タル始メハ第三期ニ至リ保食神ノ時始メテ原

種ノ出來タルモノナレバ此第一期國生ノ時ニ米粟ノ類ヲ以テ名付クベキニ非サレバ後世ヨリ加ヘタルモノナルイハ多言ヲ用ヒズシテ明カナリニ大宜都比賣ト云フハ保食神ノ亦ノ御名ナルヲ粟國ト云フヨリ亦ノ名ニ保食神ノ御名ヲ用ヒ此粟國ニ對シテ讀枝國ニ飯依比古ト云フ名ヲ付ケタルモノト思ハル、ナリ國名ハ都テ男性ニハ別トアル例ナルニ此國ノミ比古トアルモ疑ハシク特ニ飯粟ノ類ヲ以テ國生ミノ時ニ名ヅケ給フベキニ非サルハ辨解ヲ俟テ後ニ知ルマデモ無キ程ノイナリ讀枝ト云フハ先哲モ竿調ノ國ト云フ意ナラシカトノイニテ手置帆負命ノ孫此國ニ住ミテ毎年予竿ヲ調ギ奉リシコ由テ起リシ名ナラント云ヒ置レタル通り大古ヨリノ名ニ非ザルイ明カナリ土佐ノ國ニハ土佐郡土佐郷ノ名アレバ例ノ一地ノ名ヨリ起リタルモノニテ後ナルイ疑ヒ無シ然ル時ハ太古ヨリノ真傳トスルハ愛比賣ト建依別ノ二ツヨリ外無キナリシレ記紀共ニ同シ傳ヘノ五ツモアルニ皆二名島トアル所以ニシテ古事ヲ存セシガ爲メニ日本ノ四國ニ合セテ名ヅケラレタルモノト聞ニ此ハ何レノ御世ノイトモ未ダ考ヘ得ザレ共昔時ニ二名ニテハ四國ニ合ハ

ザル故面四ツアリトシタルモノ、如シ然レ共幸ヒニ記紀ニ二名嶋
トアルヲ以テ此調ベモ出來ルコトニテ此二名ノ島ヲ四名ノ島ト改メ
ザリシハ神慮ニモアルベシ其他ノ國名ハ皆古事ヲ存スル迄ニ假ニ
日本内地ニ配當シタルモノナルガ故ニ其大小ノ比較等モ更ニ道理
ニ於テ聞エザルモノナリ如何トナレバ今ノ日本ノ八國ヲ比較シテ
考フベシ隱岐國ヤ佐渡國ヤ壹岐國ヤ對馬國ト彼ノ陸州ヨリ長州ニ
至ル迄ノ大陸所謂秋津嶋ナリト先哲ノ云ハレタル國ト同列ニシテ
同々大八嶋ノ内トスレバ其大小提灯ト鍾富士山ト築山ヲ並ベタ程
不權衡ノモノニ非ズヤ其レノミナラズ後チノ六嶋ノ内ニハ今ニ所
在モ知レザル嶋ナドモアルハ如何ニモ疑ハシキニ由リテ深ク考フ
レバ全ク太古ノ名ト後チノ名ト附會シタルモノナルコト此次々ノ講
述ヲ聞カレバ必ズ自得セラル、ニ至ルヘシ○サテ次ニ生隱伎之
三子嶋云々此名ハ日本ノ今ノ隱伎ノ國ノ名ニシテ嶋前嶋後ト四ツ
ノ數アリテ嶋後ハ大コレテ一ツ嶋前ハ小嶋三ツヲ合セテ嶋前ト云
フ之ヲ以テ隱伎ノ三ツ子ノ島ト云ヘルナリ何レノ時代ニ名ヅケタ
ルコト知ルベカラザレ共コレモ後ノ名ナルベシ亦名天之忍許呂別ト

云フハ太古ノ眞傳ナレ共後ニ隱岐國ニコレヲ配當シタルモノナル
ガ故ニ所在ノ順序モ亂ル、ニ至リタルモノ、如シ記紀ヲ合セ見テ
此嶋ノ順序異ルヲ考ベレ○次ニ生筑紫嶋云々サテ此筑紫ト云フ名
モ今ノ九州ノ大名ニテ其名ヲ又内譯一國ニ名ヅケタルモノ、如ク
聞ユレ共コレモ全ク太古ノ傳ニ非ズ其故ハ先哲モ云ハレタル如ク
筑後風土記ニ邪神ノ爲メニ往來ノ人多ク殺サレタルヨリ命ヲ盡シ
ノ神ト云フ古事ヨリ名ヅケタル後ニ文字ヲ改メタルモノト聞ユ
レバ此レモ後チノ名ナリ其外豐國ト云フハ作物ノ美ナルヨリノ名
ト聞エ肥國ハ本ト火國ニテ崇神天皇ノ御世ニ云々ノコトアリテ天皇
ノ御言ニ火從空下燒山亦怪火下之國可名火國トアレバ此御世ヨリ
名付ケ玉ヘルコト明カナリ日向國ハ景行天皇紀十七年三月幸子湯縣
遊于丹波小野時東望之謂左右曰是國也直向於日出方故號其國曰日
向也トアレバ此御世ヨリ名ヅケ玉ヘルコト又明ナリ熊襲國ハ本ト異
ト云フ地名ヨリ起リタルコト聞ユ先哲ノ傳ニ委シケレバ就テ見ル
ベシ如此何レモ後チノ名ナレバコレヲ除キテ眞ノ古傳トスベキハ
白日別豐日別豐久士比泥別建日別ノ四ツノ亦名ノコトナルナリ○

次ニ生伊伎島云々此名モ後ノ名ニシテ先哲ノ説ニハ伊伎ハ齋忌ト
 通フ名ノ義ナレバ古ク此島ニテ神祭ノイアリシヨリノ名ナラシカ
 ト云ハレ又唐國ニ渡ルニ此島ニ舟ヲ止ムルヨリ息ヒノ嶋カトモ云
 ハレタリ然レバ此レモ天比登都柱ト云フ太古ヨリノ名也此島ニ配
 當シタルナリ○次ニ生津嶋云々此名モ韓國ノ往還ノ舟ノ泊ル津ナ
 ルガ故ナラント先哲ノ説アレバ神功皇后ヨリ後チニ名ツケ玉ヘル
 ナレバコレモ亦此嶋ニ天之狹手依比賣ト云フヲ配當シタルナリ○
 次ニ佐渡嶋名義ハ先哲ノ説ニ此嶋ニ舟ヲ入ル、水門ノ狹キガ故ニ
 狹門ナルベシトアリ然ルイナルベケレバ此レモ亦古傳トスベキハ
 亦名ナレ共惜イカナ古事記ニ此島ニ配當シタル亦名ヲ傳ヘサルハ
 古クヨリ失ヒタルモノカ又ハ騰寫ノ時ニ落シタルカ舊事記ニ勝カ
 思ヒヨルイモアレ共今世ニ傳ハル舊事記ノ偽書ナルイハ先哲モ能
 ク辨テ置カレタル通リナレ共古書ナルガ故ニ他書ニ無キ古傳モア
 レ共此國名ニ就テハ探ルベキ程ノイニ非ラズ其他ニ之ヲ補フベキ
 書ノ傳ハラザルハ残念ノ至リト云フベシ○次ニ大倭豐秋津嶋云々
 此名ノ倭ト云フハ本ト大和一國ノ地名ナルヲ神武天皇ヨリ後御世

々々ノ大官所チ多ク此國ニ敷キ玉ヘルヨリ終ニ日本ノ大名ノ如ク
 ナリシニテ太古ノ名ニハ非ザルナリ又秋津嶋ト云フハ神武天皇紀
 ニ腋上ノ味間丘ニ登リ國形ヲ迴望セラレシ所ニ曰ク雖内木綿之眞
 進國猶如蚌蛤之臂由是始有秋津洲之號也云々トアリテ大詔ヨリ
 起リテ終ニ日本ノ大名トナリシモノニテコレモ太古ヨリノ名ニ非
 ザレバ此國生ミノ時ノ八國ノ中ニ入ルベキ名ニ非ズ此亦名ノ天御
 虛豐秋津根別ト云フ名モ後チニ八國ノ内ニ加フル時ニ他ノ例ニ倣
 ヒ亦名ヲ負セタルハ本名ト同シ秋津ニテ窺ヒ知ラル、ナリ此名ハ
 二ツ共ニ神武天皇後ノ日本ノ大名ナレバ國生ミノ時ノ八國ノ數ニ
 入ルベキニ非ズ然ルニコレチ八ツノ中ニ入レタルニ由テ今之ヲ除
 ケハ八國ハ七國トナル今一國ハ何レナラント考フルニコハ越洲ナ
 リ共故ハ書紀ニハ越洲ハ正書ニモ舉ラレタルノミナラズ亦ノ傳ニ
 モ三ツ迄モ越洲チ八國ノ中ニ加ヘラレタレバ古事記ニモ必ズアル
 ベキ理リナルニ古事記ニハ略カレタルハ秋津島チ加ヘラレタルガ
 爲ナルノミニ非ズ越國ハ今内國大陸ノ内ニアルニヨリテ別ニ生マ
 セラレタルモノナラト考ヘタルモノ、如シ越洲ノイハ井上賴國

氏ノ越洲者ニ論ヲラレタル通り今ノ北海道ノ一ニテ内地ノ三越ハ
越洲ニ通フ道路ナルガ故ニ越路ト云ヒシヨリ終ニ越國ト云フニ至
リタリトノ説動クベカラザル論ト思ハル、ナリ然レ共其越洲ト云
フモ太古ノ名トモ聞エガタク他ノ例ヲ以テ考フル時ハ之ニモ何別
トカ亦名ノ配當アルベキナ今傳ハラザルハ日本紀ニハ亦名ナ一ツ
モ舉ラレズ只古事記ニノミ殘リタルモノニテ舊事記ニアルモ古事
記ヨリ採リタル程ノ一ナルガ故ニ古事記ニ此國ヲ略カレタルニヨ
リ亦ノ名モ共ニ傳ハラヌトナリシハ殘念ノ至リナリ實ハ日本紀
撰集ノ時ニ集メヲレタル家々ノ傳ノ中ニハ皆亦名ノアルベキ理リ
ナルニ彼紀ハ專ラ漢風ニ學ビタルモノナルガ故ニ國土ニハ如何ニ
モ似合ハザル名トシテ亦名ヲ略カレタル一ナラント疑ハル、ナリ
今ノ世ニ古事記無カリセハ太古ヨリノ真傳タル八國六嶋ノ國名ハ
全ク後世ニ傳ハラザルベキニ天武天皇ノ大御心ノ畏ニキカモ○サ
テ是迄ニテ大八洲國生ミノ御神業ハ一先ツ濟マセヲレシガ故ニ本
傳ニ故因（これより）此八島（やしま）先所生（まゐりたまは）謂大八島國ト傳ヘタルナリ○次ニ（きつ）然後還坐（のちかへりまゐ）
之時生吉備兒島云々トアルハ一先ツ八嶋ヲ生ミ玉ヒテ又生添置玉

ヒシトト疑ハル、ナリ此吉備兒島ト云フ名モ後ノ名ニシテ太古ヨ
リノ名ニ非ザル一ハ明カナリ如何トナレバ吉備國ハ内國大陸ノ内
今ノ三備美作四箇國ノ古名ナルニ其本タル吉備ノ國ノ名サヘ無キ
ニ吉備ノ兒島トアルハ後世ヨリ名ヅケタル一論ヲ俟タズシテ明カ
ナルベシ然レバ此島モ太古ノ名ハ配當シタル建日方別ト云フ亦名
ノミナル一知ラレタリ○次ニ生小豆島云々コレモ申ス迄モ無ク小
豆ハ第三期ニ至リ保食神ヨリ其原種ノ起リタルモノナレバ此時ニ
アルベキ名ニ非ザレバ是モ配當ノ亦名ノミ真ノ古傳ナリ○次ニ大
嶋ト云フモ兒島ト云フニ對シタル如ク聞エテ兒島ガ後ノ名ナレバ
同ク後ナル一ナルベシ然レバ是モ亦名ノミ古傳トスベシ○次ニ
生女島云々コレハ今ニ其所在モ知レヌ程ノ一ニテ女島考ト云フ書
物サヘアル一ナルガ余ガ説ハ前ノ島々ト同ク女島ト云フ名ハ後
ノ名ト思フナリ然レバコレモ亦ノ名ヲ真傳トスベシ○次ニ生知訶
島云々此島ノ名ハ景行天皇巡行ノ時ニ人チシテ此島ヲ見セシメ玉
フ時ニ於茲勅曰此島雖遠猶見如近可謂近島因曰值嘉島云々トアル
ニテ後ナル一明カナレバ古傳トシテ採ルベキハ亦名ナリ○次ニ生

両兒島云々此島ハ未ダ何レニアリトモ定マラヌ程ノナレ共此名ハ全ク後世ノ名ト云フベキニ非ズ如何トナレハ書紀ニモ隱伎ト佐渡トヲ雙生トヘリト云フハ正書ニモアリ亦一書ノ傳ニモ二ツ迄アリテ三ツ同シ傳ヘアレハ隱伎ト佐渡トヲ雙生トアルハ後ノ名ヲ附會シタルモノニモセヨ必ズ雙生ノ國ハ太古ノ眞傳ニアリシト窺ハル、ナリ是モ古クヨリ配當スベキ島ノアヲシニハ他ノ國々ト同シク日本ノ島ノ内ニ配サルベキナリ是ノミハ然ルベキ島ノ無キニヨリテ却テ古傳ノ儘其ノ名ノ存シタルナルベシ○サテ前ニ講述シタル趣ニテ恒此國名ハ太古ノ眞傳ト後世ノ名トナ合セテ古事ヲ存セシガ爲ニ日本内地ニ配當シタルモノト云フハ判然タルベシ如此引分ケテ見レハ神傳ト後ノ名トハ油ト水ヲ別ツガ如キモノニテ太古ノ國名ハ日本内地ニノミアルベキ國名ニ非ザルヲ知ルニ足ルベシ若シ此亦名日本ノ嶋々ナラシニハ神武天皇迄長キ神代ノ間ニ只ニ一名ナリ共日本内地ニテ何別ノ國ニテ云々ノヲアリシト云フアルヘキニ此國生ミノ所ニ名ツケ置キ玉ヘルノミニテ此名ノ神典中ニ再ビ無キヲ思ヘバニハ余ガ説ノ如ク必ズ一旦海底ニ沈ミ萬國

トナリテ今ニ何レガ何別ノ國ノ原種ヨリ成リシ國ト云フヲノ知レザルナリト云フハ凡ソ古典ヲ視ル程ノ人ハ一言ニシテ了解アルベキト信ズルナリ又前ニ論ゲタル今日ノ日本ノ内地ニ存ズル所ノ國名ハ前ニ講述シタル通り多ク神武天皇後ニ名付ケタルモノナラント云フハ余ガ一家ノ私説ニアラズ先哲ノ説ニヨリテ後世ノ名ナルヲナモ了解セラレタルナルベシ然レハ當今ニ存スル所ノ八國六嶋ノ國名ハ神武天皇以前ノ古傳中ニアルベカラザル理リナルニ古事記ニ伊邪那岐命ノ御稜ノ所ニ筑紫日向ノ云々トアルト皇孫降臨ノ所ニ筑紫日向云々トアルト二箇所見エタルハ如何ナル故ナリヤト能ク道理ヲ推テ考フルニハ全ク後世ノ竄入ナルヲ明カナリ如何トナレハ筑紫日向ト云フ名ハ筑後風土記ノ命靈神ト云フ古事ト景行天皇ノ御時ニ日向ノ名ヲ始メテ名ツケ玉ヒシ程ノナレハ伊邪那岐命御稜ノ時ハ素ヨリ皇孫降臨ノ時ニ此國名ノアルヘキ理リニ非ラズ故ニコレハ全ク古事記中後人ノ作爲トスヘシ特ニ神代ノイハ多ク其一地方ノ名ヲ以テ傳ヘタル例ナルニ國郡村名ノ上ニ大字小字ト云フ如ク筑紫日向ノ橋ノ小門ノ阿波岐原ト太古ノ眞傳

ニナルヘクモ非ズ又此外ニ淤伎ノ島ヨリ厄云々トアルハ只ニ海上
ノ沖ト云フコト同ヲ古事記ニモ隠伎國トハ文字サヘモ換ヘテ撰
レタリ然レバ高志國ノ外ニハ今日本内地ノ國名ニテコトニ擧ゲラ
ルナルヘシ如此動カスヘカラザル道理ヲ以テ太古ノ眞傳ト後世ノ
國名トヲ別カタバ眞ノ古傳ナルモノハ左ノ通りニナルナリ○以
取盧嶋爲胞生穗之狹別島次生一名島此島者身一而有二面二面有
故謂愛比賣謂建依別次生天之忍許呂別島次生島亦身一而有二面
面有名故謂白日別謂豐日別謂豐久士比泥別謂建日別次生天比登都
柱島次生天之狹手依比賣島次佐渡ニ配シタル亦名茲ニ入ルヘキヲ
傳ヘ欠ゲタリ次越洲ニ配シタル亦名茲ニ入ルヘキヲ傳ヘ欠ゲタリ
故因此八島先身生謂大八島國然後還坐之時生建日方別島次生大野
手比賣島次生大野麻流別島次生天一根島次生入之忍男島次生兩兒
島謂天兩屋云々ト改ムレハ太古ヨリノ眞傳トナルナリ今如此論ズ
レハ古傳ヲ私ノ意見ヲ以テ改ムルナド云フ人モアルヘケレ共前ニ
考証ヲ以テ説明シタル通り御歴代ノ正史ニ照ラシヨレテ道理ニ訴

ヘ動カスベカラザル正理ナルヲ以テ余ガ一家講究ニテ亦名ノミヲ
國土太古ノ眞名トス如此古事記ニモ國名新古ヲ合セタル如キヲモ
アルニ由テ近來洋人が吾日本書紀古事記ヲ評シテ日本書紀ハ漢風
多ク加ハリ日本ノ古風ヲ失ヒタルモノナリト云ヒ古事記ハ日本ノ
古風ヲ存シタルモノナレ共間々漢風ノ加ハリタル所アリナド評ス
ルニ至ル外人スヲ吾古傳ヲ見ルニ如此意ヲ用ユル時ナレバ此上一
層洋人ノ手ニ之モ調ベテコレハ古傳コレハ後世ノ竄入ナド云フニ
至ル迄手ヲ空シクシテ昔日ノ講究ヲ以テ安ゾズベキ時ニアラズ日
本人ハ相共ニ力ヲ盡シテ講ズベキハ神典ニアラズシテ何ヤヤ吾
國体ノ起因タルノミニ非ズ日本ニ此書アルニ非ラザレバ吾人ノ住
居シタル地球全國ノ組織ハ如何ニシテ出來タルモノト云フコト知
ルベキ書世界ニ又二ツアルコトナキモノナレバ吾古傳書ハ獨リ日本
人ノミ講ズベキ書ニ非ラズ萬國共ニ此書ヲ講ワテ天地組織ノ原種
ヲ窺ヒ知ルベキナリ然ル後始メテ哲學ナリ政學ナリ教學ナリ造化
ノ原則定理ニ符フ眞正ノ學ハ起ルベキモノト信ズ然ルニ余ガ如此
論ズルヲ第一期ノミ聞クラン人ハ此國名ハ然ルベキ理リアルニモ

セヨ此論ニシテ次々神代ノイチ講ズレバ或ハ差問モアラントノ疑
点アルベケレ共ソハ從來ノ講究ニテ彼ノ近江八景ヲ築山ニ移シタ
ル如キ講究ノ習慣ヨリ起ルヲニテ兩神ノ生セラレタル國ハ萬國ナ
リト云フコト心付カザレバ到底神典ノ眞理ハ窺ヒ難シ然レ共他ノ
各國ハ海面ニ墳起スルヲ後レタル理リアレバ第二期ヨリ穗之狹別
島則チ今ノ日本ノミニ係ルヲ多シ然ル所以ノモノハ八國六島ノ海
面ニ墳起スルコトノ遲速アルニ由テナリ序ヲ追フテ講ズルヲ俟タル
ベシ○サテ前ニ講述シタル通りナレバ國名ハ亦名ノミ太古ノ眞傳
ナリト云フハ疑ヒ無キコトナルベシ然レバ此亦名ニ就テ其所在ヲ考
フベキナリ前々ノ講述ニモ申置シ通り兩神ノ生マセラレシ國ハ香
日本ノミナラザルハ明文ト道理トニ訴ヘテ動クマコトナレバ
此八國六島ノ内何レガ吾日本ナラント云ヘバ則チ穗之狹別島ナル
コトハ前ニ辨明シタル理由ニテ他ノ國々ヨリモ一期先キニ海面ニ墳
起シ水ノ礎ニ早ク顯ハル、ヨリ穗之狹別ト云フ名ノアルノミナラ
ズ國土ノ長子ナレバ先ニ墳起スヘキ理リナリ故ニ古事記ニハ素ヨ
リ日本書紀ニモ六ツノ異傳アルニ何レモ國名ノ前後ノ亂レタルニ

拘ハラズ淡路洲ダケハ六ツノ異傳ニ五ツ迄始メニ生玉ヘル傳ナリ
其淡路洲ニ配シタルハ則チ穗之狹別島ナルヲ惜カナ日本書紀ハ漢
風ニ學バシタル弊ヨリシテ終ニ日本内國ニテ配當シタル國名ノミ
存シテ太古ノ眞名ヲ失フニ至リタルモノナラント考ヘタル日本書
紀撰集ノ時家々ニ傳ヘタル古傳ニハ必ス古名ト共ニ古事記ノ如ク
傳ハリタルモノト想像セラル、ナリ如何トナレバ此國名日本内地
ノミノモノナレバ他ノ事物ト違ヒ家々ニ於テ其順序ヲ亂スベキニ
非ラザル理リナルニ書紀ノ傳ノ如ク何レモ順序ノ亂レタルヲ思フ
ニ本トハ太古ノ名ノミニテ傳ヘ來リシテ其太古ノ名ノミニテハ日
本内地ダケニアルベキニ非ザレバ古傳ニ其名ノミ存スルヲ以テ假
リニ日本内地ノ島々ニ配當シテ其古事ヲ存セントシタルヨリ甲家
ニハ何々ノ國ニ何々ノ名ヲ配シ乙家ニハ又他ノ名ニ配スル等ノコ
トヨリ終ニ順序ヲ亂スコトナリ加フルニ書紀撰集ノ時ニ至リテハ專
ラ漢風ニ學ブノ時ナレバ國土ニ太古ノ名ノ如キ何別何比賣ナド云
フハ最モ漢風ニハ不當ノ名ナレバユレテ略カレタルナラント思ハ
ル、ナリ然ルニ幸ヒニ古事記ニ太古ノ國名ノ殘リタルハ歎ハシキ

限リト云フベシ○サテ次々太古ノ國名ノ本語ヲ解シテ其所在ヲ考
 フベキイナレ共コレハ到底今日其所在ヲ日本人ノミノ講究ニテ定
 ムベキモノニ非ズ他日吾太古傳説ノ眞理ヲ洋人ニ傳ヘ内外人相共
 ニ萬國ノ中何レカ此名ニ當ル本國ナリト云フヲ定ムベキナリ方
 今六大洲ノ外ニ未發見ノ國アルカ又ハ各國共連絡シタル爲メ大洲
 ノ區域入り亂レタルカ此ハ今考フベキ限リニ非ズ故ニ其國名ノ語
 釋ヲ加フルモ今日ニテハ其當ヲ得タルモノニ非レハ今ハ此國名ノ
 亦名ノ語解ハ暫ク論セザルナリ語解ヲ知ラント欲スル人ハ先哲ノ
 傳ニヨリテ見ルベシ

○或人問フ御説明ニテ國名ノ新古判然タルヲ了解セリ就テ兩神
 ノ生ミ玉ヘル國ハ萬國ナルハ道理ニ於テ疑フベカラザルモノト信
 ズ現今日本ノ内地各島ニ此名ヲ配シタルハ全ク古事ヲ存センガ爲
 メナルニハ必ズ然ルベク存ズレ共今萬國ノ内何レカ此名ノ國ニ當
 ルト云フヲ考フルニ何か參考トスベキ御説ハ無キヤ
 ○答フ御質問ノ義ハ聊カ考ヘ無キニモ非ザレ共到底此事ノ穿鑿ハ
 地球上萬國ノ地理古代ノ地名或ハ一地方ノ地名等委シキモノアル

ニ非ザレバ知レ難キノミナラズ異言ノ國ノナレバ其儘ノ名モ存
 セザルベク然レ共他日ハ必ズ知ルベキノ日無キニ非ザルベクレ共
 即今ニテハ先ツ六ツケ數メナラント存ズレ共コレヲ考フルニハ三
 ツノ邊者アリ其一ツハ第一ニ生マセラレタル國ノ長子ハ種之族別
 島則チ吾日本トシテ地球上萬國班列ノ順序ヲ以テ推スハ一ツノ邊
 者ナリ其第二ニハ古事記ニ傳ハル國名ノ亦名ヲ本トシテトヘ萬
 國言語ヲ異ニスト雖ハ太古ヨリ傳フル名ニハ必ズ思ヒヨルベキト
 無キニ非ザルベシコレ又二ツノ邊者ナリ其第三ニハ八國六輪トモ
 何別何比賣ト云フ如ク皆男性女性ヲ備ヘタルモノナレバ男性ノ名
 アル國土ハ必ズ男性強キガ故ニ人間ノミナラズ能ノ動物ヨリシテ
 植物ニ至ルマテ男性特ニ強キ道理ナリ又コレニ反レテ女性ノ名アル
 國土ハ女性強キ道理アリ然レ共男女ハ素ト男強女弱タルヘキ造
 化ノ原則ナレバトヒ女性ノ國ニ生ル、ト雖ハ幾分オ男性ノ方強
 キハ原則ノ然ラシムル所ナレ共女性ノ國ハ其國土ノ原性ヨリシテ
 女性ヲ助クルト多カルヘキ理リアレバ男女同權ト云フ知キ傾向無
 キニモ非ザルヘシ方今西洋ヨリ吾國ニ男女同權ノ論ヲ輸入ス其論

ノ最モ盛ンナルハ何レノ國ナリヤモト此論ハ何レノ國ヨリ發論シタルモノナルカ男子ヨリ女ヲ愛スル情ヨリシテ發シタルカ又女人自ラヨリ發シタルカ此男女強弱ノ考案ハ此兩神生産ノ原國ヲ考フルニ最モ參考トスヘキナリ其外禽獸神木ノ類ニ至ル迄多少男性ノ國ト女性ノ國トハ別アルヘケレハ是等モ考ヘ合セテ他日必ズ兩神ノ生マセフレタル八國六島ノ原國ヲ普ク地球上ノ萬國ニ求ムヘキナリ然ル後チ始メテ長子タル種之差別島則チ吾日本チシテ諸國ノ兄國宗國タルノ實ヲ舉グヘキモノナリ○サテ前ノ參考ヲ以テ詳究スルニ日本ノ男性國ナルハ種之差別島ト云フ男名ニテ明カナルヲナルガ今考フルニ印度ハ女性ノ國ニハ非サルカト思ハル、ナリ如何トナレバ彼國ハ月支トモ名ヅケテ何事モ陰々タルヲ多ク特ニ釋迦出世以前ニハ女性最モ強ク婦トシテ男ヲ殺スモノ舉テ數フヘカラザルニ至リシ程ノヲモアリシト平田先哲モ論フ置カレタルヲナルガ其間ニ有テ釋氏ガ教ヲ開キシ故ニヤ女人成佛ハ成リ難シナドノ説ヲ以テ女人チシテ生レ乍ラノ大罪人ノ如ク言ヒ悉ラシメ強ク女人チ拗キタリシチ思フニ必ズ彼ノ國ハ何比賣トカ云フ女性ノ國

ナラント思ハル、ナリ然レ共印度ハ支那ト一連絡ノ國ナレバ或ハ二名島ニ當リテ支那ハ建依別印度ハ愛比賣ナルヤモ知ルヘカラズ順序モ如此思ハル、ナリ然ルニ吾國ハ男性ノ國ニシテ女人ハ柔ヨリ柔弱ナルガ上ニ中古如此女人チ拗ク所ノ佛法ヲ輸入シ其レガ爲メニ柔弱ナル女チシテ益々柔弱ナラシメタルモノ、如シ如何トナレバ吾歴史上佛法渡來前後チ以テ女ノ強弱ニ關係チ及ボシタルモノ、如シコレチ以テ考フル時ハ全ク天竺ハ女性ノ國ナルヘク然レ共教法ハ終ニ第二ノ天性トナリ固有ノ天性チモ變ズル程ノ勢ヒアルモノナルガ故ニ佛教ノ進シク女人チ拗キシチ以テ終ニ女人ハ柔弱トナリ印度ニテモ其性チ遺傳シ今ニ習慣改マラザルニ至リシモ計ルヘカラズ吾國モ亦千餘年ノ久シキ益々女弱ノ習慣チ遺シ今日ニ至テ改マラザルハ大ニ國勢ニ關スル所アレバ教法ノ弊習チ改メ天然ノ性ニ復サシメザルヘカラズ然レ共方今西洋ヨリ輸入シタル男女同權ノ論モ亦造化ノ原則ニ違フ所アレバ日本固有ノ本性チ以テコレチ養フヘシ日本人チシテ日本固有ノ本性チ養ハシメント欲スレハ神代固有ノ教法ニ非サレハ行ハルベカラズ今ニシテ教法チ

撰ハズンハ再ビ又洋教ノ爲メ固有ノ本性ヲ變テ子孫ニ遺傳スル
ニ至ルベシコレ教法ノ國体ヲ變化スル所以ナレハ生テ日本ノ國土
ニ稟ケタルモノ深ク茲ニ意ヲ注カザルヘカテザルモノナリ
○ヤテ是迄講述シタル所ニテ開闢第一期ノ講説ハ粗畢リタレ共感
之狹別島ヲ日本ナリト云フヲ始メテ論スル所ナルガ故ニ未タ其意
ヲ盡サレ共第二期ノ卷首ニ於テ關係ノ多ケレハ第二期卷首ノ
講究ニ再ビコレヲ講述スルヲ俟タルヘシ尙茲ニ今一言申置ヘキ
アリ余ガ一家説ニ於テ神代ヲ別チ五期トスルモノハ方今世ニ所謂
十九世紀ナド唱フル後世界ノ小世紀ニ非ス造化大期運ノ一變スル
ヲ以テコレヲ別ツガ故ニ方今ノ小世紀ニ對スレハ前世界ノ大世紀
ヲ云ヘルニテ神典上ノ期運ナレハ更ニ時流ノ世紀ニ相關セサルモ
ノナリ此世期ヲ別ツ所以ハ全ク一家ノ私論ニ非ス天地開闢ノ始メ
ヨリ神武天皇ノ御東証前神代ト云ヘル間ハ造化ノ神業ニ五度ビノ
大變遷アリテ全ク今日アルヲ致シタルモノニテ後世ノ世期ヲ論ス
ルモノト違ヒ天地ノ一大變革ノ期運ニ當ル世期ヲ云フナリ譬ヘハ
神代ノ五世期ハ五色ヲ分ツガ如ク判然タルモノニテ今茲ニ其然ル

所以ヲ論ズレハ先ツ第一期造化ノ期運ハ伊邪那岐伊邪那美命天降
リ玉ヒシ後ハ只物質凝固ノ世記ニテ修理固成ノ神勅ノ如ク國土ヲ
生産シ大地ヲ凝固ナラシムル神業ノ一点ニシテ更ニ他ニ神人ハ素
ヨリ萬物ヲ成シ玉フヲハアラザルナリコレニ反シテ第二期ノ後ニ
至リテハ造化ノ期運ハ變化玄妙ノ運ニ當リテ体生奇成ノ神出顯多
ク第一期ニ比スレハ一ツトシテ相似タルヲ無キ程ノ變遷ナリ又第
二期ト第三期造化ノ期運ヲ窺ヒ奉ルニ第二期ニ於テハ御氣吹ニヨ
リテ奇成ノ神ヲ成シ玉ヒ兩眼ヲ洗ヒテ天地主宰ノ神ヲ成シマセル
如キ其玄妙奉テ教フヘカテザレ共第三期ヨリ後ニ至リテハ神代ハ
素ヨリ今日ニ至ル迄此地球ノ上ニ於テ只ニ一柱ノ神タリトモ奇成
シ玉フヲハ無キモノニテ造化大期運ノ改マリタルヲ火ヲ見ルヨリ
明カナルモノナリ第四期第五期モ亦造化自然ノ變遷ナレハ此次々
ノ講究ヲ聞カレナハ其變遷ノ判然タルヲ實ニ驚愕スベキ程ノモノ
ナリ此事ハ未ダ同學者ノ深ク意ヲ用ヒザル所ニテ他ニ此論アルヲ
聞カズコレ余ガ一家説ニテ神代ノ世期ヲ五大世期ニ分ツ所以ナリ
吾神代ノ神傳ナルモノハ如此迄明瞭ナル古傳ナレ共單ニ其文ヲ見

ル時ハ怪談ノ如キ感アルモノナリ又小兒ノ戯レノ如ク看過スル所
モ少カテザレハ深ク其蘊奥ヲ窺フニ至レハ是迄モ講ヲタル如ク無
味中ニ妙味ヲ含ミタルモノニテ卷中小兒ノ戯レノ如キモノニ至テ
特ニ妙ナル深意ヲ傳ヘタルモノナルハ伊邪那岐伊邪那美命兩神
ノ神体ヨリ地球上ニ散在ノ國土ガ生レタリト云フガ如キ奇談トモ
怪談トモ後世人智ノ測リ知ルベカラザル程ノ傳ヘニテモ此レヲ道
理ニ訴ヘテカ、ル深意アルヲ以テ推テ知ルベキナリ如斯後世人智
ノ思ヒヨラザル程ノ傳ヘアルコソ人爲ナシレタル証ニシテ神傳ニ
出ルコ非ズソハ人造作爲ノ企テ及テ限リニ非サルハ余ガ第一期
ノ講義ノミ聞カル、人ト雖粗窺ヒ知ラル、ナラシ然レ共此一期
ノ講述ハ造化ノ氣運單ニ物質凝固ナルヲ以テ未ダ玄妙ノ幽理ハ講
ヲガタシ第二期ヨリ第三期ニ至リテハ造化分擔ノ神祇神德ノ廣大
ナルヲ驚クベキ程ノナレハ序ヲ追フテ講ズルヲ俟チ其然ル所以
ヲ知ラルベシ

○或人曰ク第一期ノ御講述拜聽終リテ大ニ發明スル所アリ然ルニ
如此妙理ヲ含ミタル古傳ノ吾國ニ傳ハリタルハ古事記序文ニテ粗

之ヲ知レリ然レ共初學ノ人ニ至テハ古事記ハ單ニ一婦人ノ傳語ス
ル所ノモノナリトスルガ如シ故ニ聊カ此傳ヲ今日ニ存ズル所以ヲ
知ラシメンガ爲メ此講述ニ序文ノ講義ヲ加ヘラレタル方然ルベク
存ズ故ニ之レヲ忠告ス

○答フ御注意拜謝ノ至リナリ然レ共余ガ一家ノ講究法ハ神代ヲ講
ヲ畢リシ後古事記ノ序文ヲ講ズルヲ常トス然ラザレハ如何ニ辨ス
ルトモ如此天地分判ノ太古ヨリノ正シク傳ハルベキ謂ハレ無
キモノナラント云フ疑点ハ多少初學ノ免カルベカラザルモノナリ
然ルニ此講述ヲ第五期迄講ヲ畢リシ後古事記ノ序文ヲ本トシテ
此神傳ノ今日ニ傳ハリタル所以ヲ講ズレハ多言ヲ用ヒズシテ自ラ
感ズルヲ速カナリ故ニ余ガ一家法序文ヲ卷末ニ講ズルヲ以テ常ト
スルナリ

天地組織之原理卷之第一終

擔當者謹白

本卷講述ノ筆記印刷等諸般ノ費ヲ助ケラレタル
諸氏ノ姓名左ノ如シ

- 美作國大庭郡米來村 福島 克正 君
- 全 國真島郡下方村 甲斐 駒市 君
- 全 國全 池田 那二川村 政維 君
- 全 國全 穴戸 那全 村 定十郎 君
- 全 國全 穴戸 那全 村 喜代太郎 君
- 全 國大庭郡神湯村 田中 喜直 君

明治二十三年十月十八日印刷
明治二十三年十一月一日出版

正價金五拾錢

著述者兼
發行者

岡山縣士族

美 甘 政 和

美作國東南條郡東一宮村
大字東一宮百三番邸



印刷者

岡山縣平民

松 岡 重 義

美作國東南條郡東一宮村
大字東一宮百一番邸



印刷所

平岡活版所

美作國西北條郡津山町
大字西今町七番邸



版權登錄

發行所

神典研究會事務所

美作國西北條郡津山町
大字田町百八十六番邸

3
1
5

